JUMP COMICS
STEEL BALL RUN
スティール・ボール・ラン
VOL.16
いともたやすく行われるえげつない行為
荒木飛呂彦
集英社
9784088745749
1929979004002
ISBN978-4-08-874574-9
C9979 ¥400E
定価 本体400円十税
雑誌 43087−74
ゲティスバーグで遺体を全て大統領に奪われてしまったジャイロ達は、落胆のまま7th.STAGEをゴールした。一方、ルーシーを護衛するため、大統領のいる庁舎へ向かったウェカピポ。そこで待ち受けていた因縁の人物とは!?
ジャンプ・コミックス

JUMP COMICS

チラリ

荒木飛呂彦

ホラー映画が3度の飯より大好きで。B級、チープなほど大好きで、敬意を表して観るし、世界観は心が落ち着く。

だが、ホラー演出的にどうしても許せない事がいくつかある。（その①）携帯かけようとしたら圏外。もしくはバッテリー切れ。（その②）弾丸が少ないっつーのに、やたら撃ちまくりやがって、肝心な時に弾丸切れ。（その③）主人公の背後へカメラがゆっくり寄って行って、主人公がふり返ると誰もいない。なにもいないならそーゆーカメラやるなぁー。ゆ、許せん。滝に打たれて出直して来い。

●ウルトラジャンプ・H20年5月号～7月号掲載分収録

LOVE

J・C

JUMP COMICS

ジョジョの奇妙な冒険 Part7

STEEL BALL RUN

いともたやすく行われる えげつない行為

vol.16

ARAKI HIROHIKO

& LUCKY LAND COMMUNICATIONS

"STEEL BALL RUN" RACE

1st.STAGE、1着でゴールするも走行妨害によるペナルティで1位を逃したジャイロは、勝利を確実にする為、ジョニィと協力関係を結ぶ事に。続く2nd.STAGE、アリゾナ砂漠を突っ切るジャイロ達の前に突如テロリスト達が立ちはだかった！
戦いの末、彼等の狙いがレース中、ジョニィの左腕に取り憑いた『ミイラ化した左腕』である事を知る。
なんとＳＢＲレースは、大統領の陰謀により、アメリカ中に散らばったある人物の遺体を集める為のレースであった！
その遺体を全て集めた者は真の『力』と『永遠の王国』を手にする事が出来るという…。遺体の力でスタンド能力を身につけたジョニィは、その力に希望を感じ、残る遺体を集める事を決意。遺体争奪戦が幕を明けた！
7th.STAGE終盤のゲティスバーグで、ジャイロ達はリタイアしたはずのH・Pを目撃。彼女に奪われた遺体を取り戻すべく後を追うが、辿り着いた館で、大統領の刺客アクセル・ROが待ち受けていた！ 過去に犯した罪をおっかぶせて支配する能力により、すでに倒されていたH・P。遺体の一部『左腕部』、『脊椎部』、『心臓部』、『両耳部』は奪われ、新たな遺体『胴体部』までもが揃っていた！
敵スタンドのかつてない能力で、ジャイロ達もまた過去の罪に捕われ、『脊椎の一部』、『両脚部』を奪われたジョニィは絶体絶命の状況に。だが、その時、背後に一瞬現れた『謎の男』の助言で、ジョニィは新たな能力に目覚める！ そして形勢を逆転し、アクセル・ROを追い詰めるも…、突如現れた大統領に全ての遺体を持ち去られてしまった！

全行程中にニューヨークを含め9ヵ所のチェックポイントを設定。そこでレース順位、走行タイム、不正行為を確認する。そして各チェックポイント間のレースを『STAGE』と呼び、STAGEごとにトップ通過者には賞金とタイムボーナスが与えられる！

『スティール・ボール・ラン』レースとは
太平洋『サンディエゴ』ビーチをスタートし
ゴールを『ニューヨーク』とする
人類史上初の乗馬による北米大陸横断レースである！
総距離約6,000km 優勝賞金5千万ドル!!(60億円)
世界各国から屈強の冒険者達が集い、
その数は3,600人を超えた！

そして1890年9月25日 午前10時00分
ついに世紀のレースはスタートした！

ジャイロ・ツェペリ

ネアポリス王国の法務官。不思議な鉄球を、自在に操る特殊能力を持つ。国家叛逆罪で捕まった幼い少年・マルコの無罪を信じ、彼を救う手段である「国王の恩赦」を得る為、レースに参加。

ジョニィ・ジョースター

元天才騎手だが、慢心から半身不随となる。ジャイロの鉄球の力に希望を見出し、秘密を知る為、レースに参加。

ファニー・ヴァレンタイン

第23代アメリカ合衆国大統領。ＳＢＲレースを利用して、遺体を集めようとしている。ジャイロ達が遺体の一部を所有している事を知り、テロリストを送り込む。「眼球」、「頭」以外の全ての遺体を持つ。

ホット・パンツ

遺体を集める修道女。遺体をすべて揃えれば、過去の過ちを許されると思っている。

ディエゴ・ブランドー

通称ディオ。イギリス下層階級出身の天才騎手。ＳＢＲレースに優勝し、栄光と権力を手に入れる為に参加。遺体の一部「左眼」を持つ。

ルーシー・スティール

スティールを支える妻。夫を「よちよち」となだめる彼女は弱冠14歳!? 遺体の一部「右眼」を持つ。

スティーブン・スティール

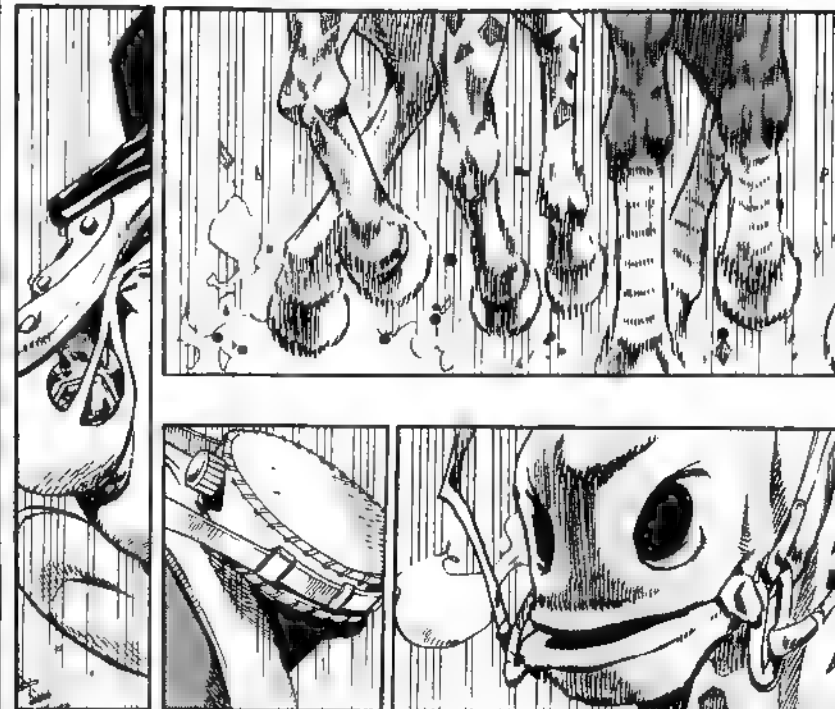
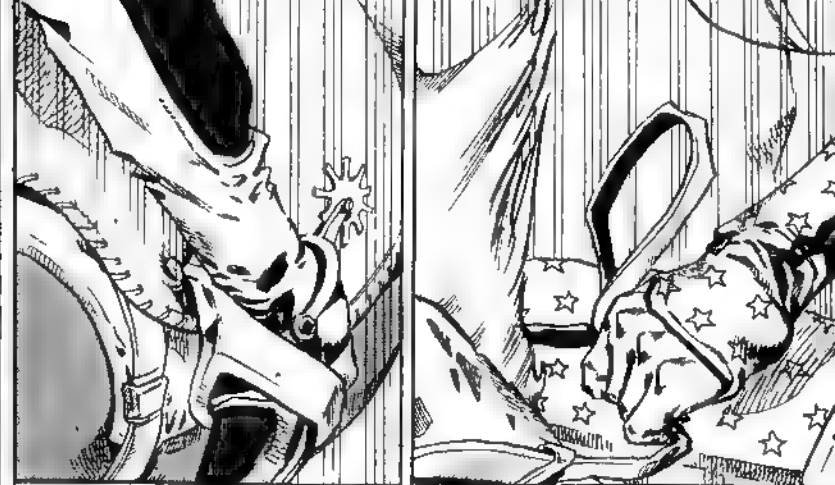
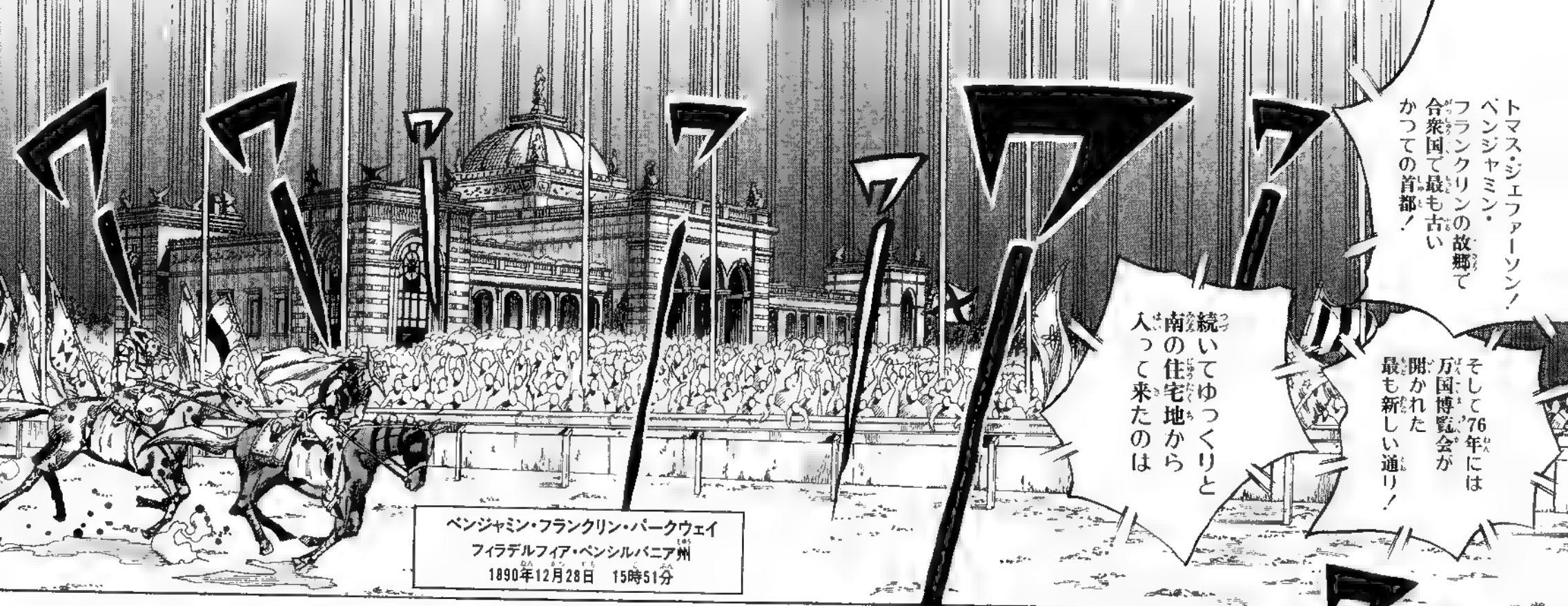
40年のキャリアを持つプロモーター。ＳＢＲの主催者。

STEEL BALL RUN

vol.16
CONTENTS

いともたやすく行われる えげつない行為

#60
ボース・サイド・ナウ
その①

バカラッ
バカラッ
パカラ
パカラ

トマス・ジェファーソン！
ベンジャミン・フランクリンの故郷で
合衆国で最も古いかつての首都！

そして76年には万国博覧会が開かれた最も新しい通り！

続いてゆっくりと南の住宅地から入って来たのは

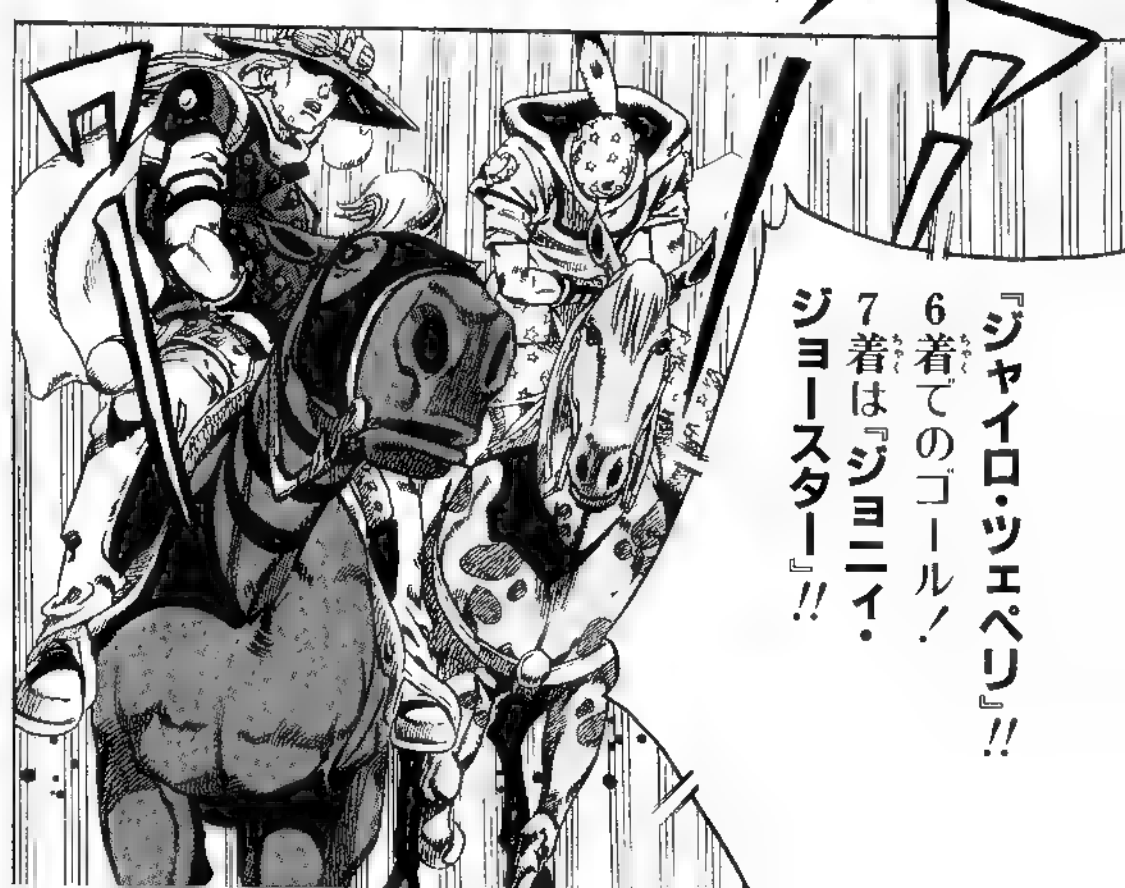
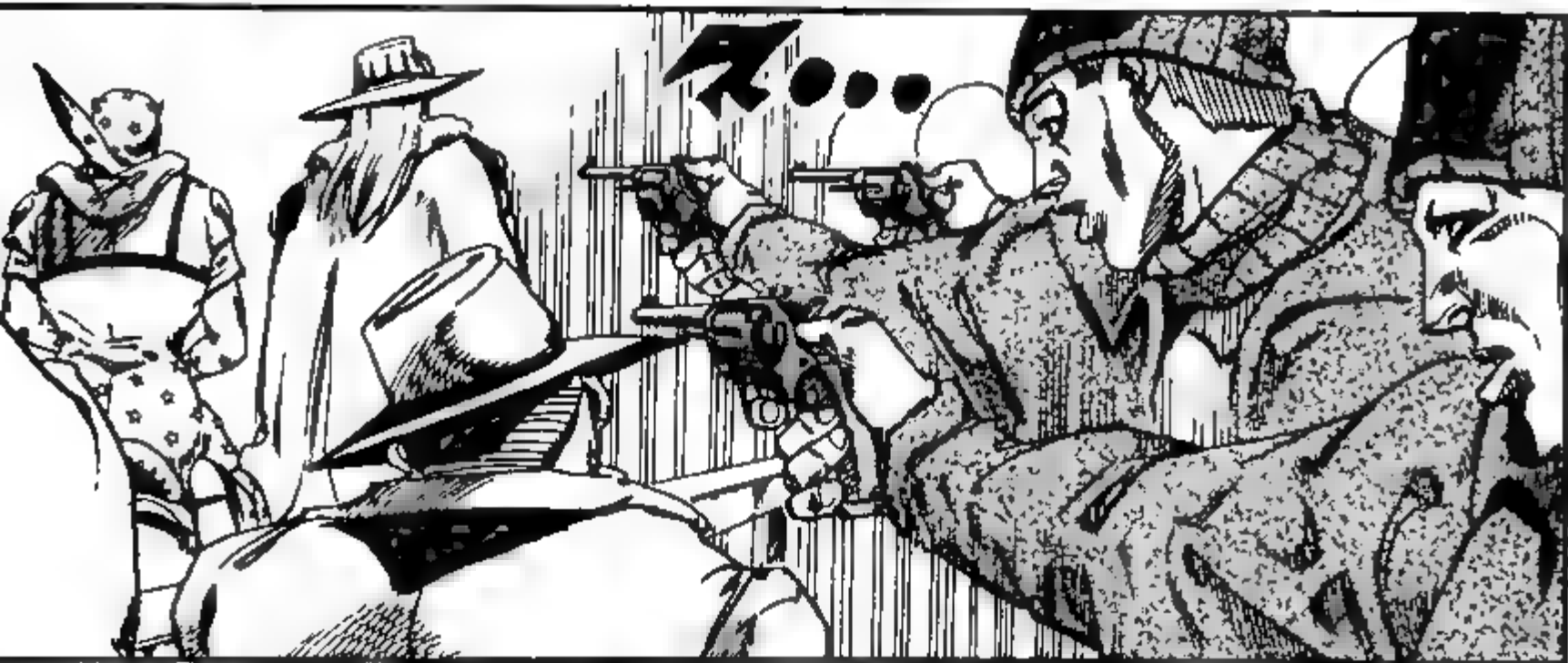
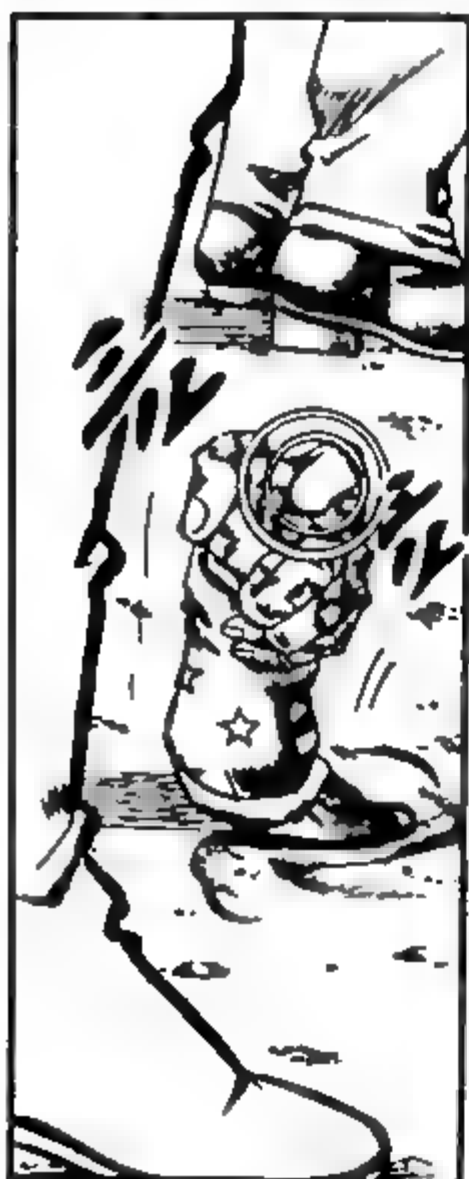
ベンジャミン・フランクリン・パークウェイ
フィラデルフィア・ペンシルバニア州
1890年12月28日　15時51分

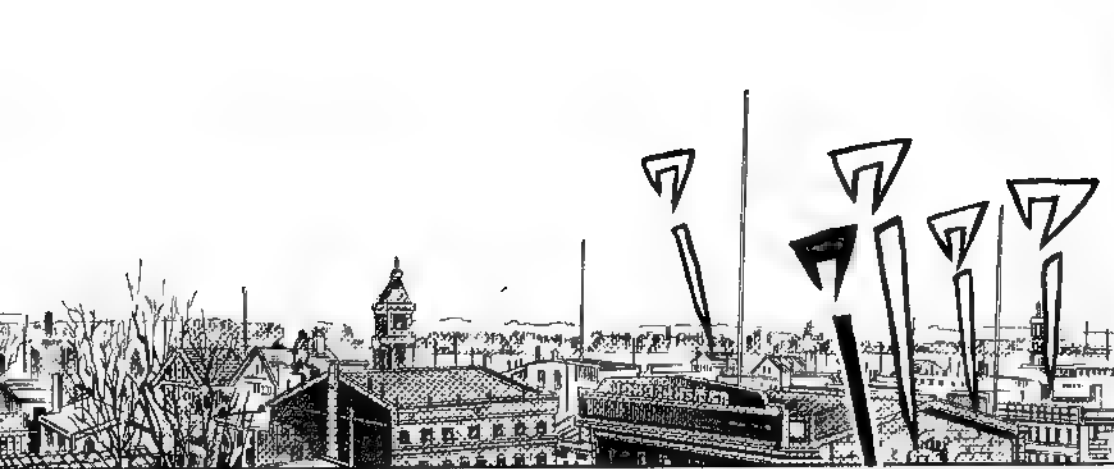
もう ぼくらには「手がかり」は 何もない…
遺体は全て取られた…「脊椎の一部」も…「下半身」も全て…
………
この先の土地のどこかにある残りひとつの「頭部」にはぼくらはもうたどりつけない
どうすればいいんだ……… ジャイロ……
……時間もないこれから先
ぼくはどうすれば…!?

げ

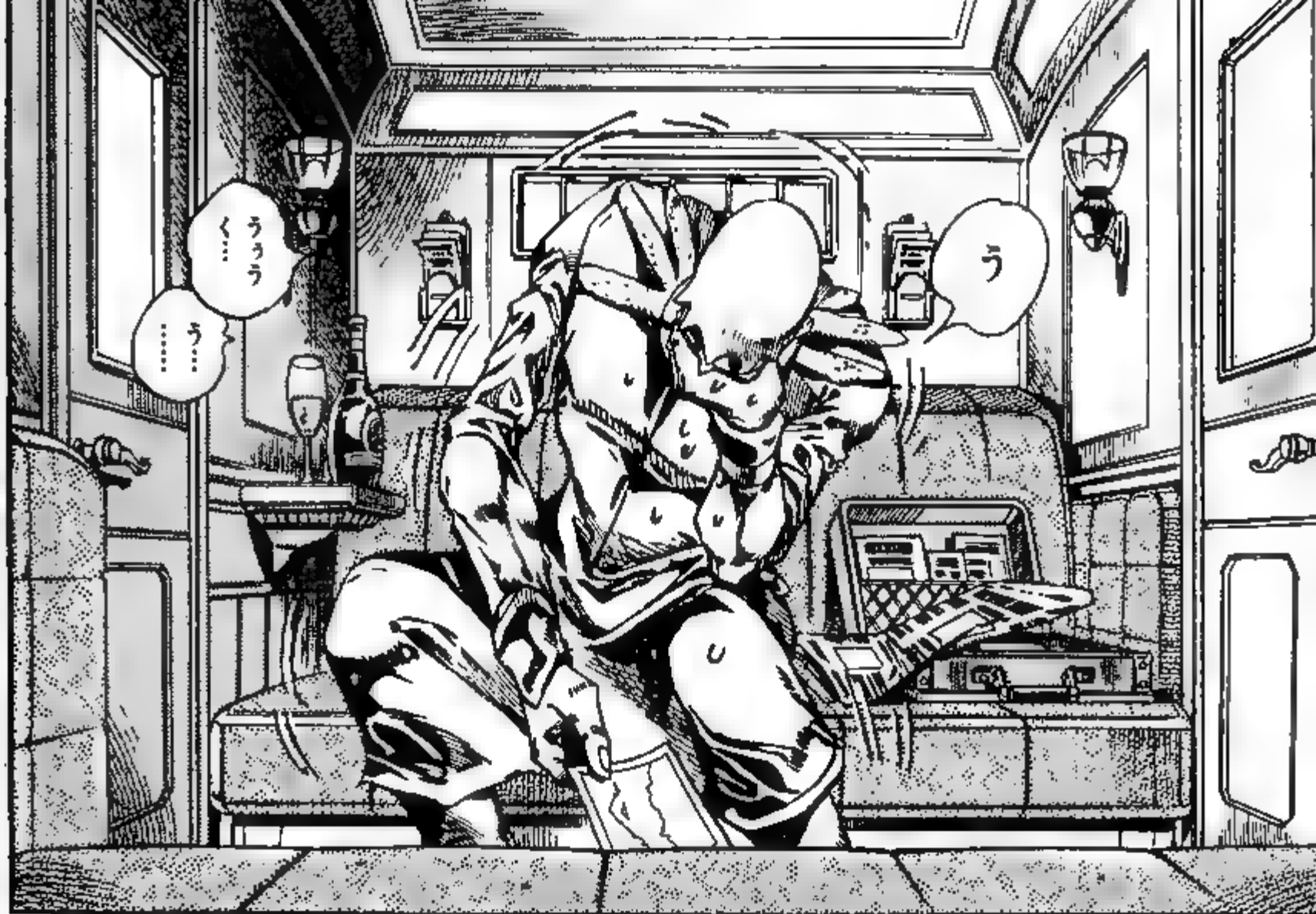
うがあぁあ
!!?
!?

うが
がつ

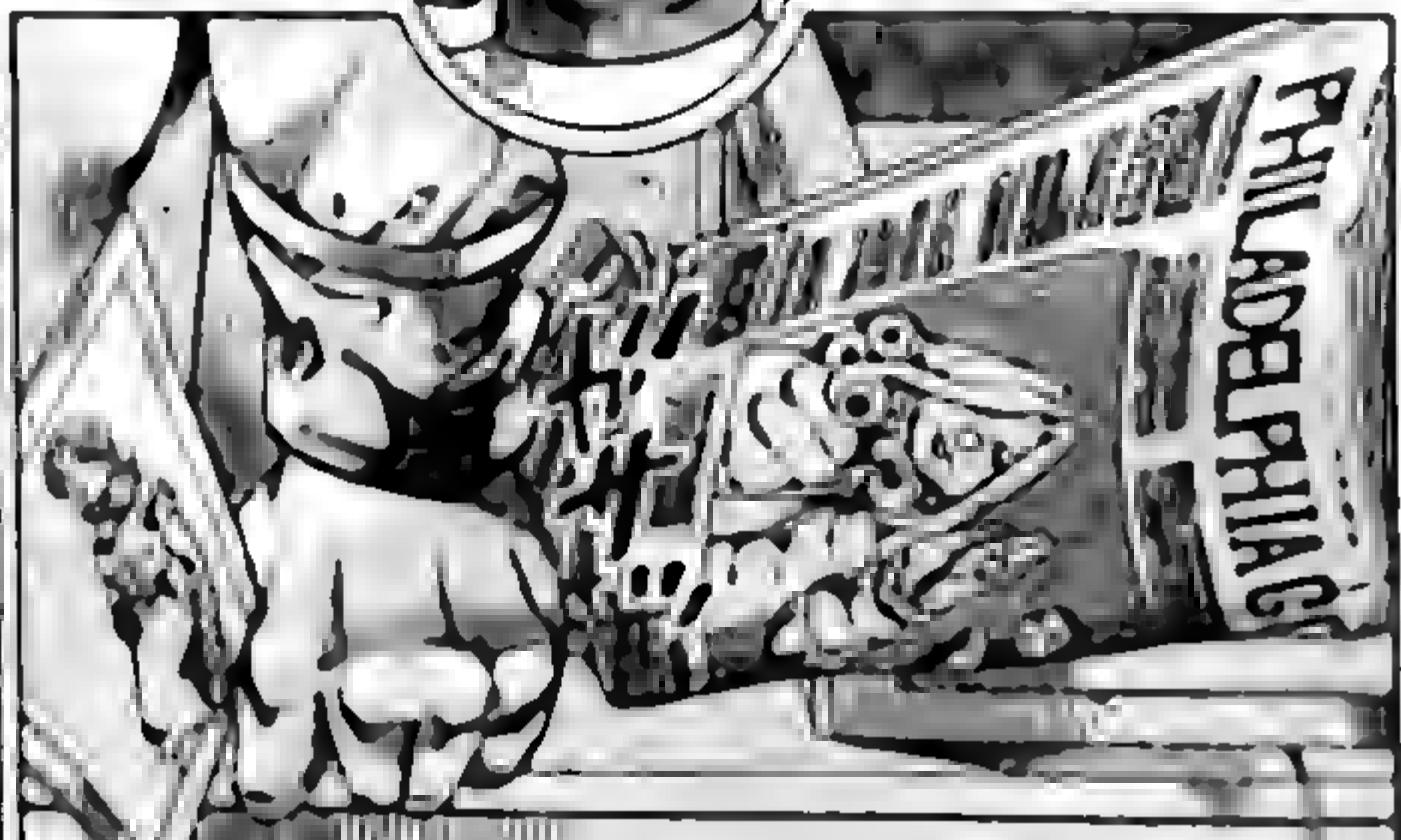
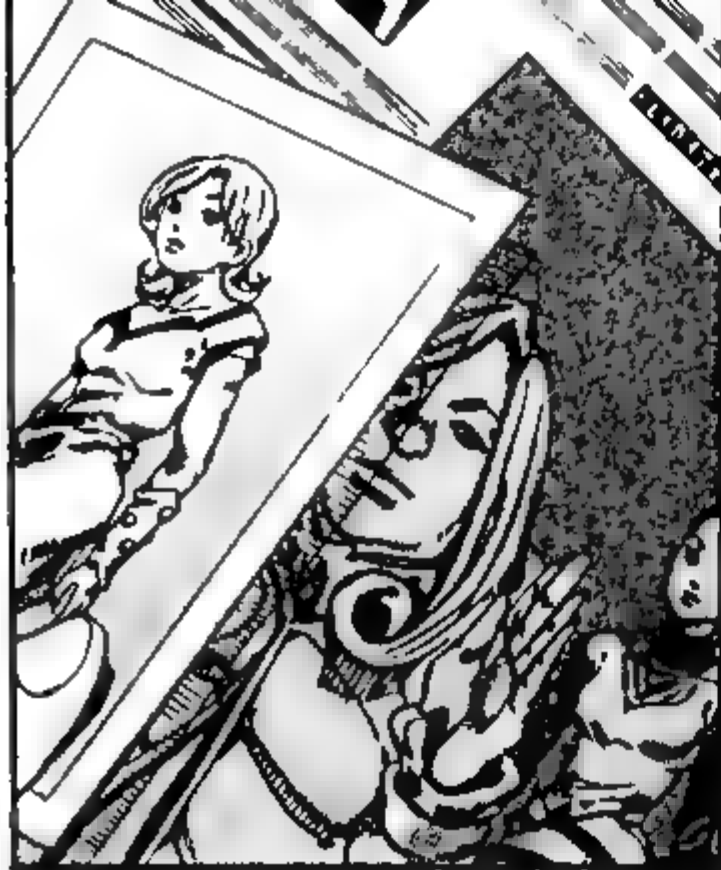
しかも ぼくらは今まで「遺体」を集めるためにこの大陸を走らされていたようなものだ
大統領は ここからはぼくらを始末するだけのために攻撃して命を狙ってくる…

……
あのな ジョニィ…
命があって ゴール出来たって だけで
それだけで 儲けもんと思う べきだぜ
あの時 大統領は オレらにとどめを 刺せなかったんだ …ゲティスバーグで おまえにケガさえ 負わす事が 出来なかった…
そういうのを チャンスと呼ぶべきだ オレらはまだ 見捨てられていない
見ろよ
幸運が舞い込んで いるぜ… あれを… …レースの確定着順表 をよォ…
着
騎手氏名
1
ディエゴ・ブラン
2

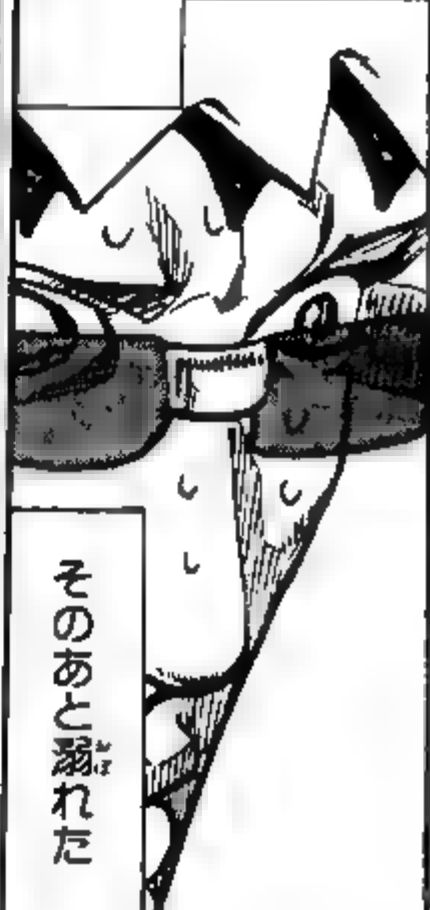
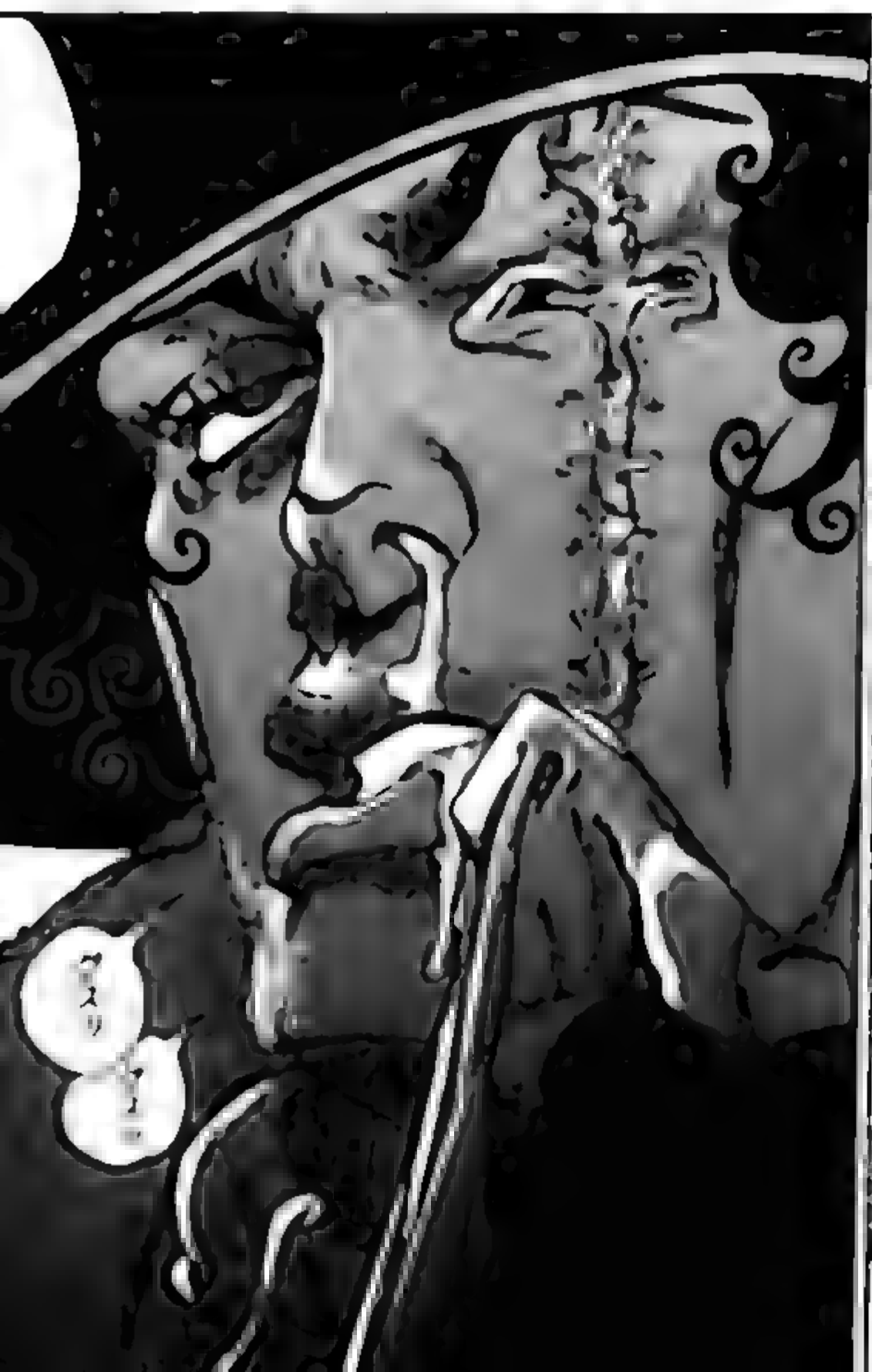
ドドドド
Dioだ
7th. STAGE
順位結果確定表
マキナック海峡→フィラデルフィア(1300km)
騎手氏名 ポイント 時間
1 ディエゴ・ブランドー 100P 21日間と6時間5分11秒
2 ノリスケ・ヒガシカタ 50P
3 ポコロコ 40P
4 スループ・ジョン・B 35P
5 バーバ・ヤーガ 30P
6 ジャイロ・ツェペリ 25P
7 ジョニィ・ジョースター 20P
8
9
10
11
12
13
14
15
嬉しいな……あのクソ野郎!!
復活して来やがってるッ!! 1位でッ!!
総合順位表
1 ポコロコ 313
2 ディエゴ・ブランドー 292 2時
3 ノリスケ・ヒガシカタ 273 1時間
4 ジャイロ・ツェペリ 271 1時間
5 ジョニィ・ジョースター 265 ——
6 スループ・ジョン・B 114 ——
ドドドド

8th. STAGE 『ボース・サイド・ナウ』

フィラデルフィア（ペンシルバニア州）→ ニュージャージー（ニュージャージー州）
走行距離　約140km

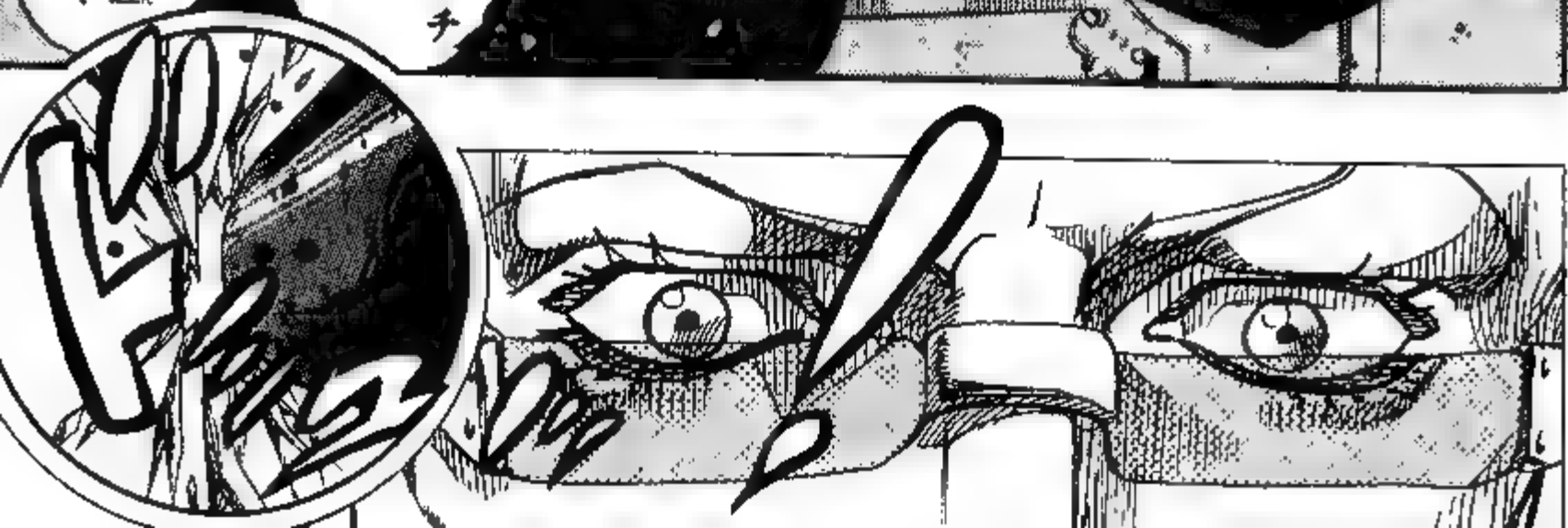
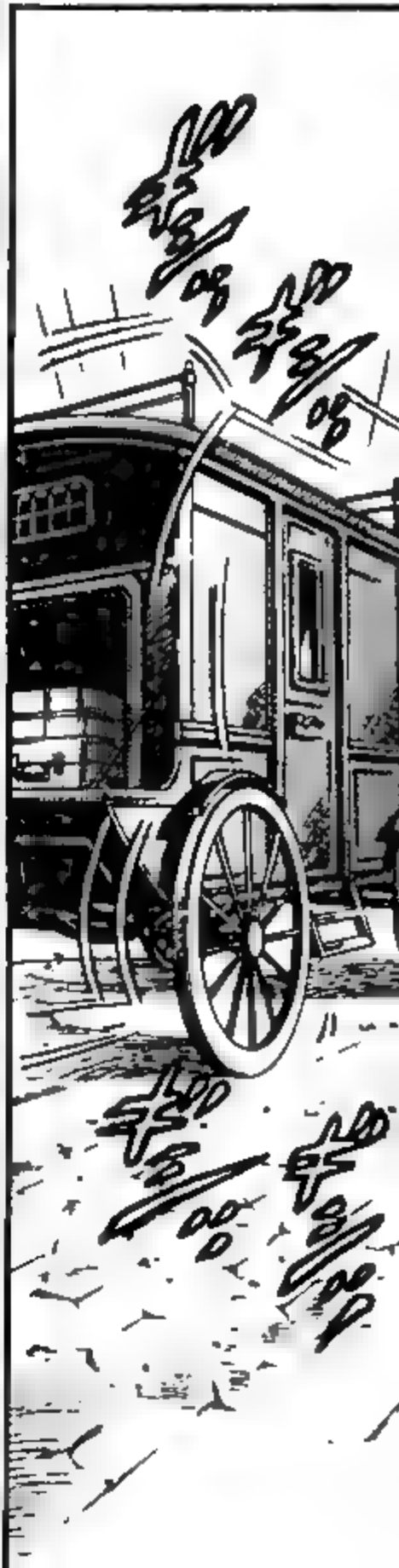
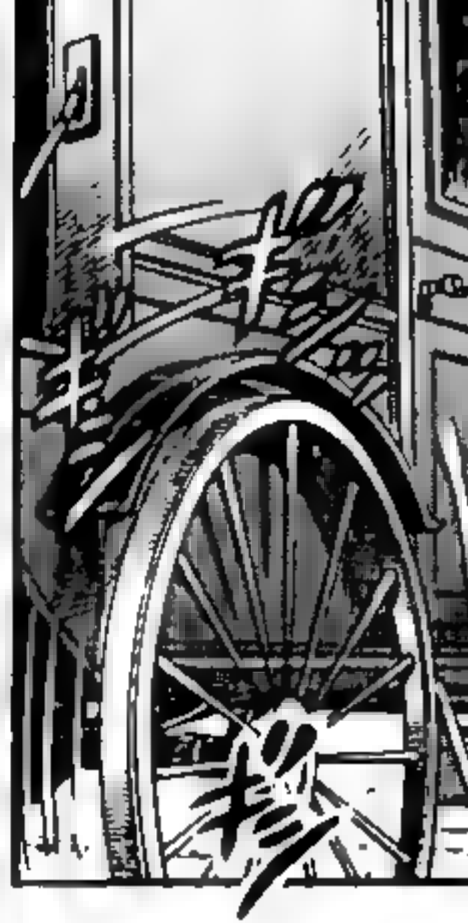
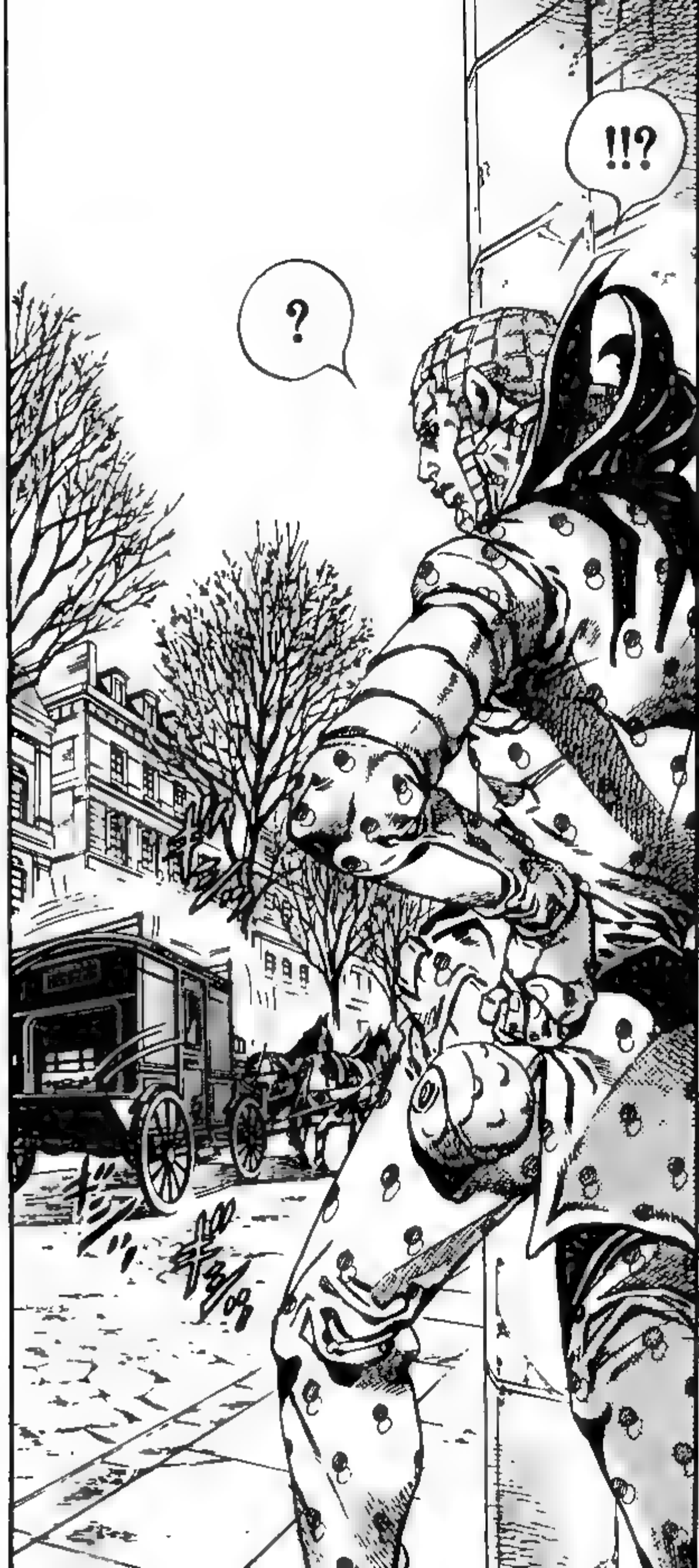
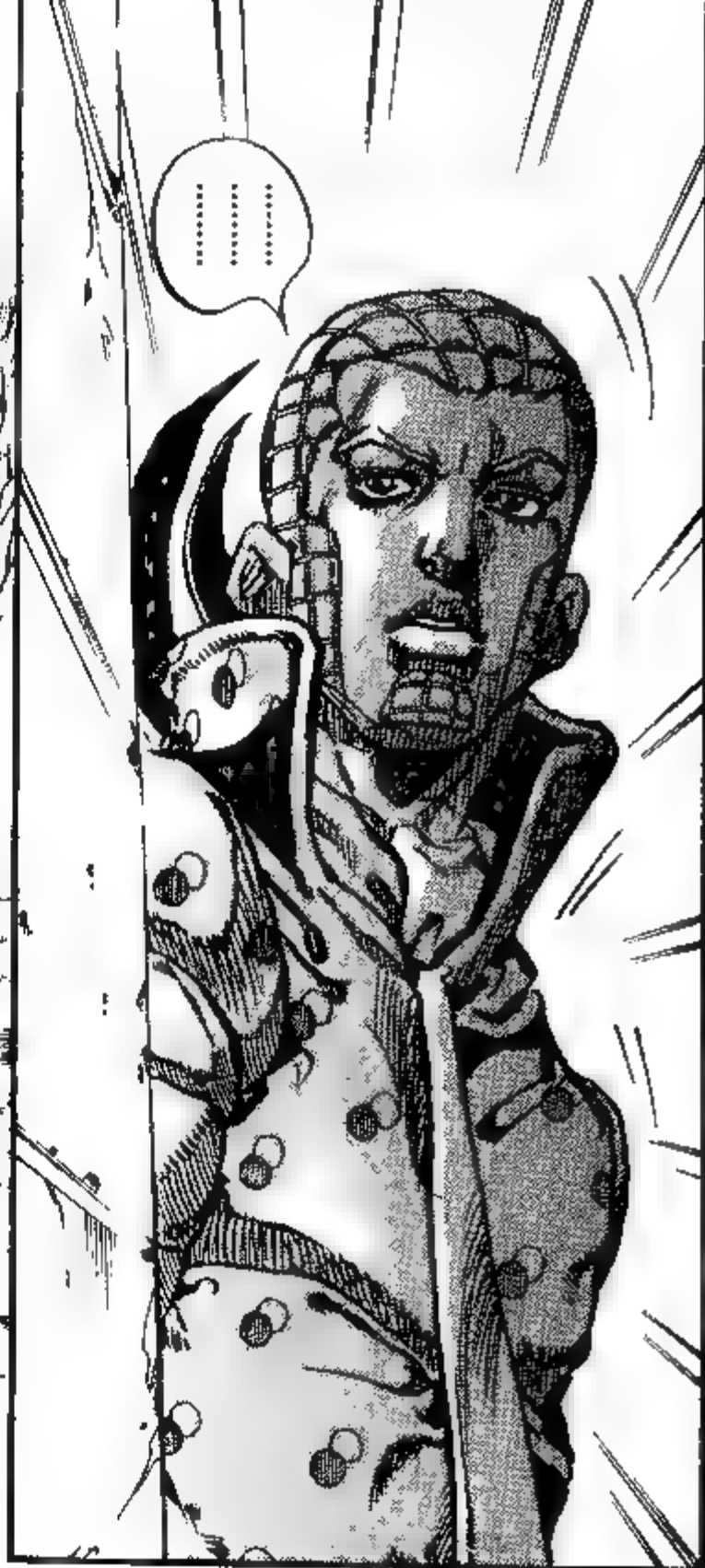
予想日程　2日（そのまま最終9th. STAGE・ニューヨークシティへ突入）
参加人数　52人

う
ううう く…
う… ……
う…
あれは「ルーシーだった」………
どこから見てもわたしの愛するルーシー……
だが…ルーシー本人では決してない…
わたしにはわかる…何か危機がせまっている…死んだ事にして埋葬はしたが…あれは誰か違う女性
だとしたら………死んだのは誰で………私のルーシーは今…どこにいる？

このスティール・ボール・ラン・
その「スタンド」の中に
似せられる「能力」が
だが…
「スタンド使い」という
PHILADELPHIA

……
どうしたの？ レースが心配で眠れないのですか？
うなされていたわ……
軍隊に入ると「」って料理みたいに習うものなのですか？
……
あたし図書館のあと少し散歩して帰ります

シカゴの事実でルーシーに最後に会って別れたというのは……
たしか…「大鉄領夫人」
ゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴ
そのあと溺れた
ガサッ
ビビッ
ビビッ

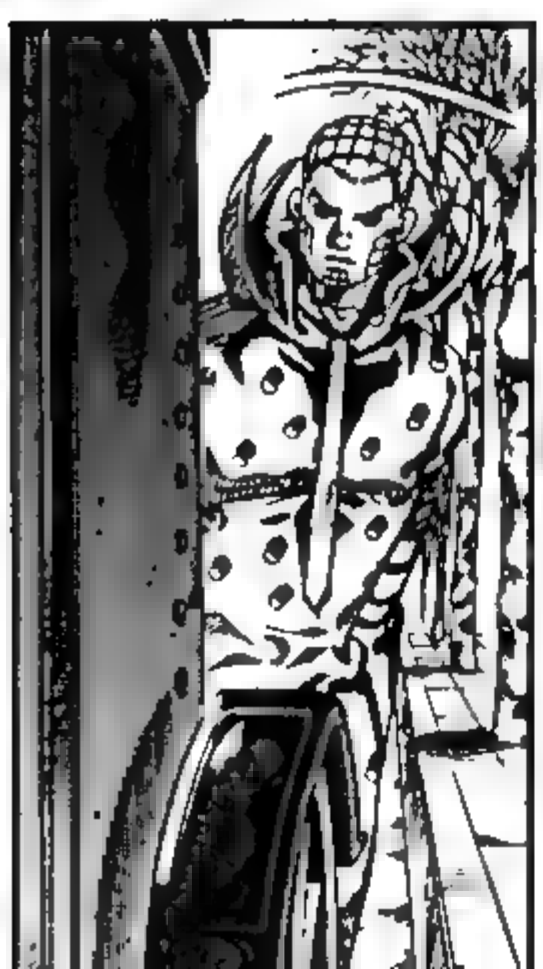
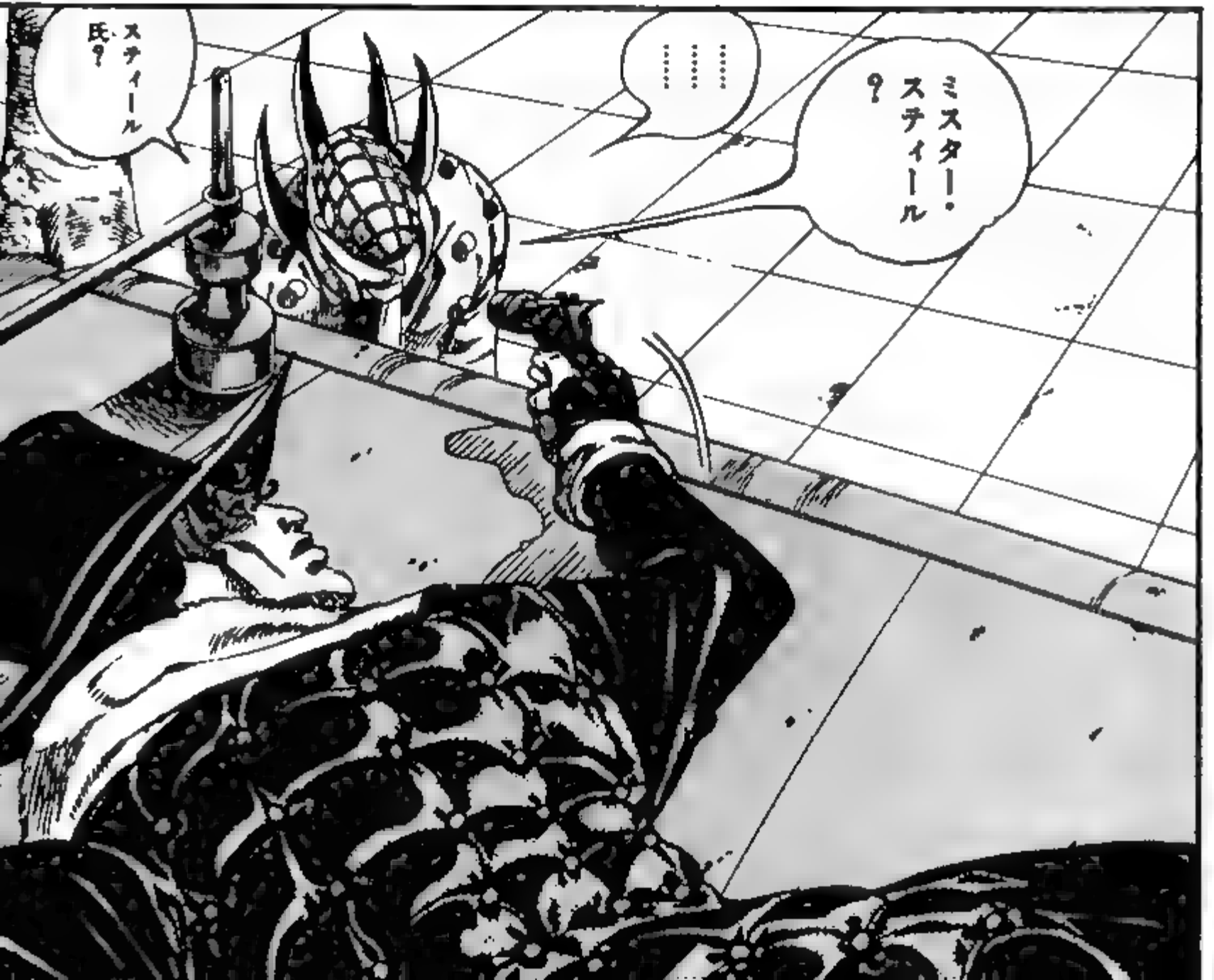
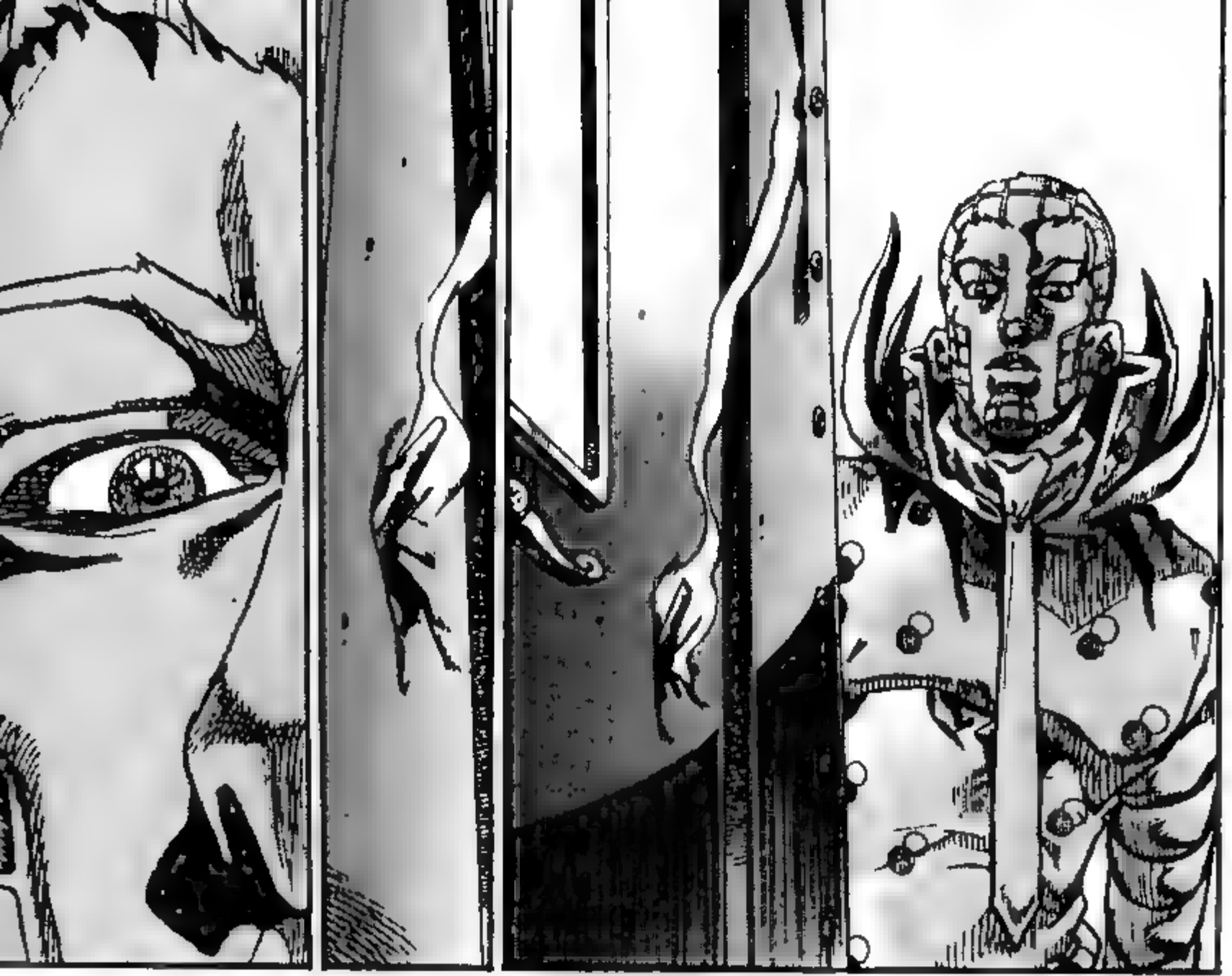
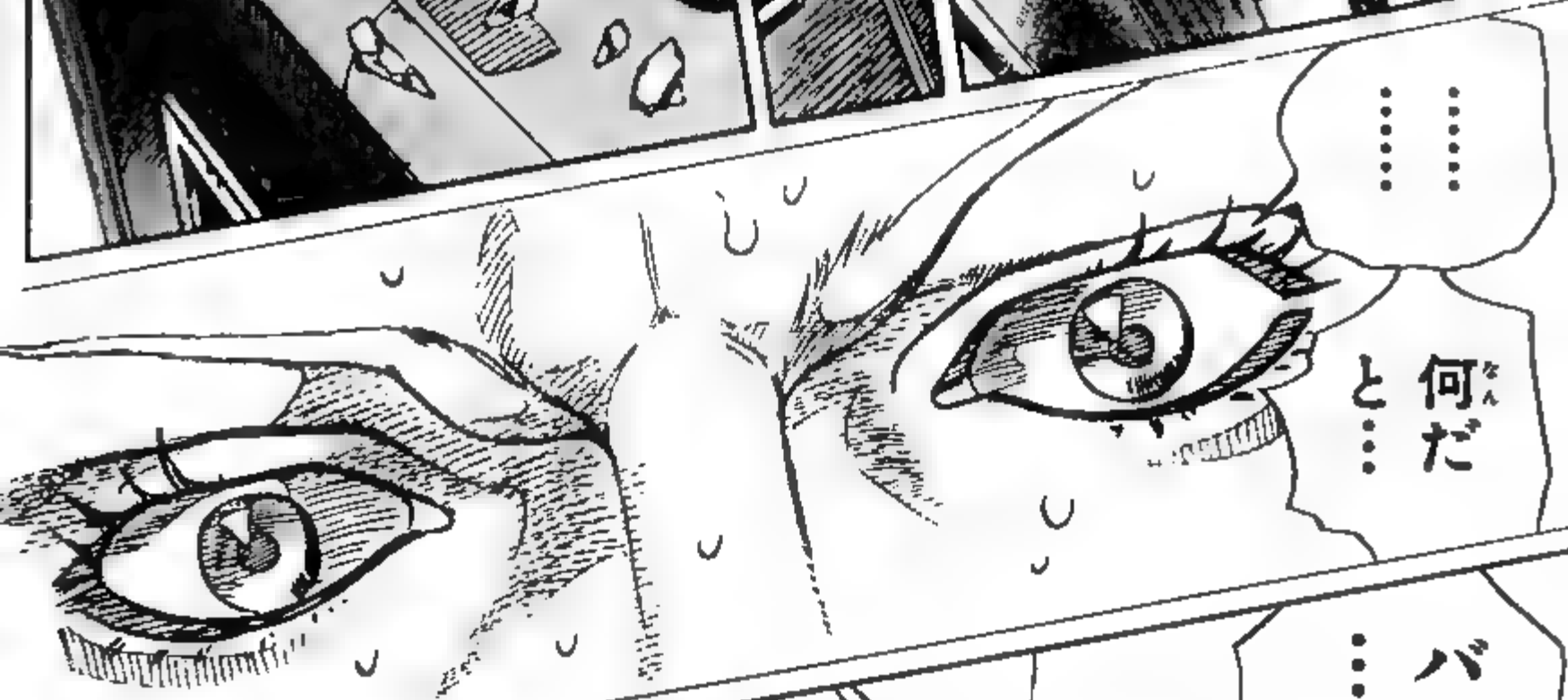
ズズ…
ズリ…
ピタ…!
!!

飛行機がありゃあなぁあああ〜〜〜
よかったんだ
もっと傷を早く手当てできたんだ…
クソも凍る北国に2週間以上もとり残されずによォォ〜〜
偏頭痛の後遺症が残っちまってるしハナ水もヨダレもダラダラだあぁ
あっ
スンません…定規は横向きで頼ンます…そう…遠近感がいまいちつかめなくてね

…………
誰だ？……
わたしに何か用か？
用？
別に用なんか何もないスよぉ……
グス
あんたはもう「用済み」だあぁ
左2センチ
この辺かね…

…………
ジャイロ……
残念な事実だ
………
…「スティール夫人」は
シカゴの河で
事故で死んでいたよ
埋葬された死体も
この目で見て来た…
彼女の護衛はもう
無駄だった
ロヒゲが
剃った
5日前 12月23日
いや…
それはH・Pだ
そういう能力だ…
もっとよく調べてくれ
H・Pはルーシーの事は
決してしゃべらない
だろうが
ルーシーはきっと
大統領のそばに
いるはずだ
何か
裏がある
わかった…
だがオレは
大統領は殺さない…
スティール夫人は全力で護るが
遺体を集めたり
この国とは闘わない

一度 この国の下僕になった身だからな
……それがオレ自身の掟だ

複雑な男だなウェカピポ

だが頼む！
ルーシーは別人の顔をしているだろう
夫のスティール氏はもしかして気づくかもしれない

時間がヤバイっ！
つきとめて救い出せ！

ミスター・スティール？

……

スティール氏？

ドドドドド
まさか………
何だと……？
ドド
ドドド

ドドド
ぶるるッ
ドドド
!!

ドドドド
ううっ くっ
ボガオオオ
うがあ あっ
くそオォッ!!

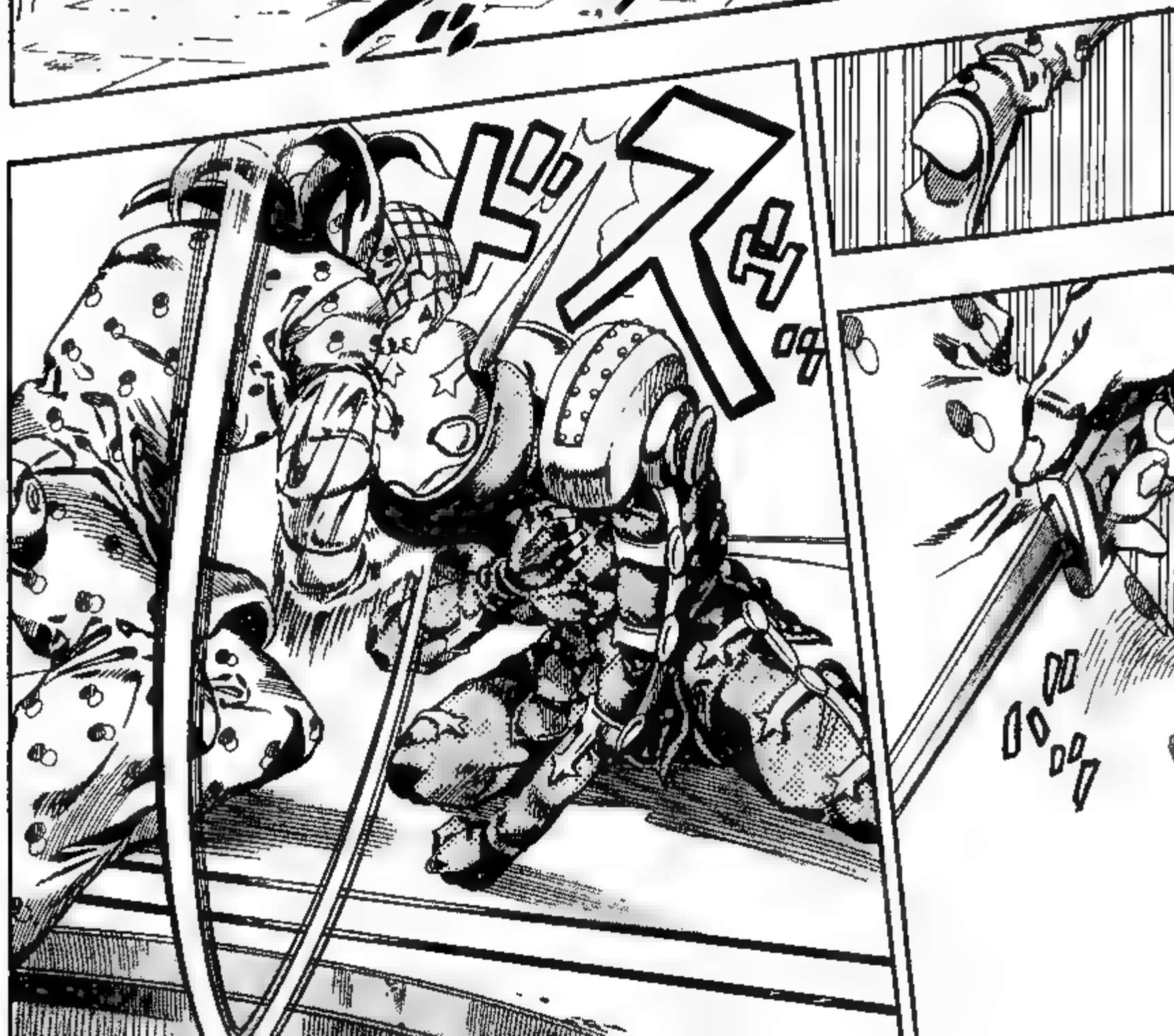
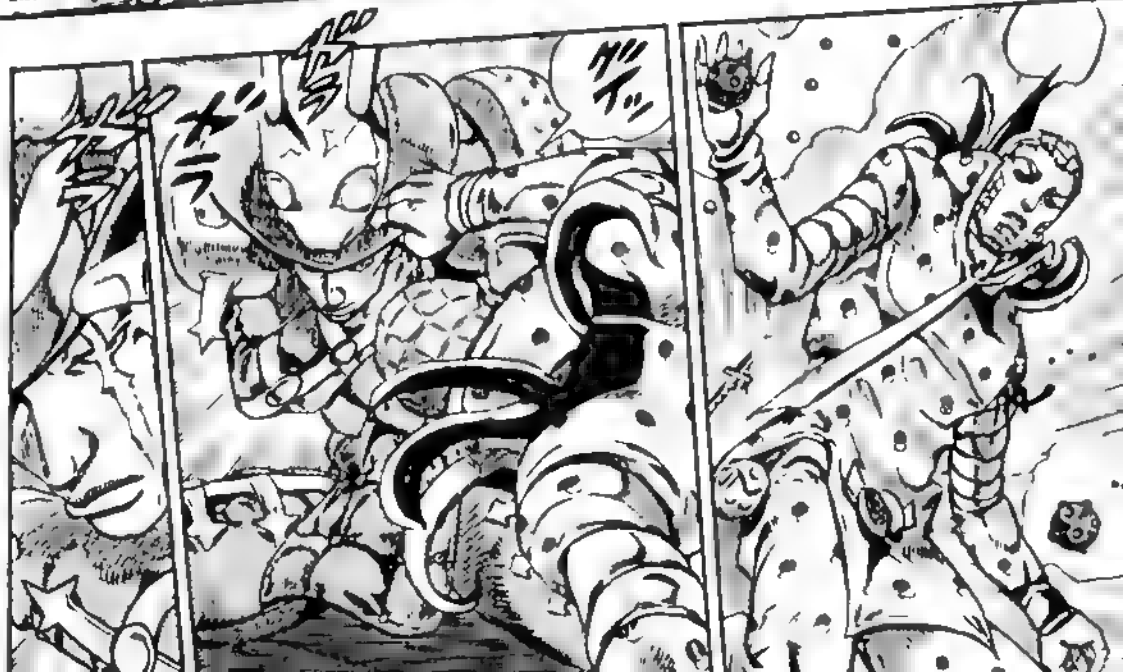
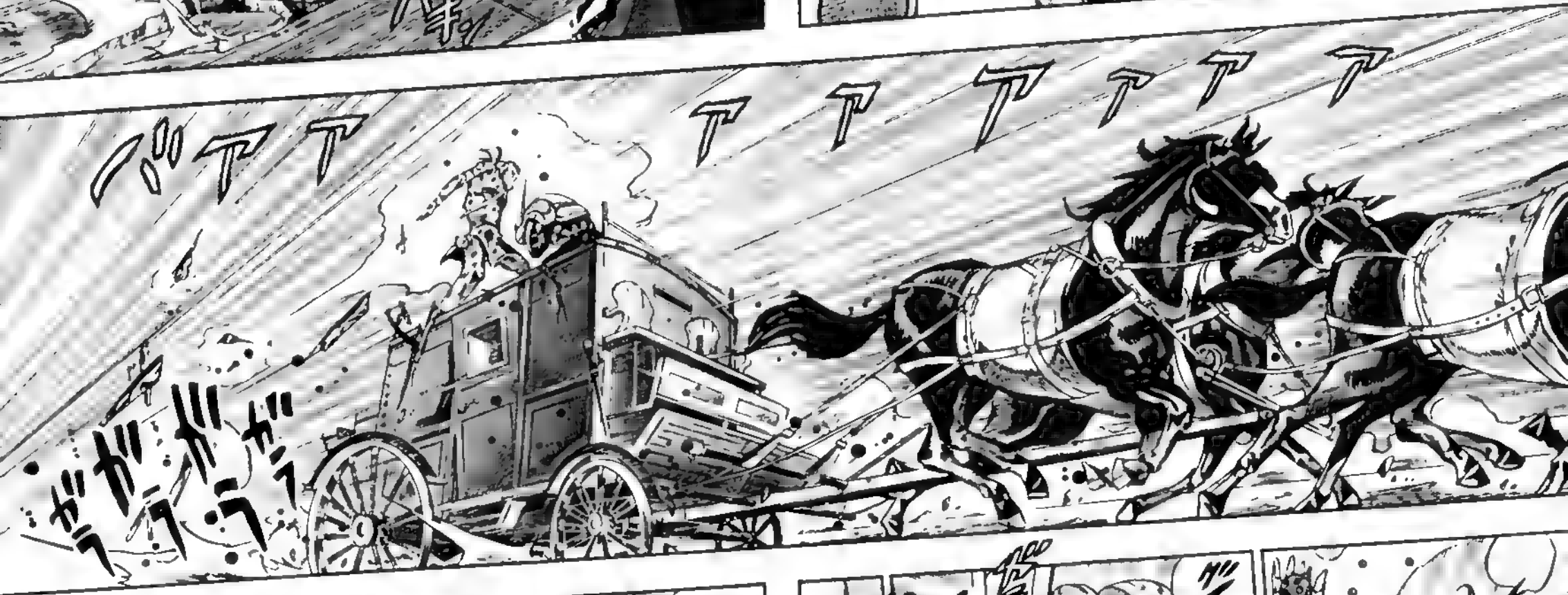
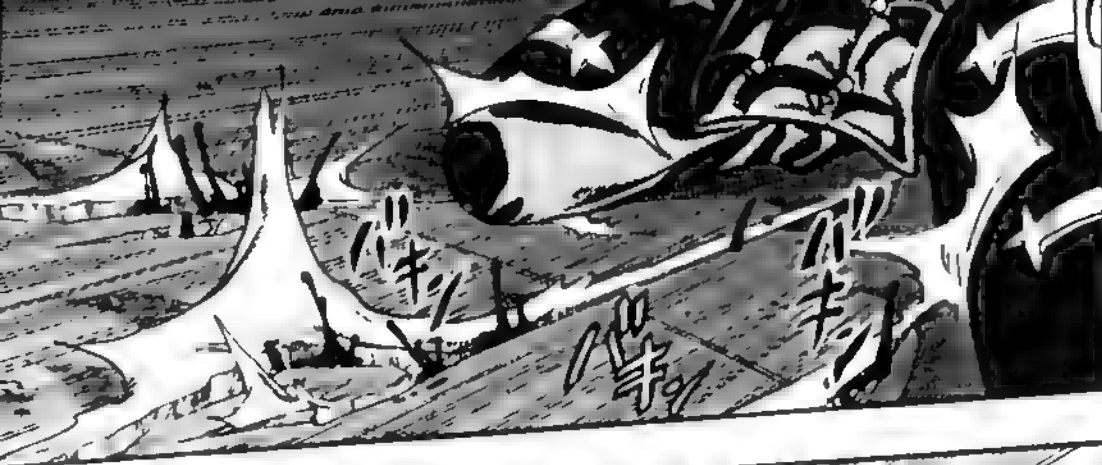
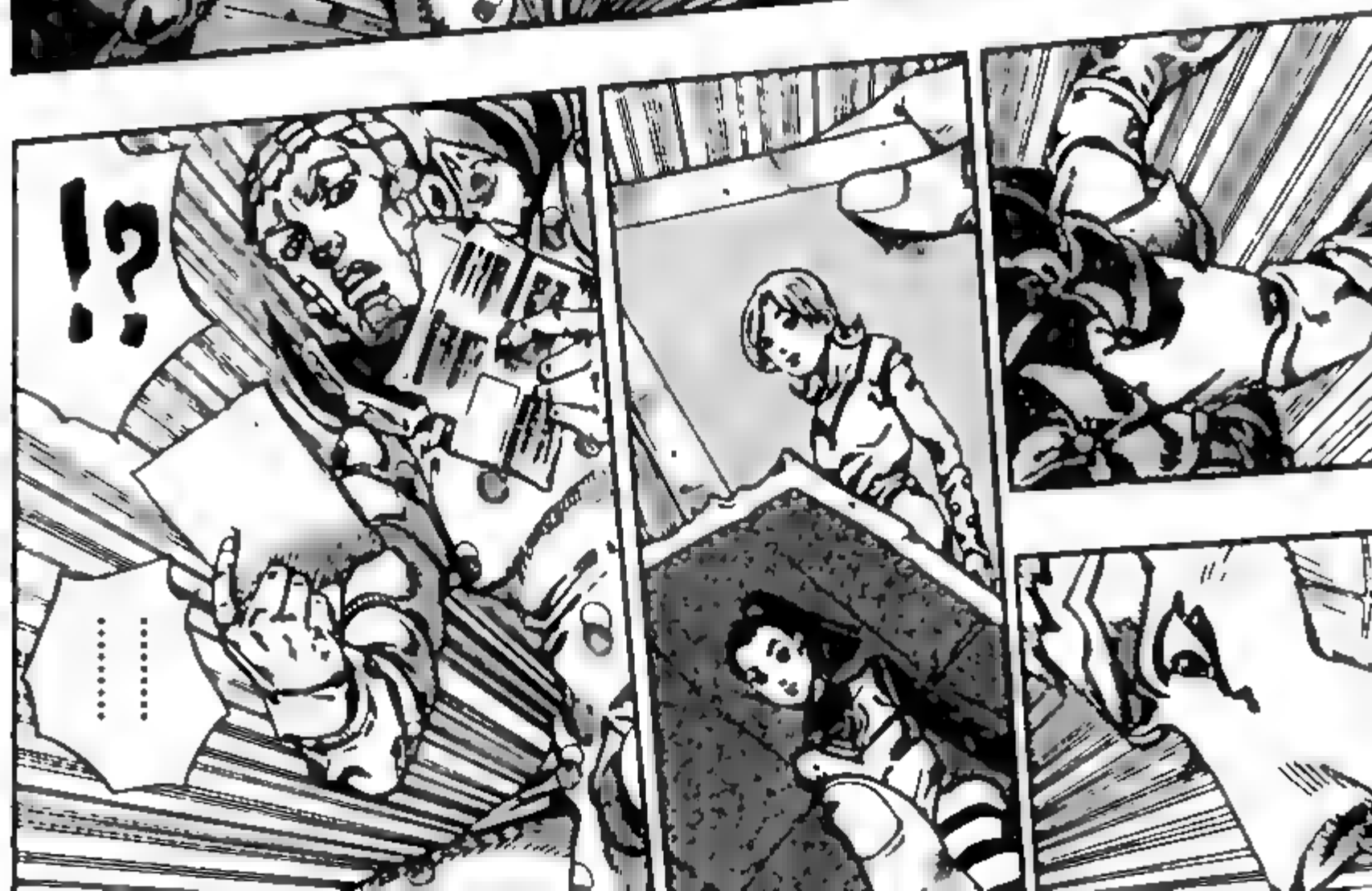
……
!?
あちゃあ～～～
でっ！
……
何だと…
バカな……！
今のは……
!?
まさかッ……

けつ！
ウェカピポ！スティールを見張ってりゃあ あんたに会えると思ってたが
だが わざと少しはずして撃ってやったぜ!!
年上だから敬意を表して手足をもぎってからにしてやるッ！ あんただけにはこの世の地獄の……
もっともうすら寒い その底の底をなめさせてから ゆっくりと殺してやるからなぁ〜
先輩ちゃんよオ〜〜〜
オラッ

ドババババ
!
バギッ バギッ
バギッ
ボグッ
ボゴォ

ヒヒヒイイイ
ン
ダッ
ザザン
バキッ
ドスッ

バキン
バキン
バキン
バアアアアアアアア
ガラガラガラガラ
どういう事だ?
「マジェント」だ
あの氷の海峡で生きていたとは……
こいつの「スタンド」はこの防御をマジェント自身が解除した瞬間でないと殺せない……
だが こいつ ここで何をしている?……
何故マジェントのような下っ端のクズが単独でスティール氏を襲った?

まさかこいつ
ルーシー・スティールを探しているのか!?
あの氷の海峡で……
ジャイロとオレの話を聞いていて……
「金」と「名誉」のために…
!?
……
……

スティール氏ッ!!
ミスター・スティールッ！聞こえるかッ！
ザ
ビギ
ザ
ドド
わたしは敵ではないッ！
その傷は急所をはずれているッ！
あなたを死なせるわけにはいかないッ！気をしっかり持ってもらうぞッ！
バカラッ

そこのおまえ！スティール氏の馬車で何しているッ!?
直ちに馬車を止めなさいッ！
これより先は政府公邸の最優先護衛区域だ馬車を止めないと我々はおまえを射殺する！
ドドドドドドドド
ドドドドドド

このまま向かうと「フィラデルフィア独立宣言広場」
あの市庁舎には現在ヴァレンタイン大統領がいる！
このマジェントはこの場で始末しなくてはならない
ルーシー・スティールの正体がこいつにバレている
『ルーシー』は今『大統領夫人』だ
おいッ！きさまぁぁぁーーッ
ガラ ガラ ガラ

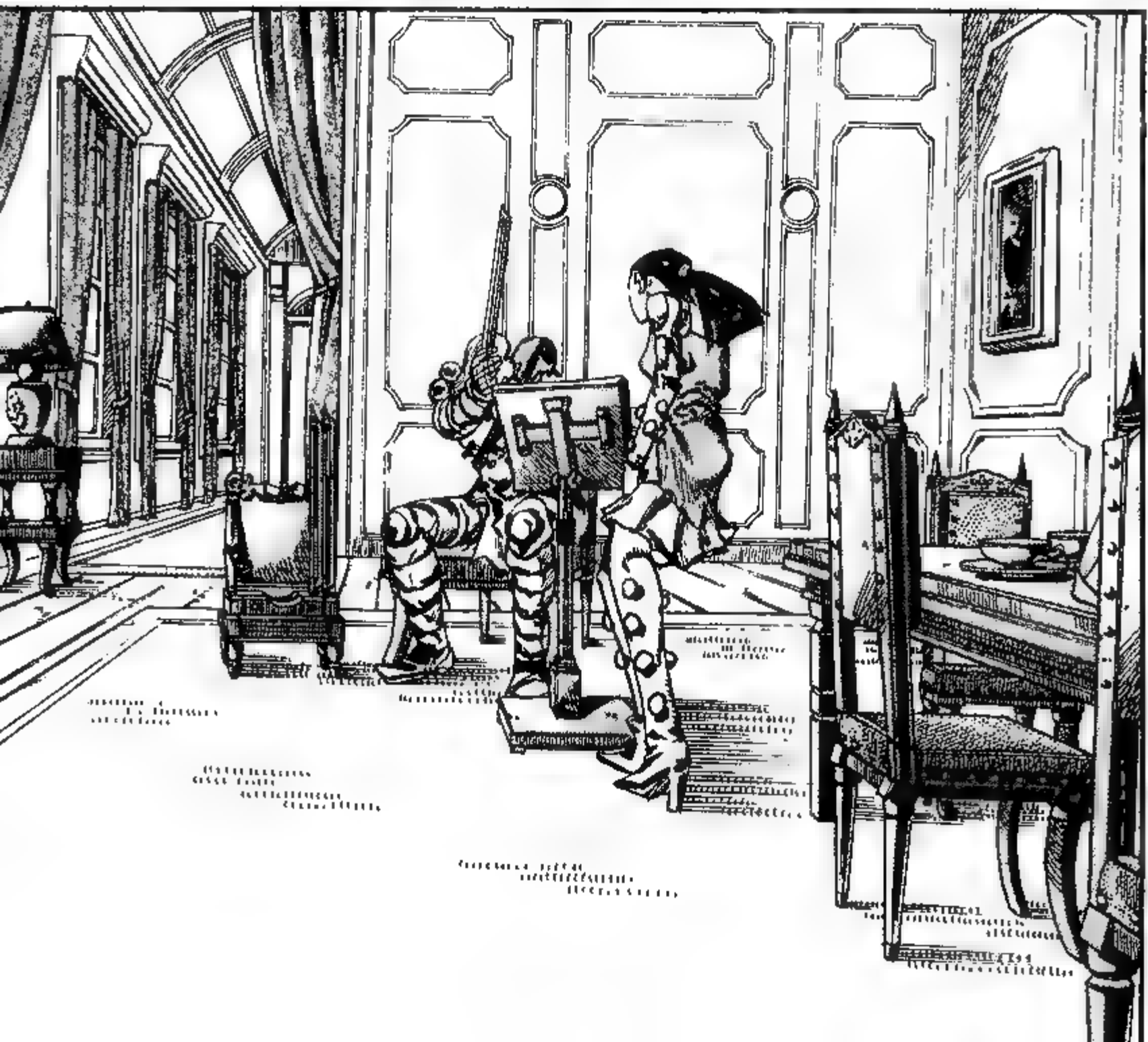
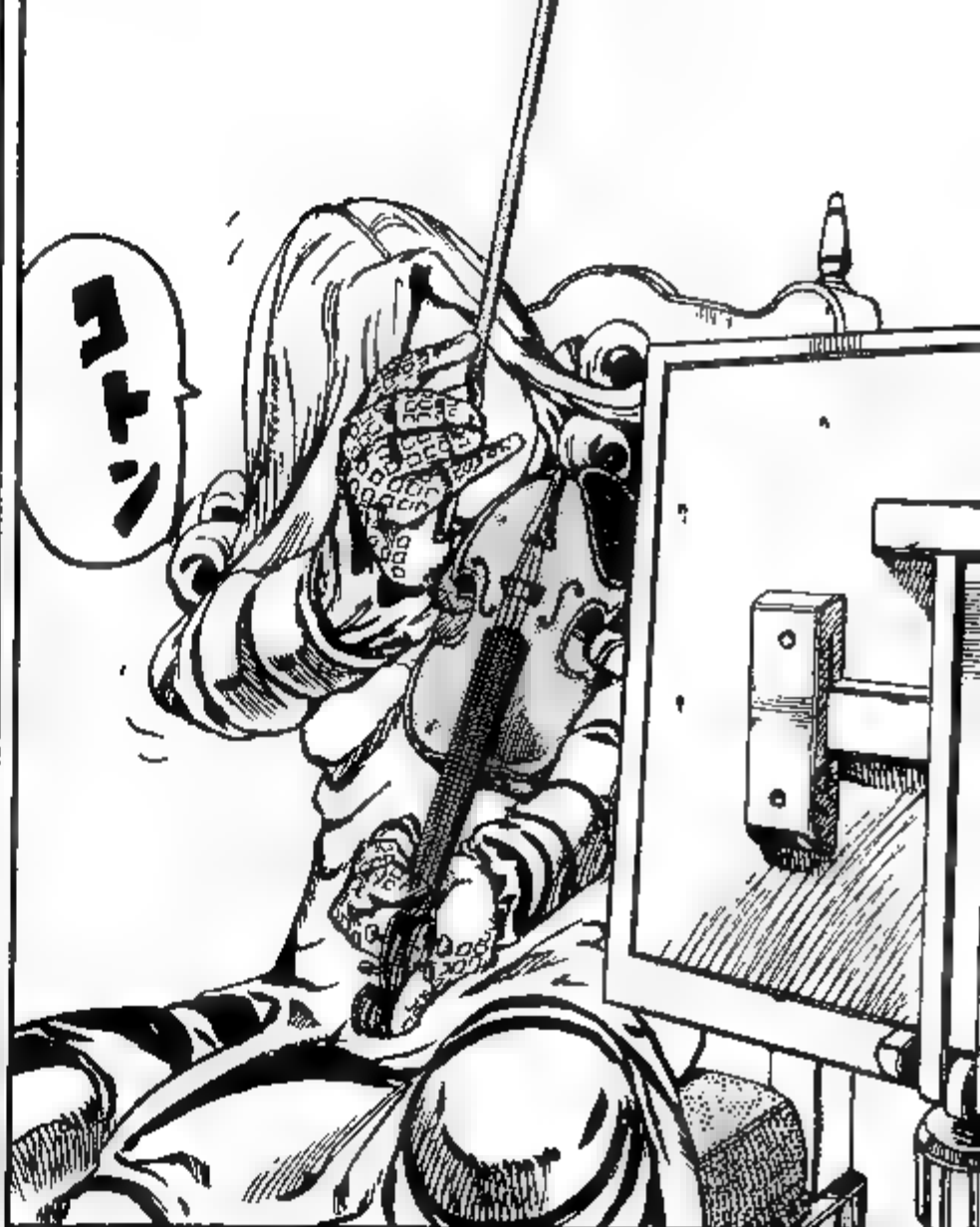
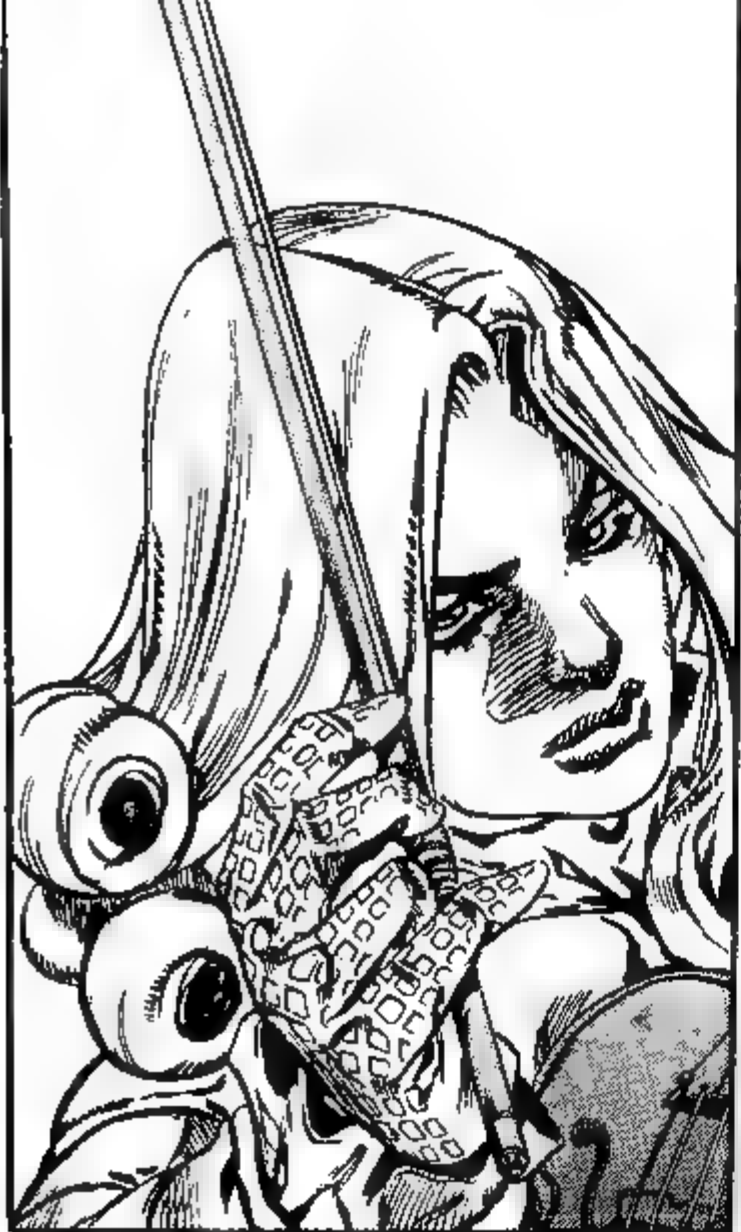
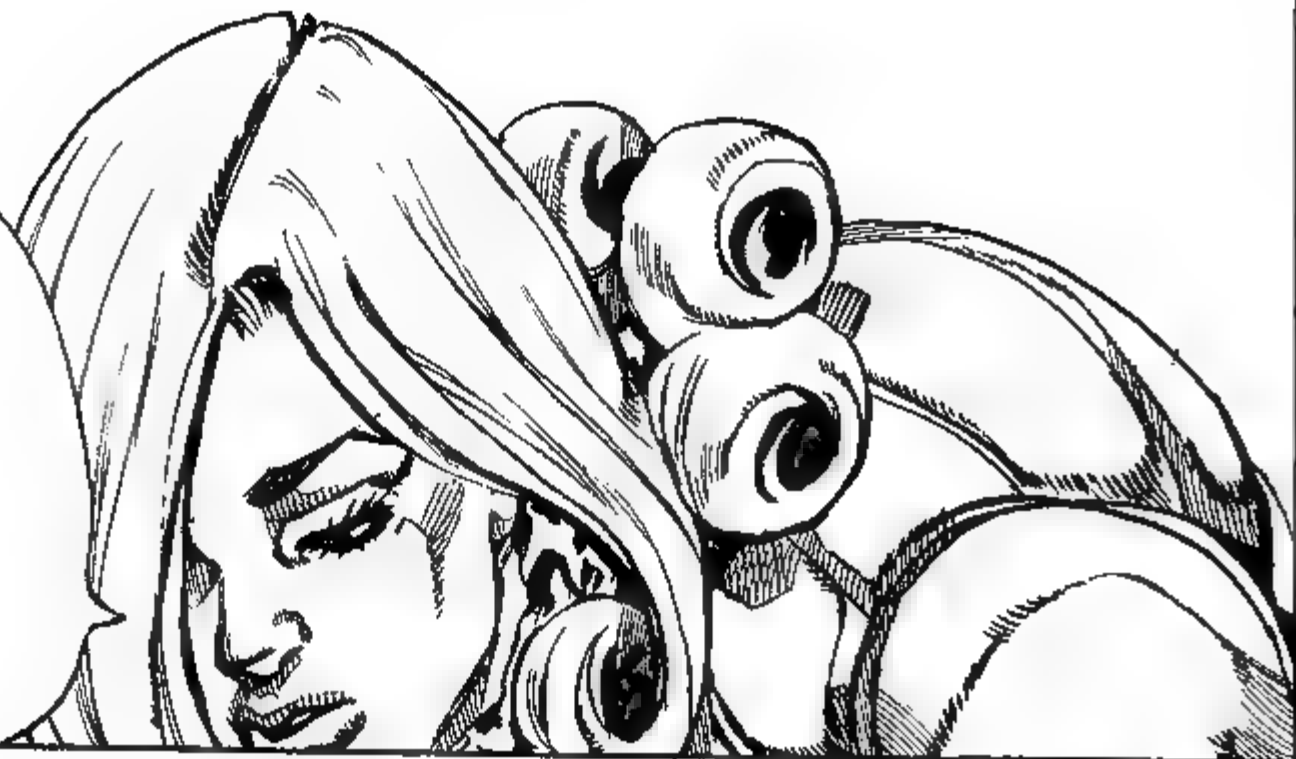
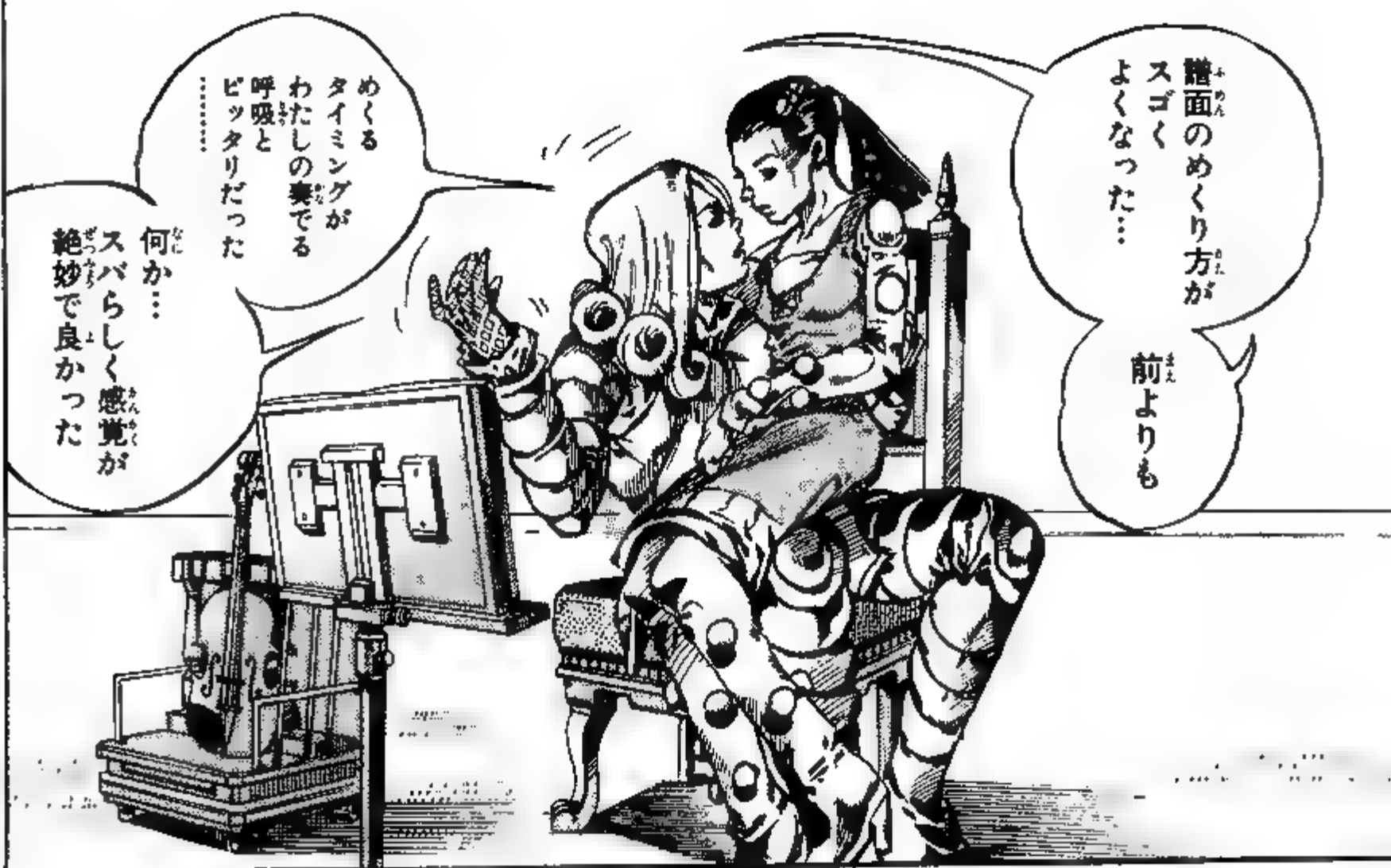
!?
12月20日　14時45分
ジャイロ・ツェペリ
ジョニィ・ジョースター　ゴール1時間前
左半身失調

A
Allegro.

コトン

久しぶりに会えたね

こうして2人きりでお茶を飲んだり楽器を弾いたりしてくつろげるのも…

シカゴ以来なのかな…

スティール・ボール・ランと
共にあった激務も
この地でもう終わりだ
!
だが
君は…
「何か」…
今日の君は
以前と
『どこか』違う

譜面のめくり方がスゴくよくなった……

前よりも

めくるタイミングがわたしの奏でる呼吸とピッタリだった……

何か…スバらしく感覚が絶妙で良かった

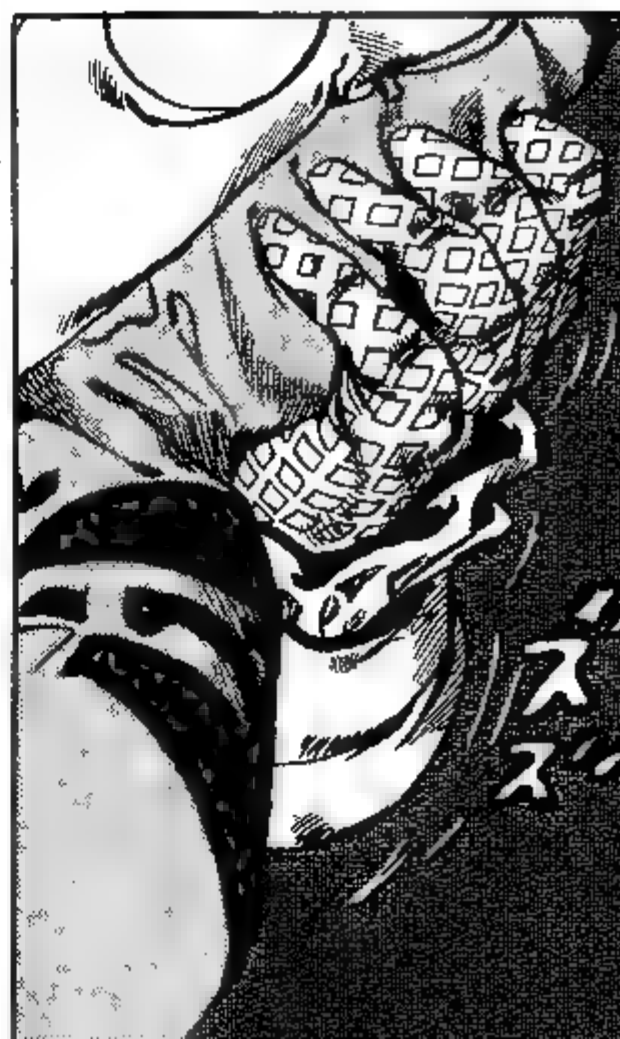
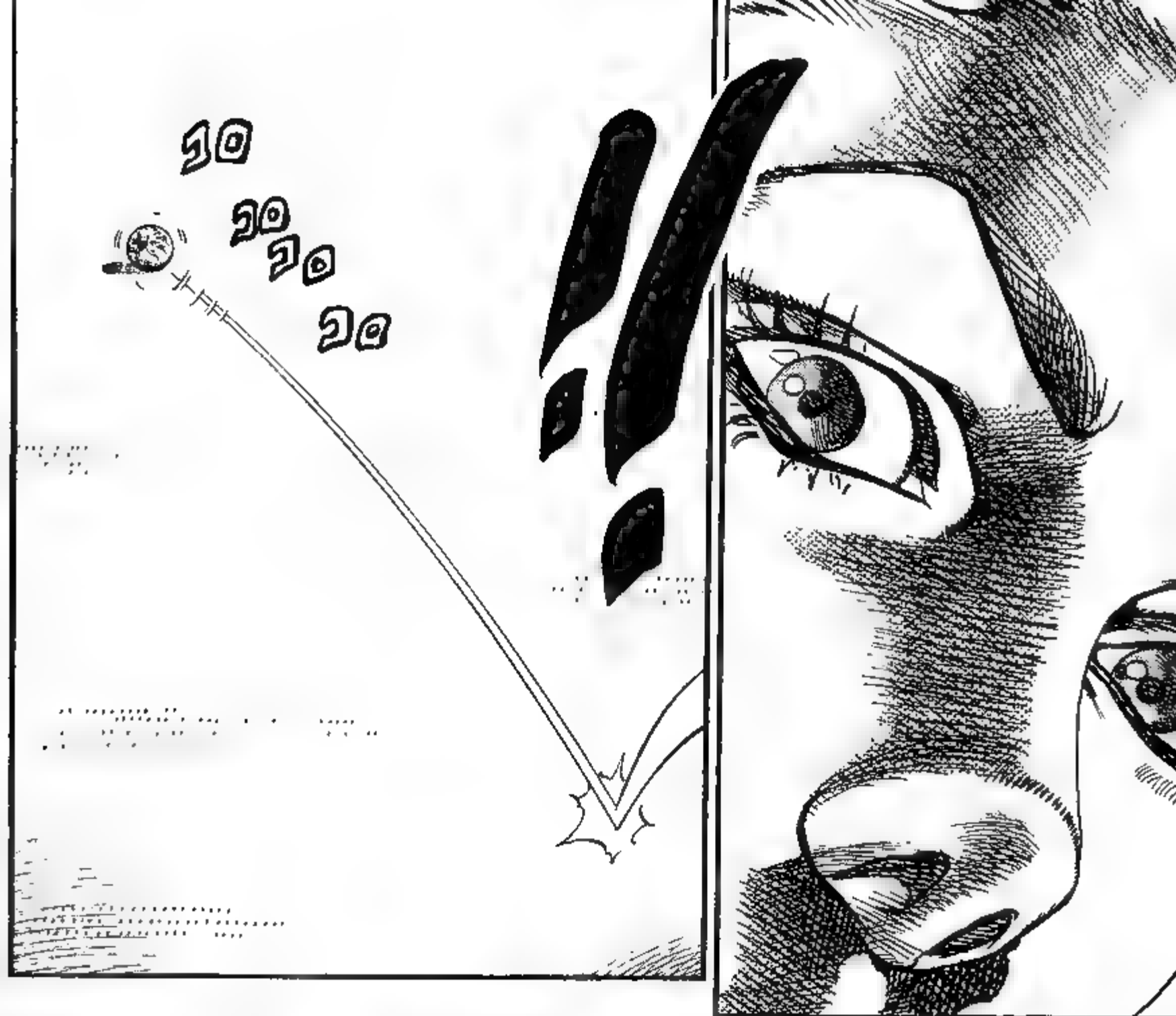
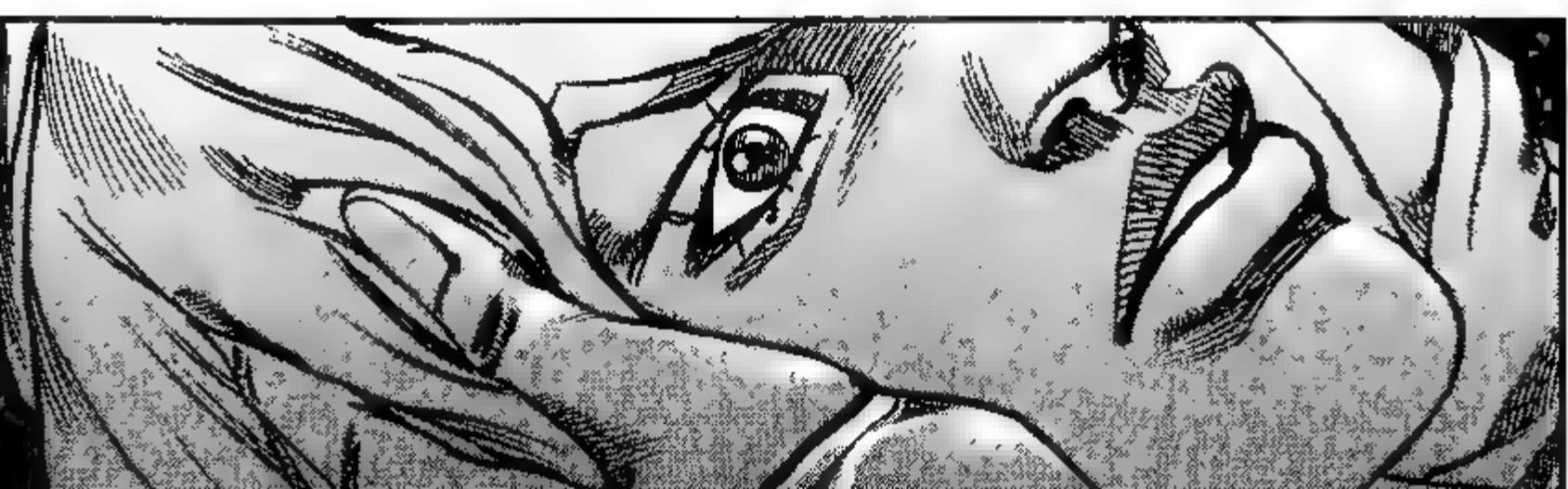
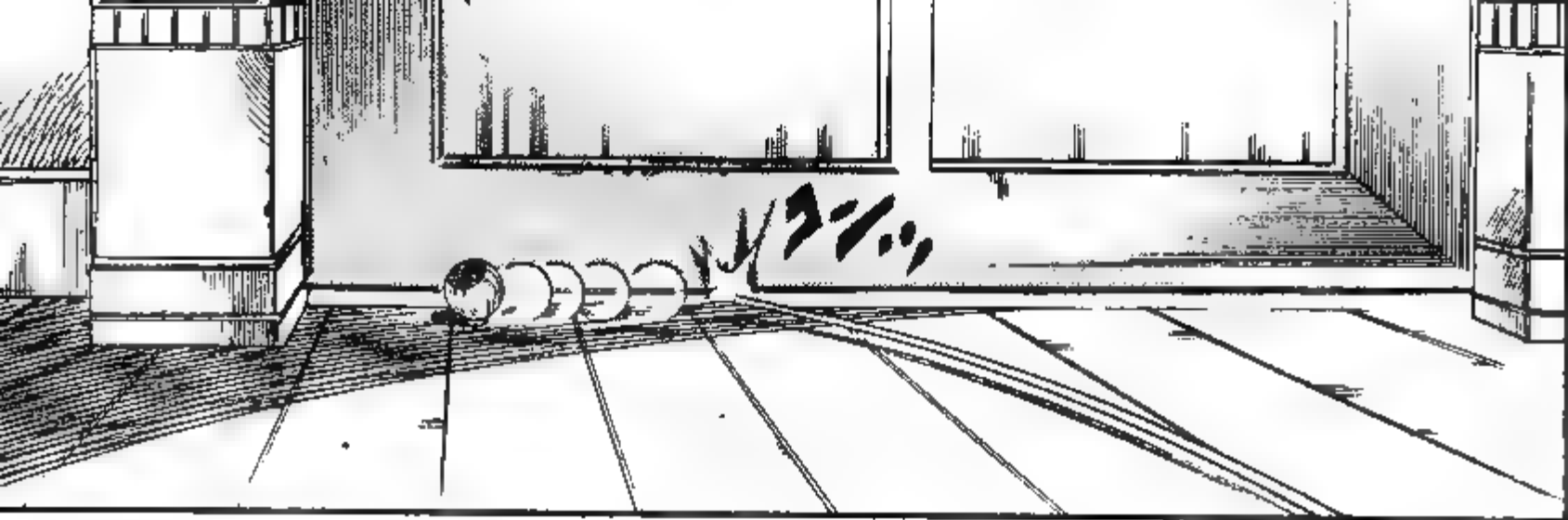
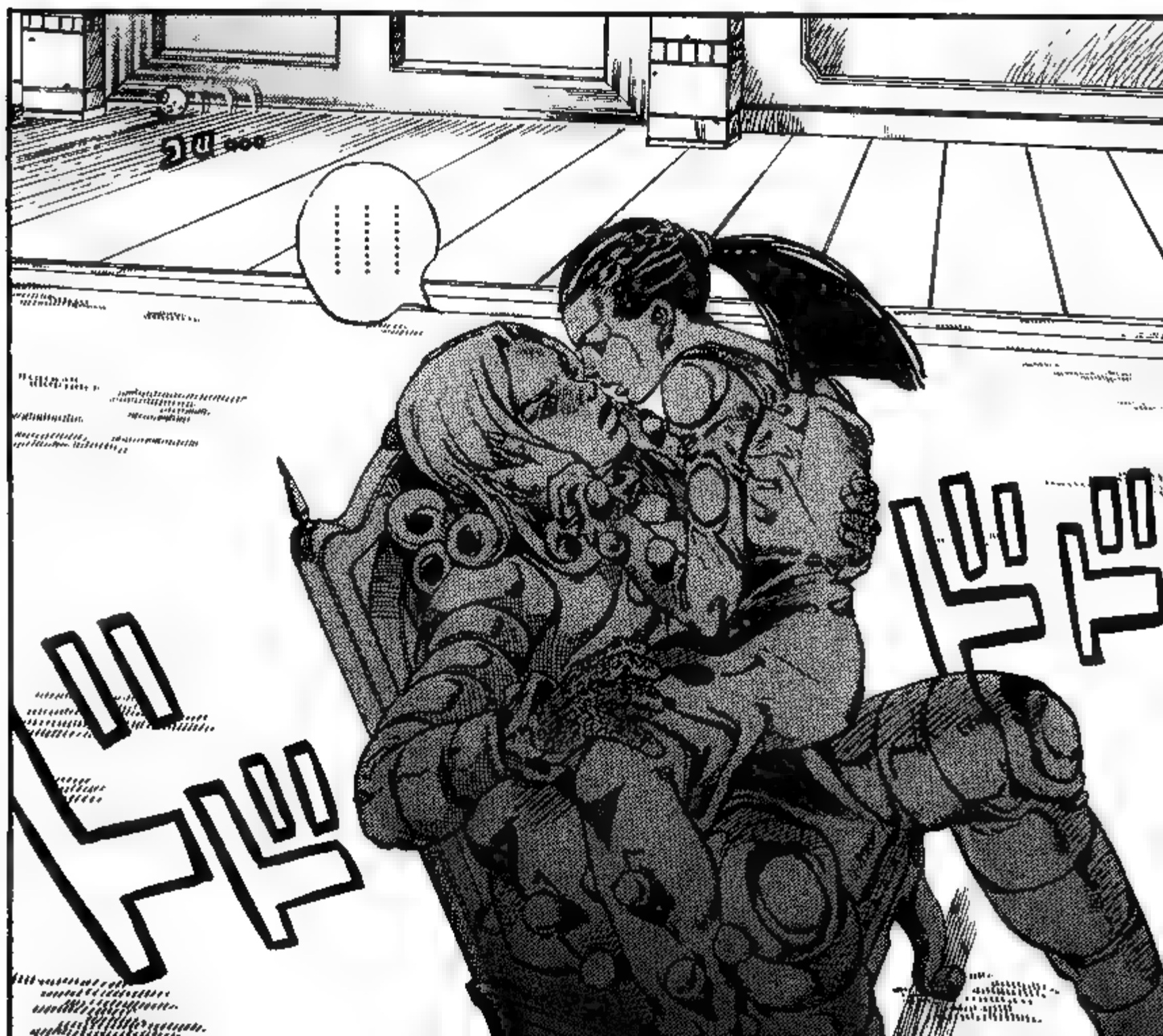
これ以上…このあたしの体に触れてるこの「手」が……

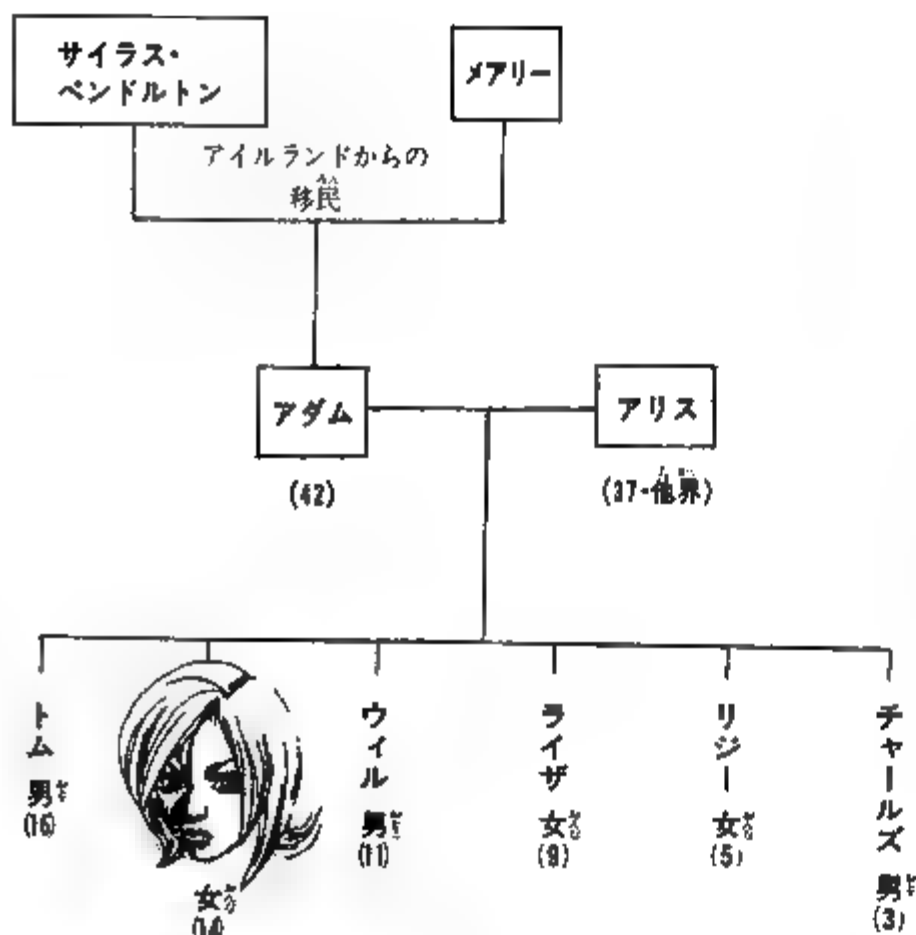
上へのぼって来たなら……そしてこの人は大統領…だけどもし…キスをしてきたなら……

あたしは舌を噛み切って死ぬわ…

このまま「正体」がバレても噛み切って死ぬ

…………
いつもと同じです
きっと久しぶり
だからでしょう
とても
楽しい
演奏でした
……大統領
閣下
……
?
何か
カワイイ
スゴクだ
……
何か違うな
仕草が
すごくいい
ボトン

ドド
ドド
ドドド
……
ドド
ドド

ガ……「眼球」……
ドドドドドドド
…落ちた…ひとりでに……ポケットから……なぜ…
このフィラデルフィアでもう終わる？まさか！「遺体」が……⁉
他の「遺体」がこの部屋の近くにあるのでは⁉「眼球」が反応している 大統領は…遺体を全て回収したッ！

#61
ボース・サイド・ナウ
その②

ルーシー(14)の
実家は
6人兄妹で
彼女は上から数えて
2番目の長女
旧姓をペンドルトン
父親は移民の子孫で
オクラホマで
小さな農場を
営んでいた
サイラス・ペンドルトン
メアリー
アイルランドからの移民
アダム
(42)
アリス
(37・他界)
トム 男(16)
女(14)
ウィル 男(11)
ライザ 女(9)
リジー 女(5)
チャールズ 男(3)
ルーシーが12歳の時
母親が病気で
他界すると
一家に突然
暗雲がたち込めた
収穫のために
借りていた金が
実は背後に
マフィアが
からんでおり
悪天候と妻の死という
ダメージも加わって
ルーシーの父親は
たちまち借金苦の
泥沼にのみ込まれて
いった

マフィアはひとつしか持たない者からは何もとらない

しかし「2つ以上」何かを持っている者からは必ず どちらかをとる

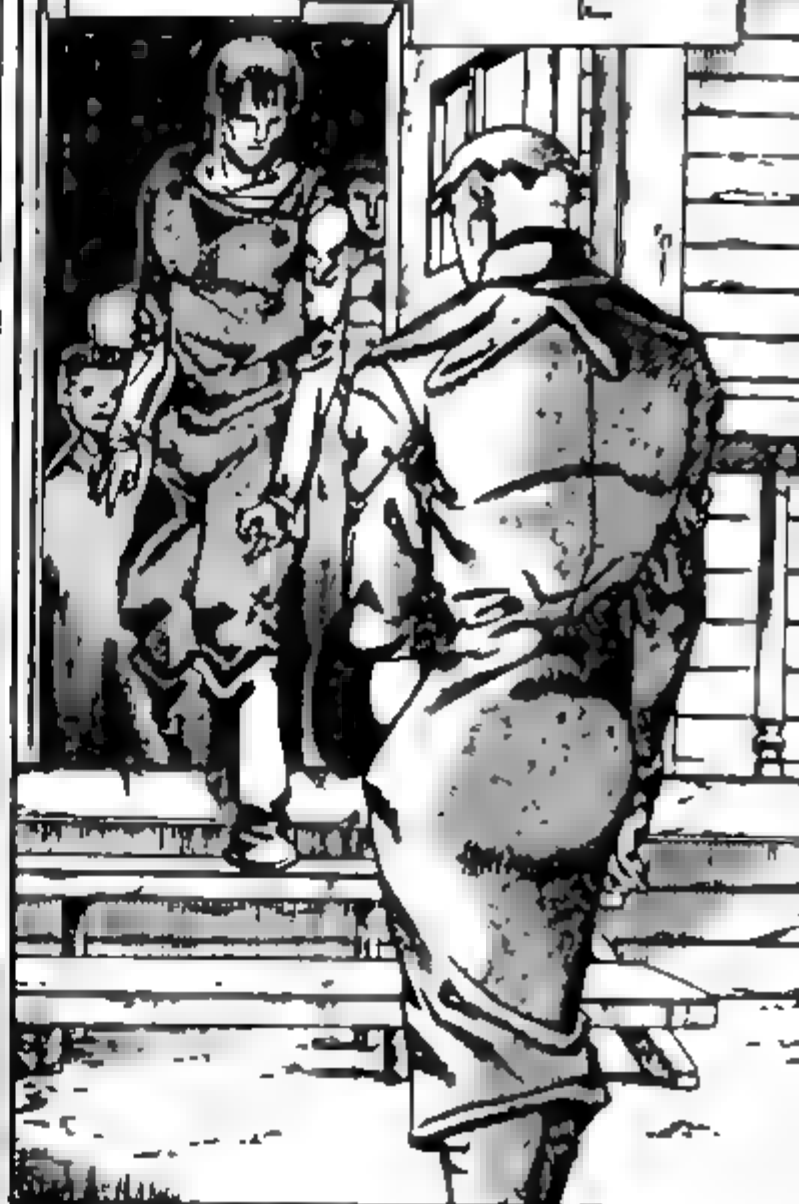
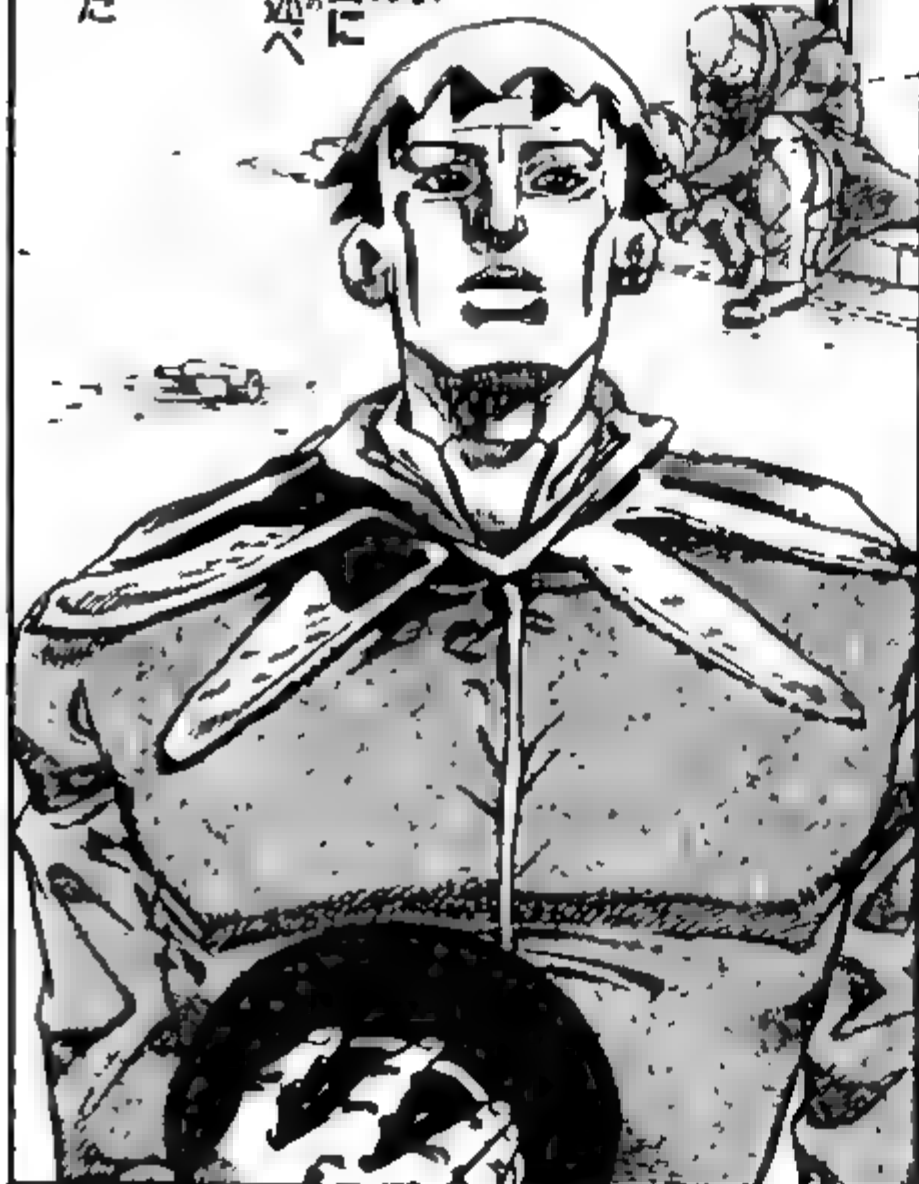
『土地』か？

『子供たち』か？

父親に選択がせまられていた

しかし もし「住んでる土地」をとられたならどっち道 いずれ家族はバラバラになる…「長男」は絶対にさし出せない

必然的に十分に働ける年齢に達している長女のルーシーが借金の形に出される事になった
——「奉公」という仕事で

そんな時
ルーシーの父親の前に
ひとりの来訪者が
あった
男の名は
スティーブン・
スティール
スティールは父親に
「数年前——かつて
自分が絶望の淵にいる時
幼いルーシーさんの一言に
救われ立ち直った」事を述べ
「恩人である娘さんと
彼女を育てたあなたに
お礼をしたい」事を告げた
父親は
残った子供たちを
家に入れると
「もう遅い」……
「娘の
ルーシーなら
もう家にはいない」
……と
スティールに
言った
スティールは
かなりの衝撃を
受けたが……
すぐに

『こちらから
お願いしたい』
『わたしに
その借金の決着を
つけさせて欲しい』
……と

敬意を忘れず
丁寧に
申し出た

『無理だ』

『もう金の問題では
なくなっている』
『マフィアには
ルールがあり
彼らはとると
決めたものをとる
変更はない
わたしがすでに娘を選択した』

うう

スティールは
少し考えると
もの静かに言った

大切なのは父親のあなたが
救い出そうとする意志だ
彼らの世界の事なら
わたしも詳しい　まだ間に合う
ひとつだけ方法がある
娘さんはもう「キズもの」になったと
「彼ら」に言いなさい

……………

このスティールが「法的に結婚した」……と
あとはわたしが「彼ら」と決着をつけます
なんだとッ!! きさまッ! このわたしの家族を侮辱してるのかぁ――――ッ
いいか目を覚ませ……
「彼ら」の欲しいのは処女でありこのままだと売春婦以下の仕事が彼女を待ってるぞ
その地獄に落ちたなら25歳まではとても生きられない
わたしは今まで自分ひとりの事だけを考えて生きて来た…それはとても不幸な生活だった

そんな時 わたしの心を 救ってくれた のが あなたのお嬢さん なのです

娘さんの 役に立ちたい… 恩返しをする事は わたしにとって絶対に 必要なもの！

この スティーブン・スティールに どうか あなたのお嬢さんを 見守らせていただきたい

……こうして 「ルーシー」は スティーブン氏に 救出され

う うう

「ルーシー・スティール」と なった…… そして ある日 ルーシーは スティール氏にこう言った

わたしは幼い日 あなたに会った 一度の事を なぜか 良く覚えています

とても あなたは みすぼらしかったけれども 純粋な雰囲気で 細い体で列車か何かを ひっぱって行きそうでした だから話しかけました

わたしは かまいません

よろしければ……

あなたが よろしければ ですが

わたしを いつの日か 本当のお嫁さんに してください

いいか ルーシー

そんな事は 考えなくていいし 二度と言うな

君の父親にも
言ったが
わたしは
自分自身の
ためだけに
やった事だ

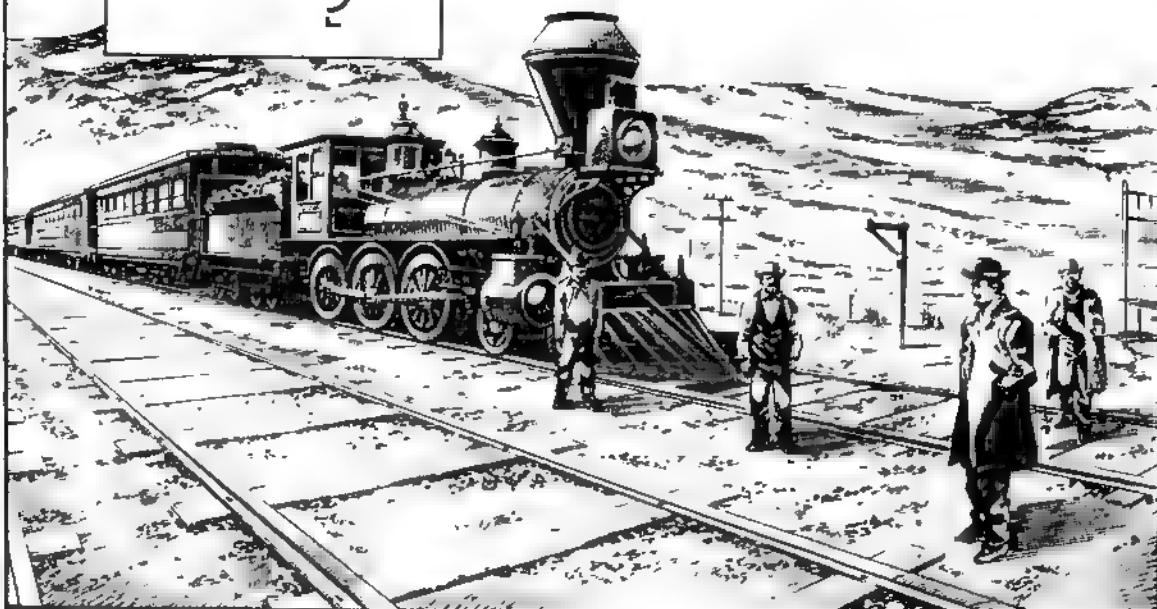
本当に助けようと
したのは
家族を思う
父親の意志だ

それを
忘れては
いけない

君には
これからも
指一本
触れたりはしない
安心したまえ

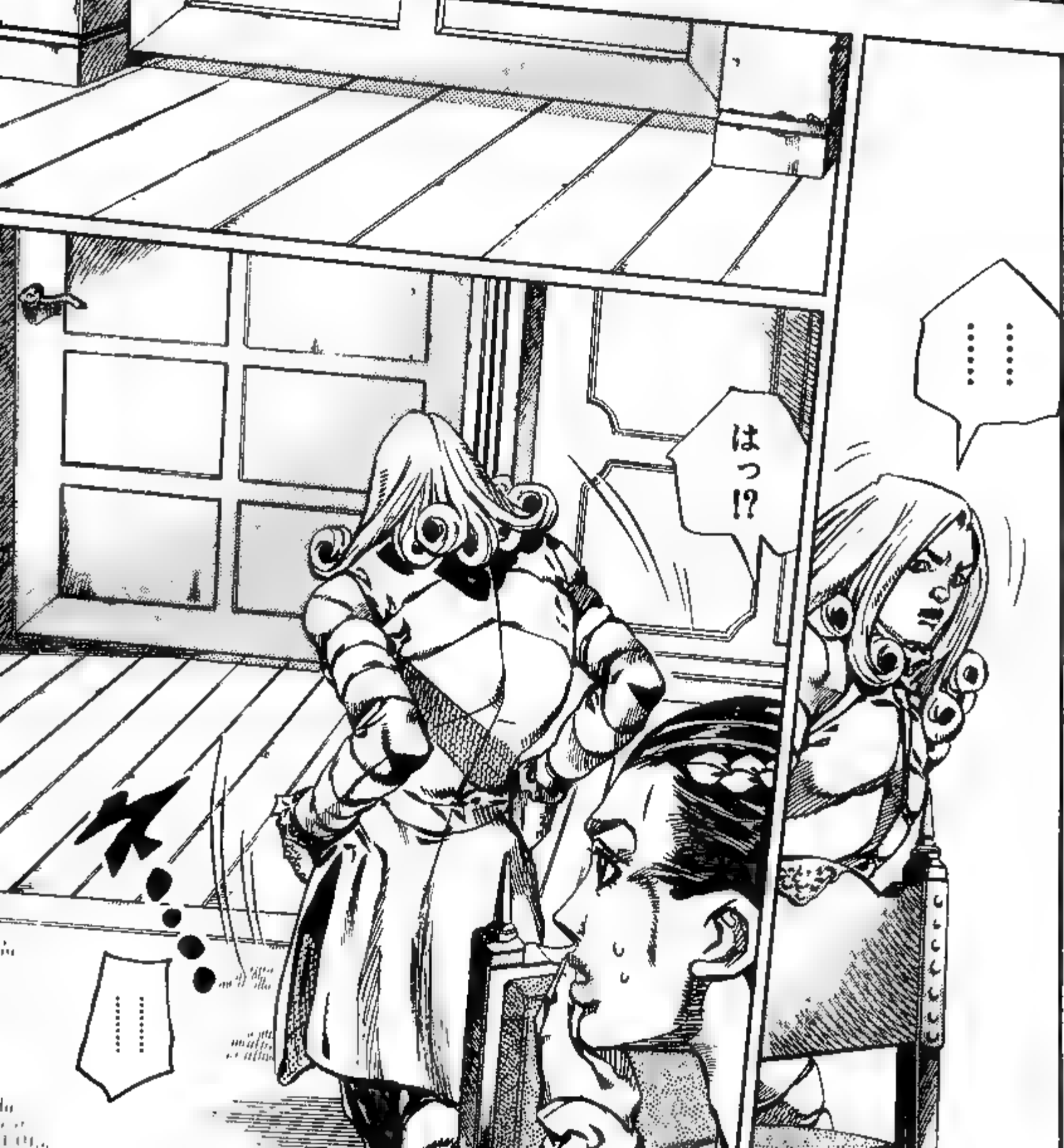
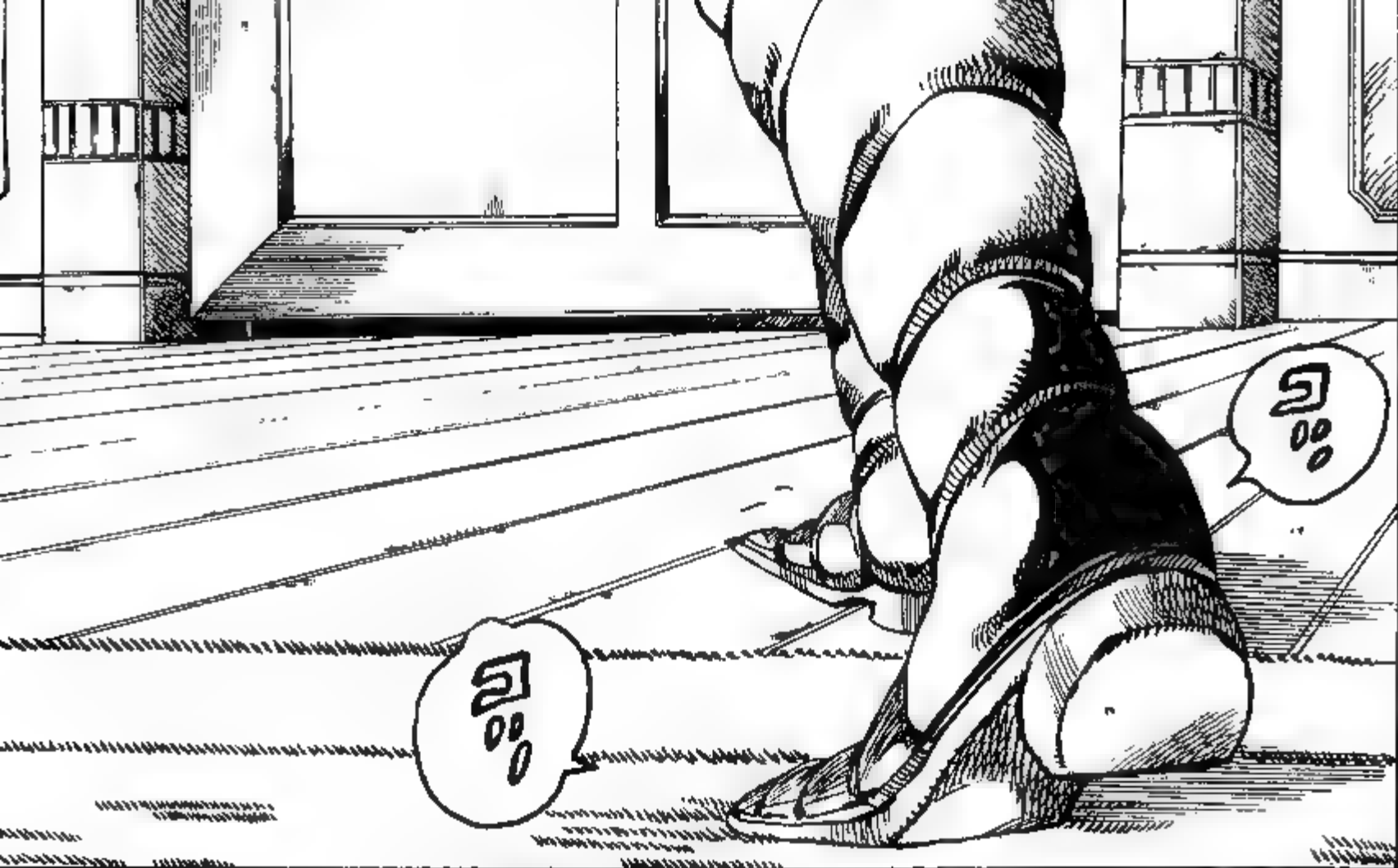
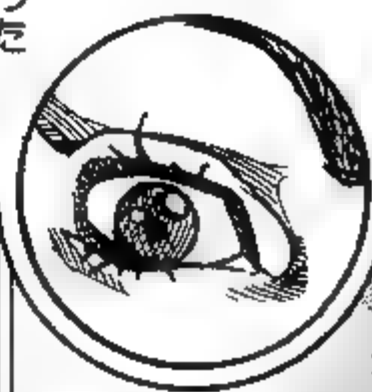
学校へも
行け

そして君はいつか
誰かに恋をして
家を出たい時に
いつでも出て行けばいい

2人は
恋人同士だとか
親と子でもなく
友人同士でも
教師と生徒とも
違った
奇妙な信頼関係が
生まれていた
スティーブンには
大きな愛があり
ルーシーは
スティーブンの夢見がちだが
確固たる意志をとても尊敬し
スティーブンも
ルーシーの前だけでは
自分の弱さをさらけ出した
うっ
うっ
ルーシーは
初老にさしかかる
彼のそんなところが
とても好きになった
そして
「スティール・ボール・ラン」
レースが始まると
母親のように心から
彼の事を心配するように
なっていった
聞いたか？
ジャイロ…？
指一本
触れられてないだと
…信じられる？
ンなワケ
ないっしょッ!!
スティール氏の
あのお顔 どー見ても
変態でしょッ!
ま…法的に
認められてる…
オレらにとやかく
言うスジ合いは
ねーーけどな
「何かが
おかしい…
この「レース」」
「あの大統領は
何かドス黒い……
同じ理想を追う情熱でも
スティーブンとは
まるで違う」

コン
コン
コン
コン
コン
コン
何の音だ？
何を見ている？スカーレット？
何か……今……床に落ちたのか？

みつかった‼
グルン!!
ヴィィン!!

……
……
はっ!?
……

シイイーーン
コッ
コッ
コッ

ゴゴ
ゴゴ
ない・・・
………⁉
目玉が
……あたしの
「ポケット」の中にあった
右眼球部が…
今…ドアの方へ
ころがっていった……でも
ない・い⁉
どこへ行ったのか⁉
どこか…家具か絨毯の
下へでも行ったのか？
でも あれは‼
良く見ると
あのドア…
下にスキ間がある
あの下からドアの
向こう側へ…
まさか‼
でも ころがって
行ったという事は
………
ドアの向こうの部屋に
他に「遺体」が⁉
眼球に反応する大きな「遺体」が
すでに この建物の中にあると
いう事……‼

何が落ちたのか？と訊いているのだ
スカーレット
わたしの顔をおさえて今 わたしの陰で何をしていた？
答えろ！今 このドアを見ていたな？

……
ドクン ドクン ドクン
ハァ ハァ ハァ

この大統領………
まさか……!?
!!
ドクン ドクン ドクン
まさか あたしの正体を知っていて ワザとドアの事を質問しているのか?
あたしの正体がすでにバレているのか?……
……いや…違う!!
……まだだわ…もしバレているなら大統領はすでに「眼球」をあたしからとり上げているはず

心を決めなくては!
まあ♡ ドアの向こうに何かステキな物でもあるのですか?
あたしに隠すような何かステキな物がッ
見せて♡
ザッ!!

!
いや 待て
そこで止まれ!

……

……

ピタリッ

フン～

何か
カワイイな

さっきから
同じ事しか言わないと
思わないでくれ…
今日の君の表情は…
好奇心いっぱいの少女みたいに
とてもカワイイ

キスさせて
くれ

あたしからも
ひとつ
質問しても
よろしいですか？

………

ドアの向こうの事なら君のおもしろがるものは何もないよ

いえ……

「スティール・ボール・ラン・レース」の事についてです

レースの事？

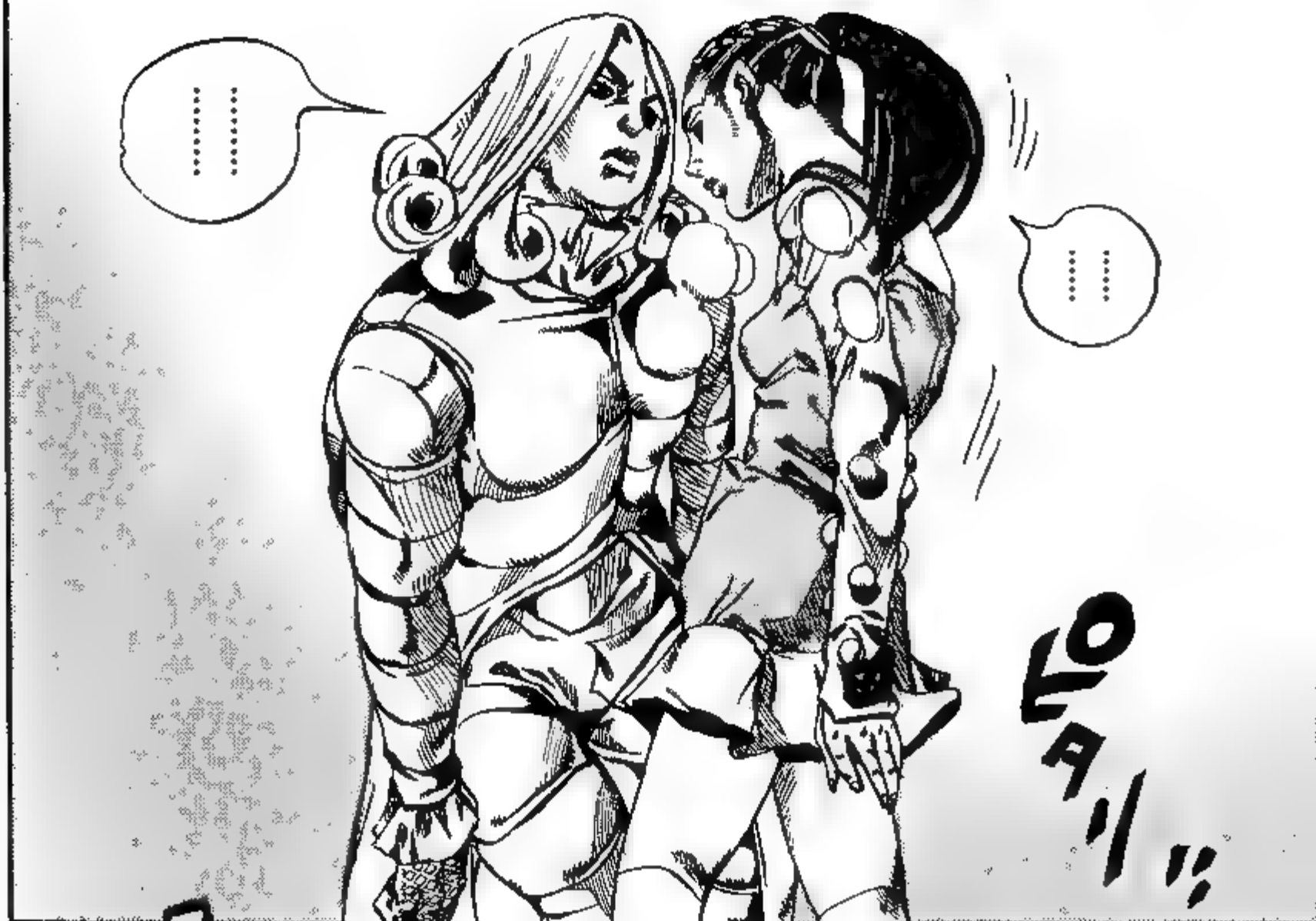
……何かな？

あたしに言わせると……

命がけで参加なさってる選手の皆様には失礼ですがたかが「馬のレース」

そんなたかがスポーツにこの大国の主である大統領のあなたが

なぜそれほどまでに情熱をかたむけるのですか？

カリフォルニアからずっとレースとともに大陸を横断なさっている

フン！いい質問だな

いいだろう

いい機会だ

このレースが終わった時…その時…この地球上に『どんな事が起こるのか？』説明してあげよう

たとえ話で……
君は このテーブルに座った時…
ナプキンが目の前にあるが…
君はどちら側のナプキンを手に取る?
向かって「左」か? 「右」か?

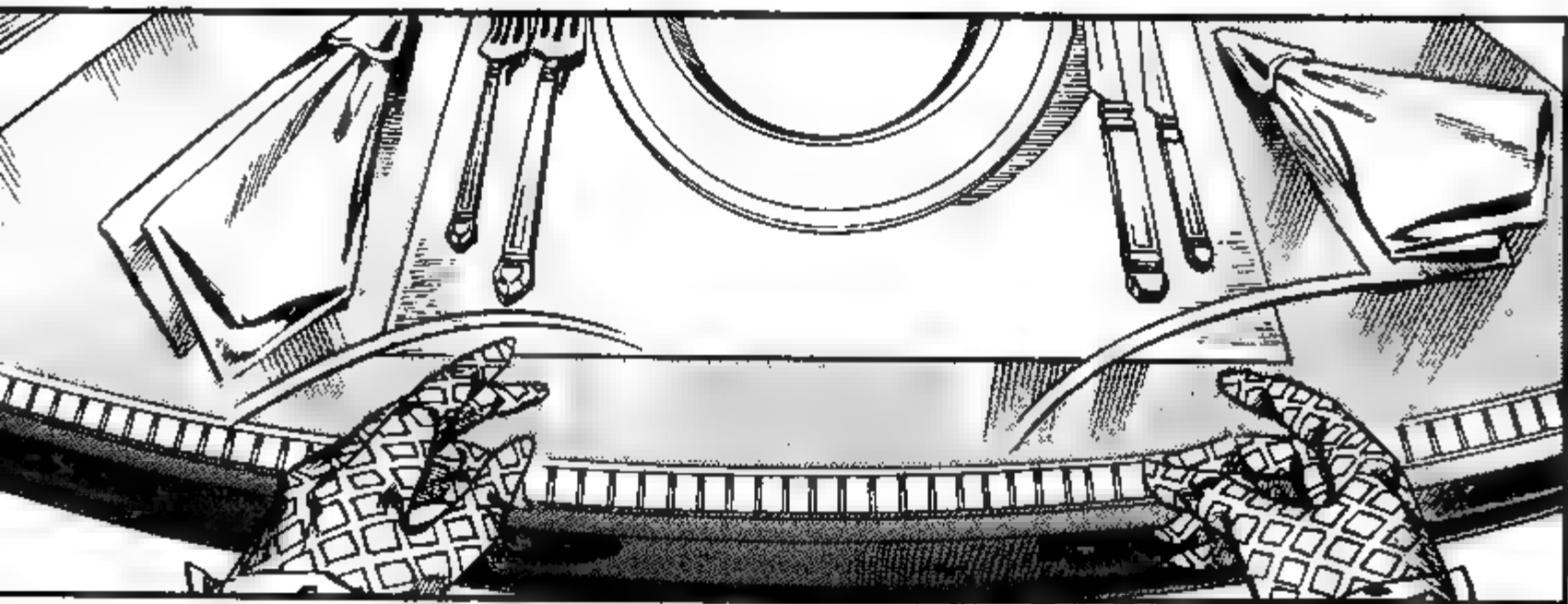
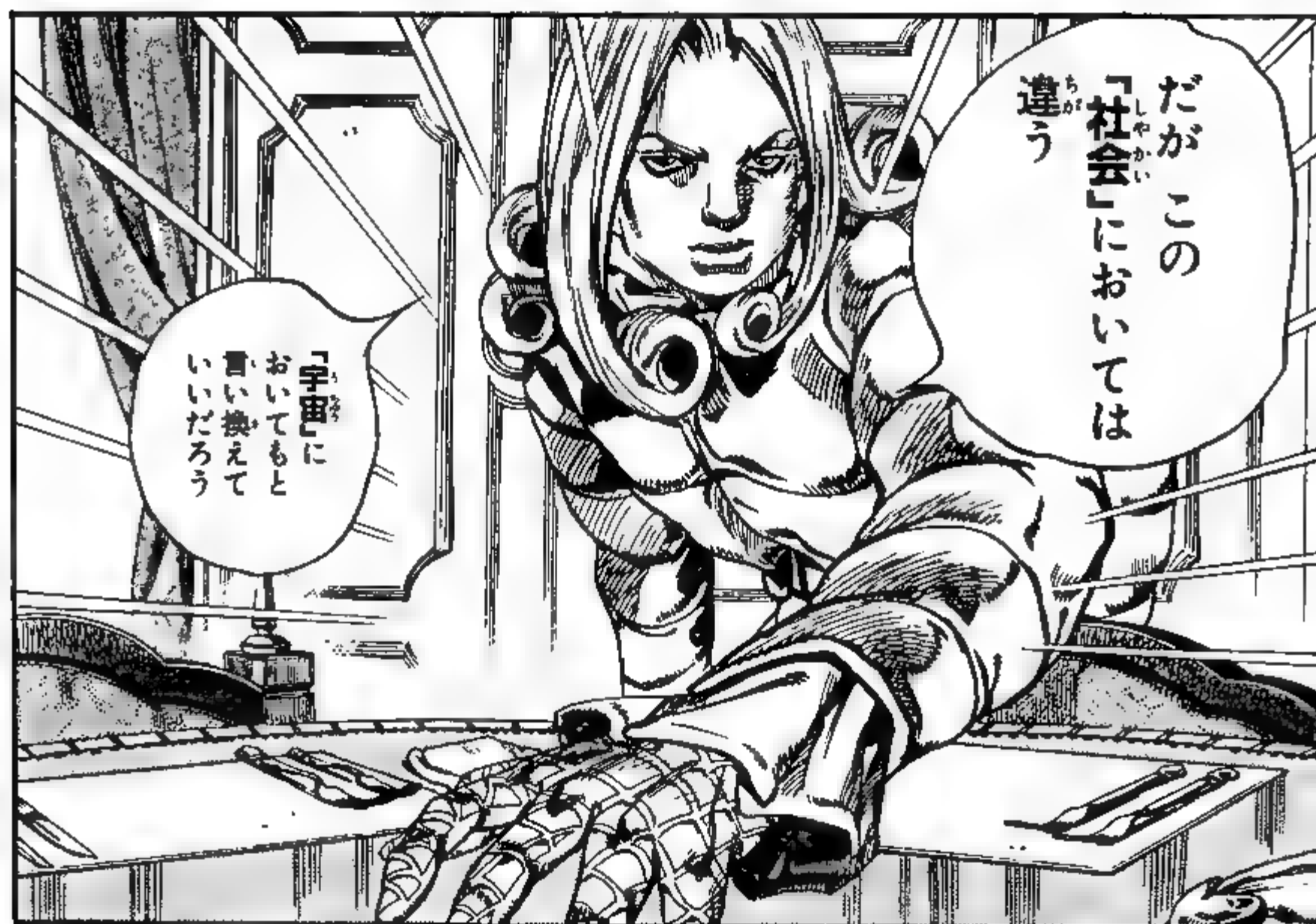
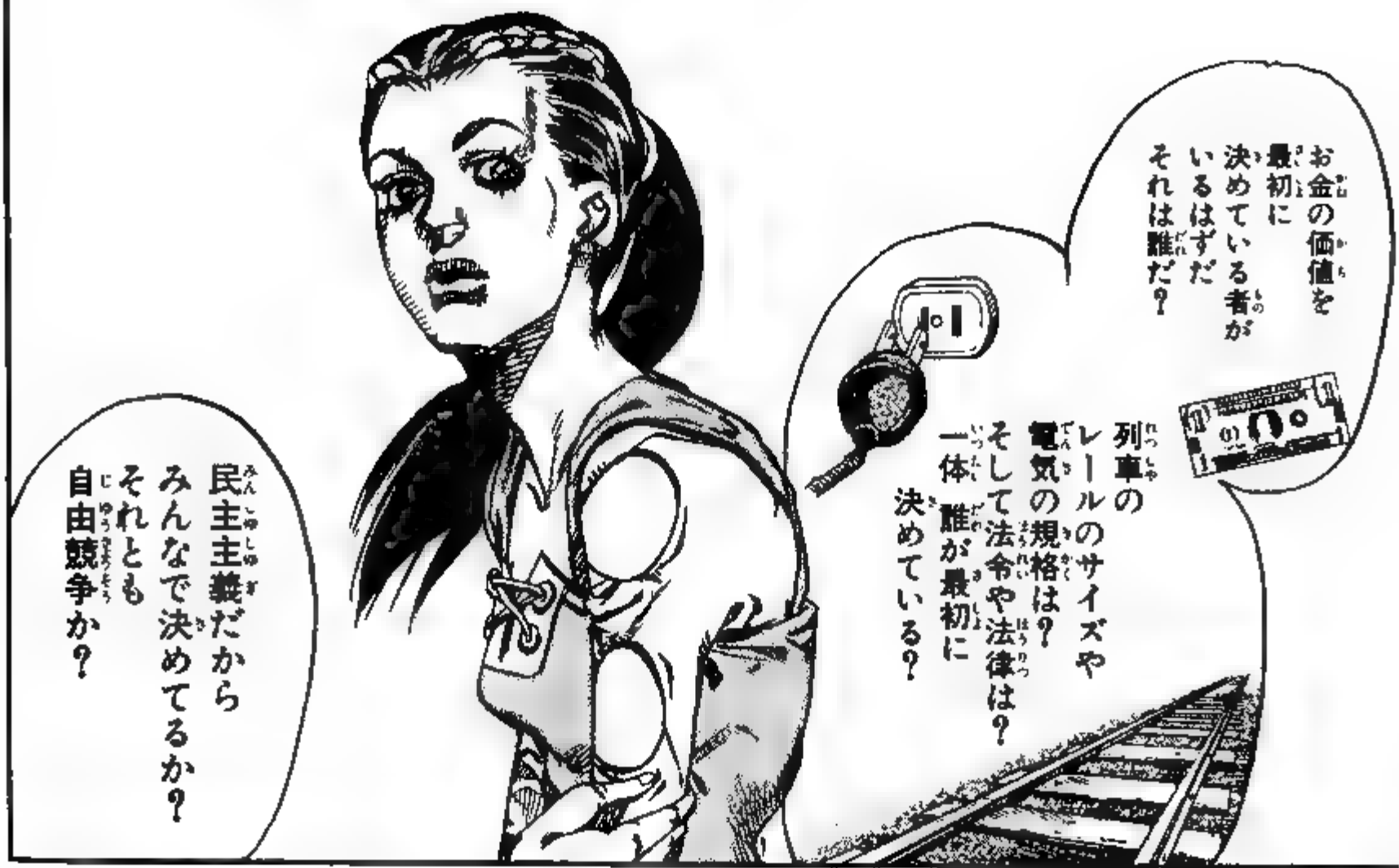
普通は……

「左」でしょうか

フム

……それも「正解」だ…

だが この「社会」においては違う

「宇宙」においてもと言い換えていいだろう

正解は「最初に取った者」に従う
……だ
誰かが最初に右のナプキンを取ったら全員が「右」を取らざるを得ない……
もし左なら全員が左側のナプキンだそうせざるを得ない……
これが「社会」だ……土地の値段は一体誰が最初に決めている？

お金の価値を最初に決めている者がいるはずだ それは誰だ？

列車のレールのサイズや電気の規格は？そして法令や法律は？一体誰が最初に決めている？

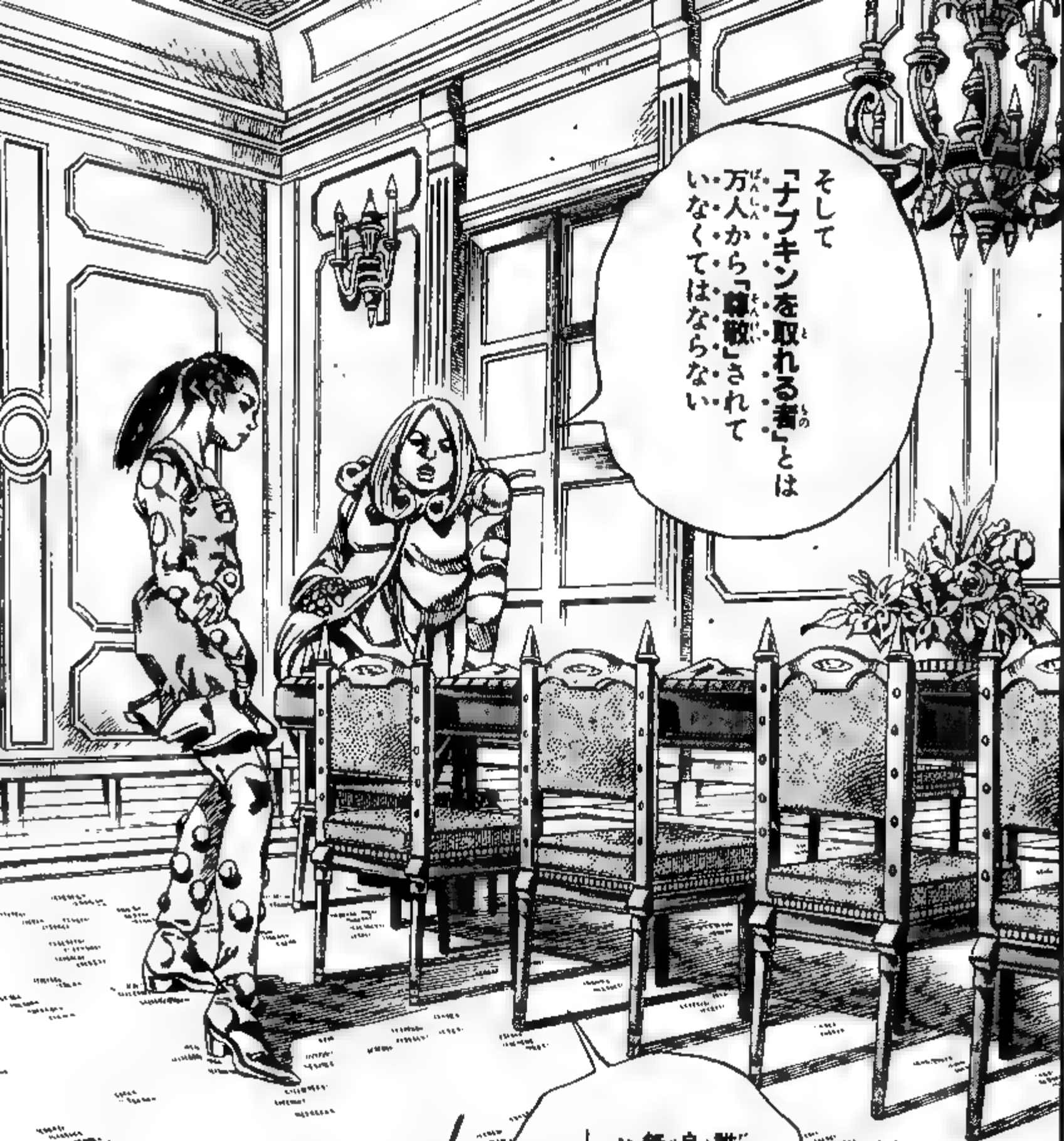
民主主義だからみんなで決めてるか？それとも自由競争か？

違うッ!!

ナプキンを取れる者が決めている！

この世のルールとは「右か左か」？このテーブルのように均衡している状態で一度動いたら全員が従わざるを得ない！

いつの時代だろうと……

この世はこのナプキンのように動いているのだ

そして「ナプキンを取れる者」とは万人から「尊敬」されていなくてはならない
誰でも良いってわけではない…無礼者や暴君はハジかれる——それは"敗者"だ
このテーブルの場合…
「年長者」か…もしくは「パーティー主催者」に従ってナプキンを取る……「尊敬」する気持ちが全員にあるからだ……

仮にこのテーブルに「イエス様」がつかれているとしたら

たとえどんな人間だろうとローマ法王でさえイエス様のあとに・・・・ナプキンを取らざるを得ないだろう?

……

イエス様……

?

どういう意味ですか?

このレースと何の関係が?

「たとえ話」だよ

「た・と・え」だ!

このレースが終わる時我々の繁栄が始まるという事だ

もうすぐそれが手に入る……世界中の万人が「敬意を払う」ものがな…

それはゆるぎない確かなもの

それが「真の力」だ
その力の下には「味方」しかいない
最初にナプキンを取る事のできる人間になる
その「円卓」にこの「ファニー・ヴァレンタイン」が座る事になるのだ
何なんだ?スカーレットすごくカワイイぞその表情
興奮して来た……服を脱げ

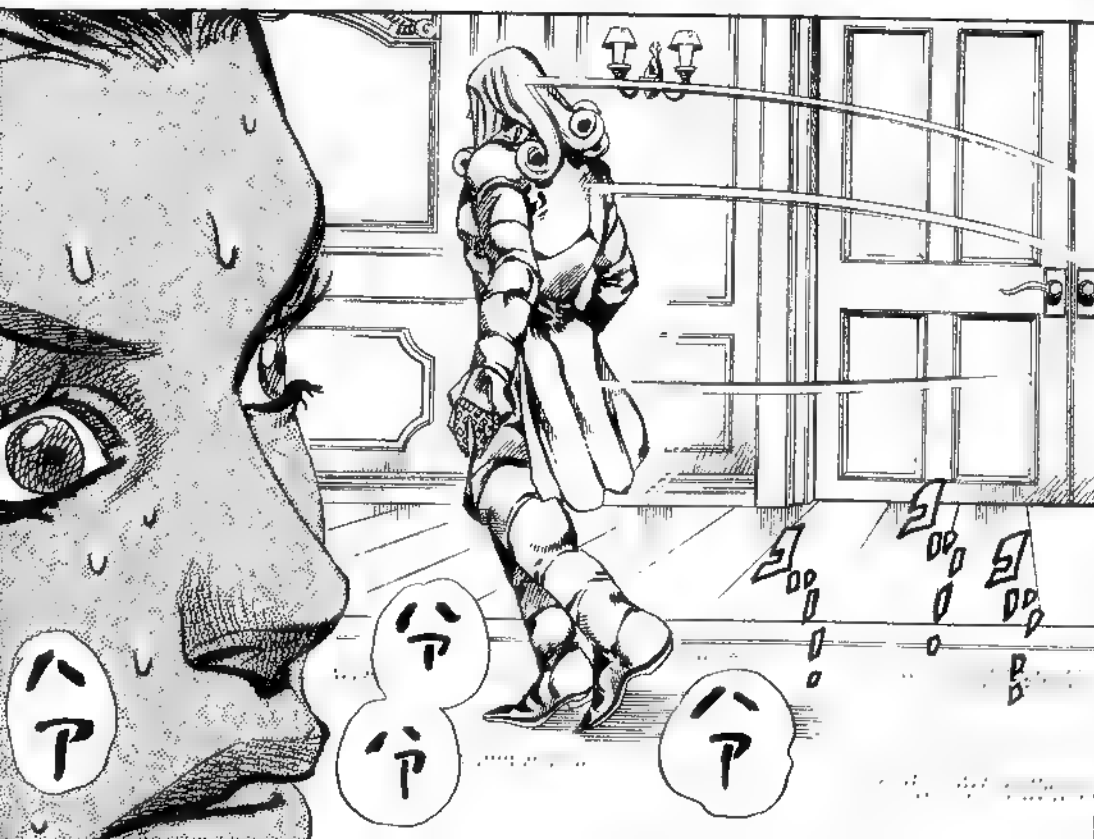
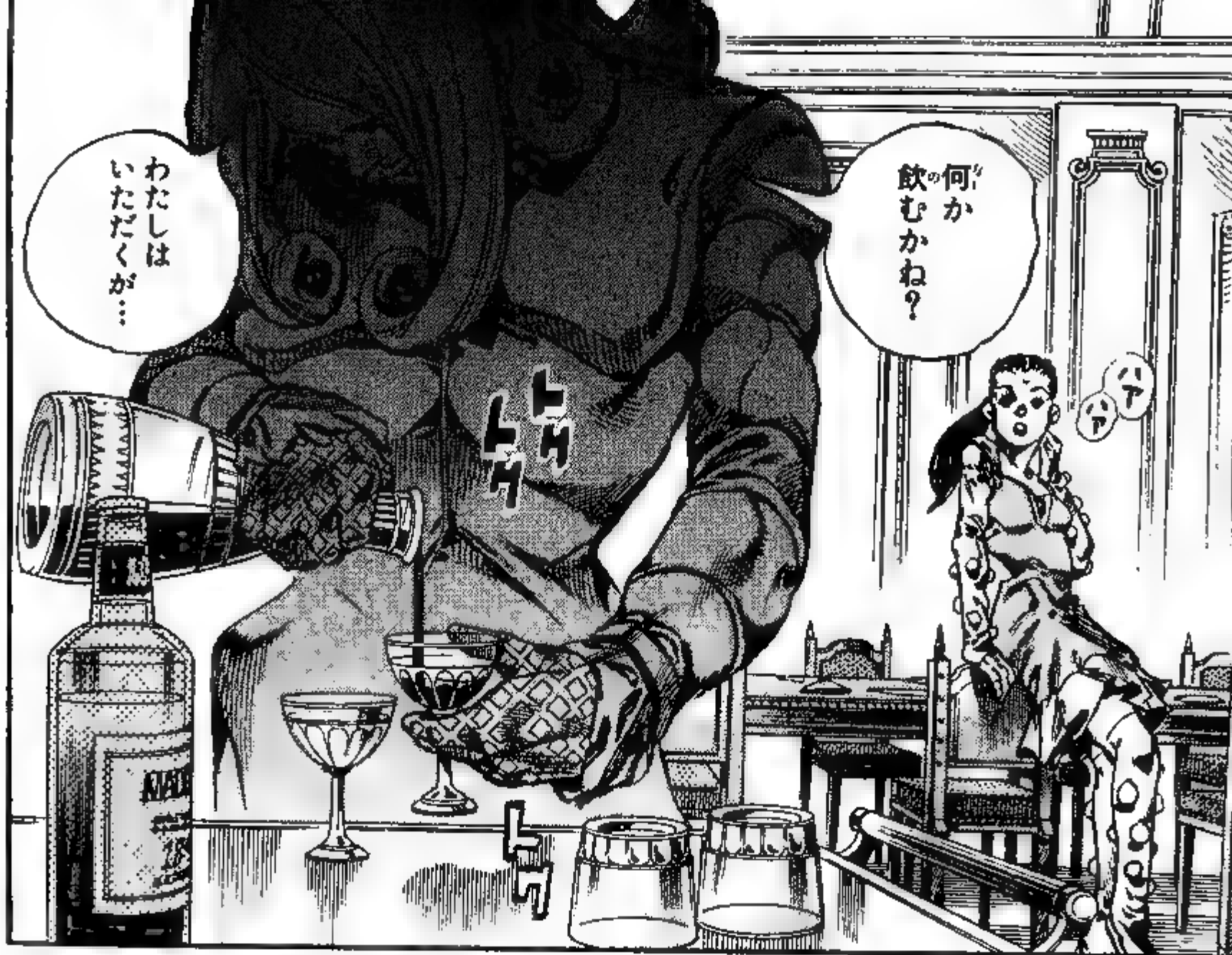
え？
……

何か
飲むかね？

わたしは
いただくが…

トクトク

トク

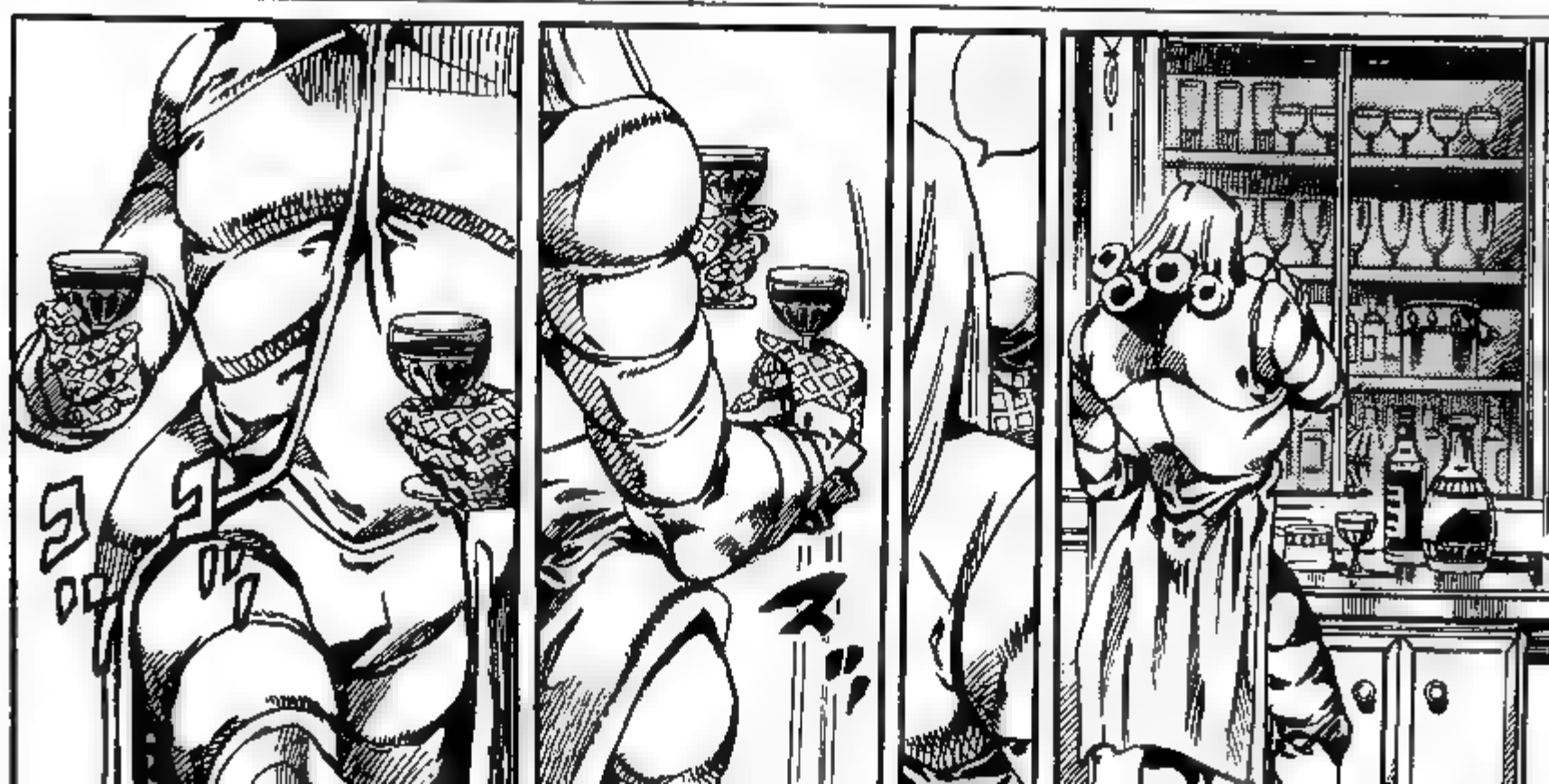
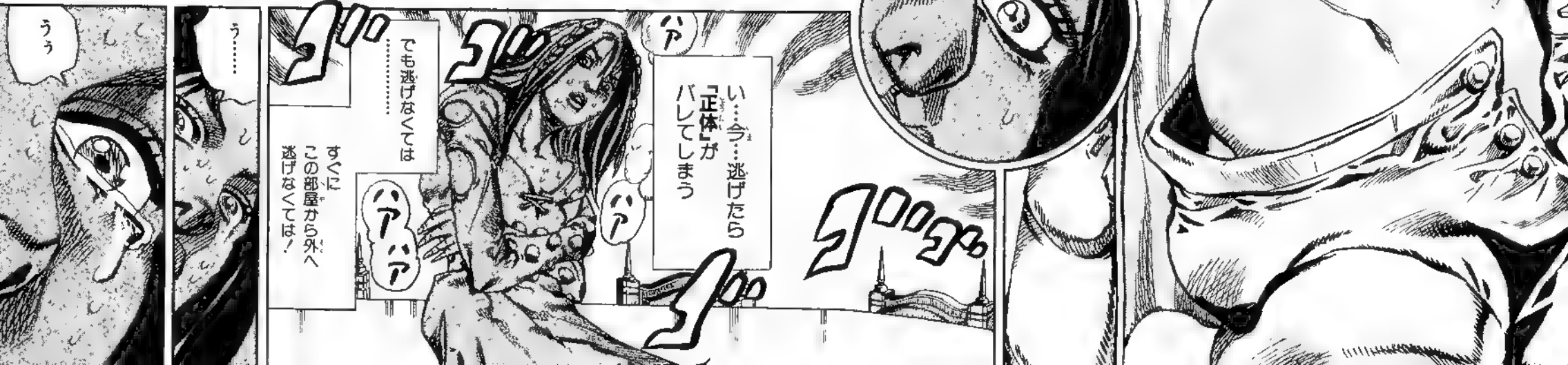
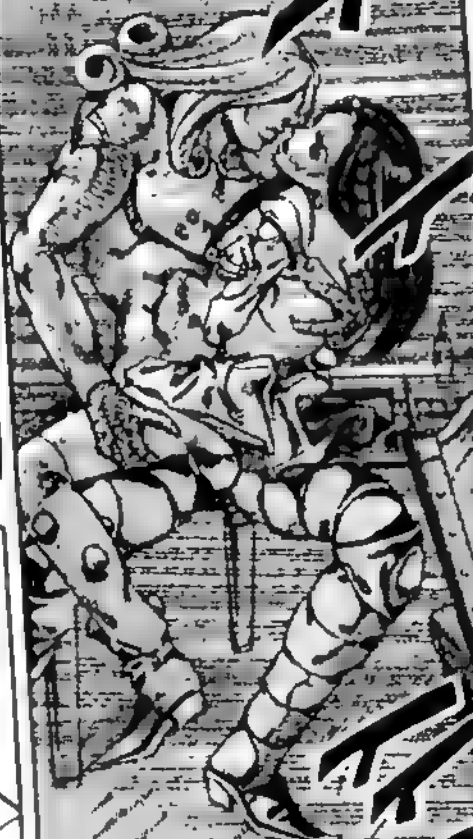
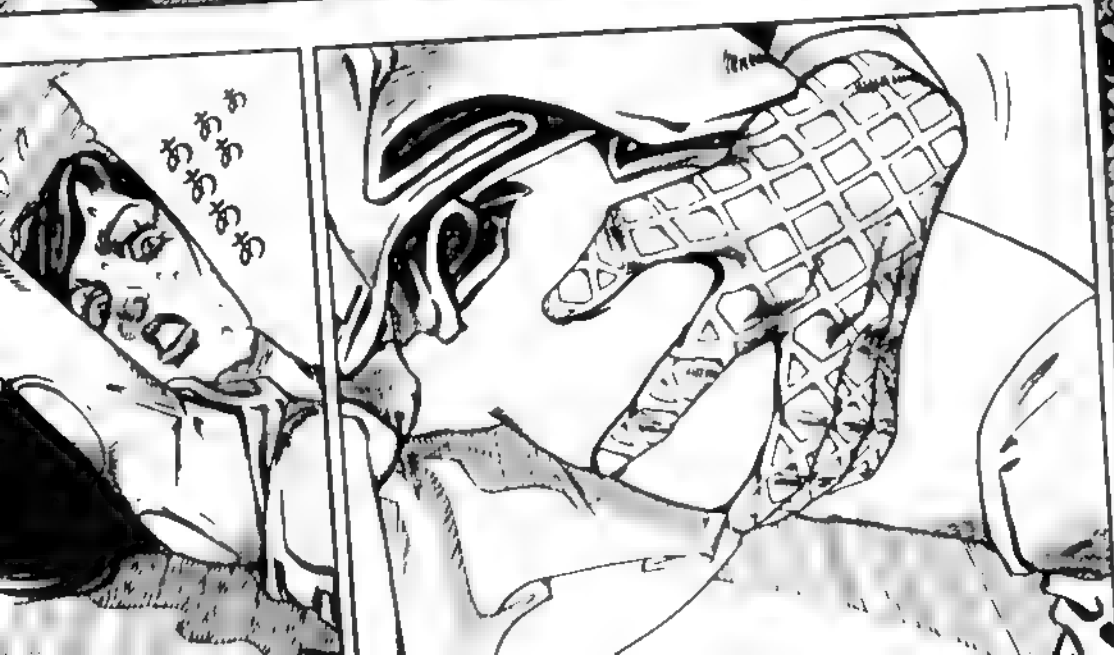
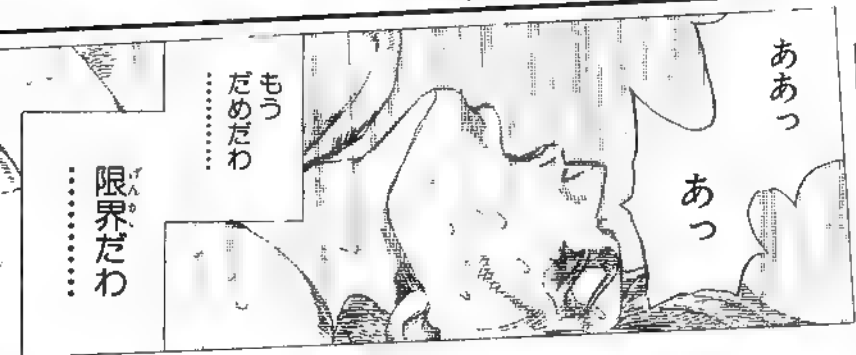
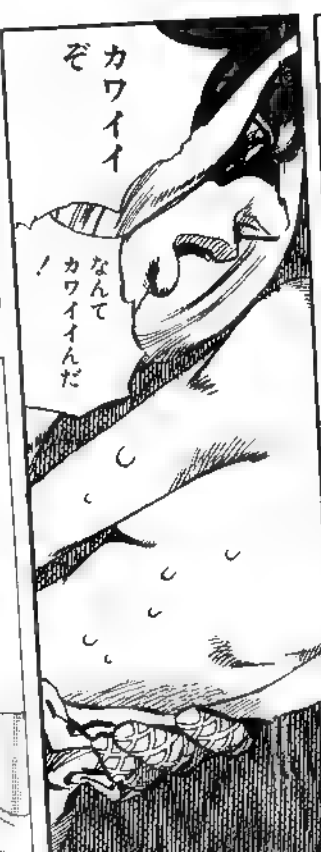
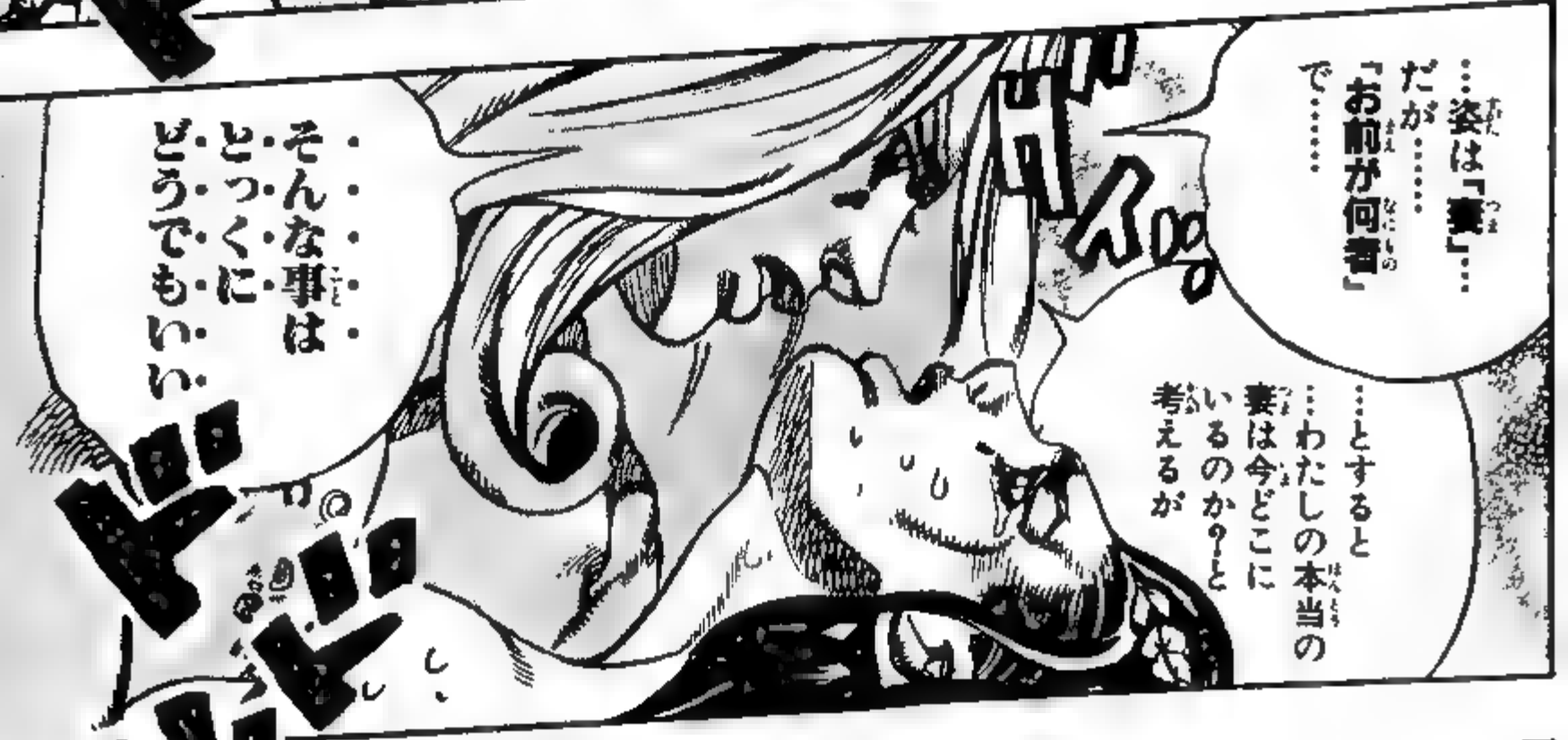
ハァ
ハァ

…今 何て
言った？……いや…
ボディガードのところへ
行く前……
ボディガードに
入ってくるな…と言う前

…ドアが閉じられた…
「その前」…
に…逃げなくては
…こ……ここから

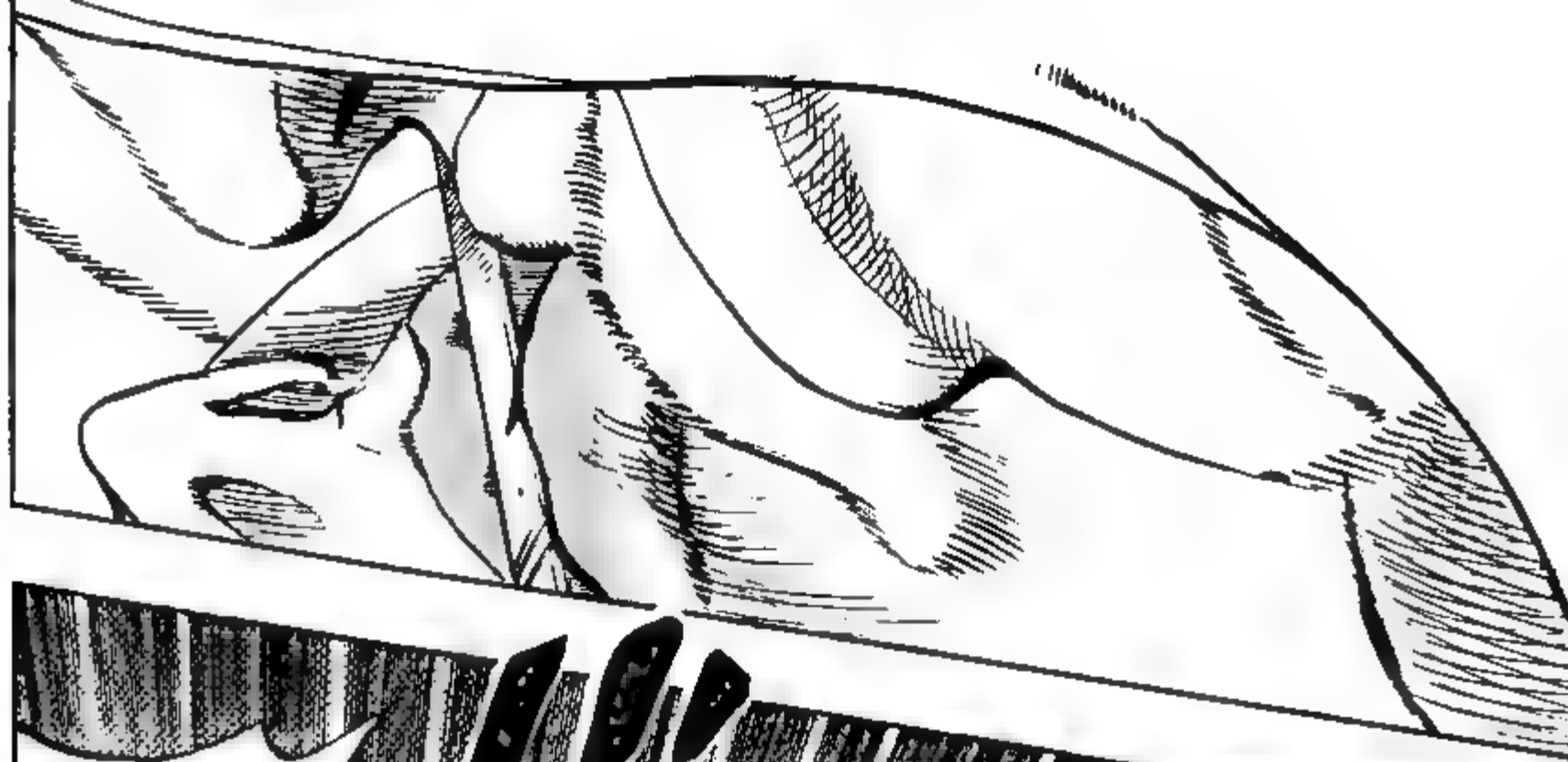
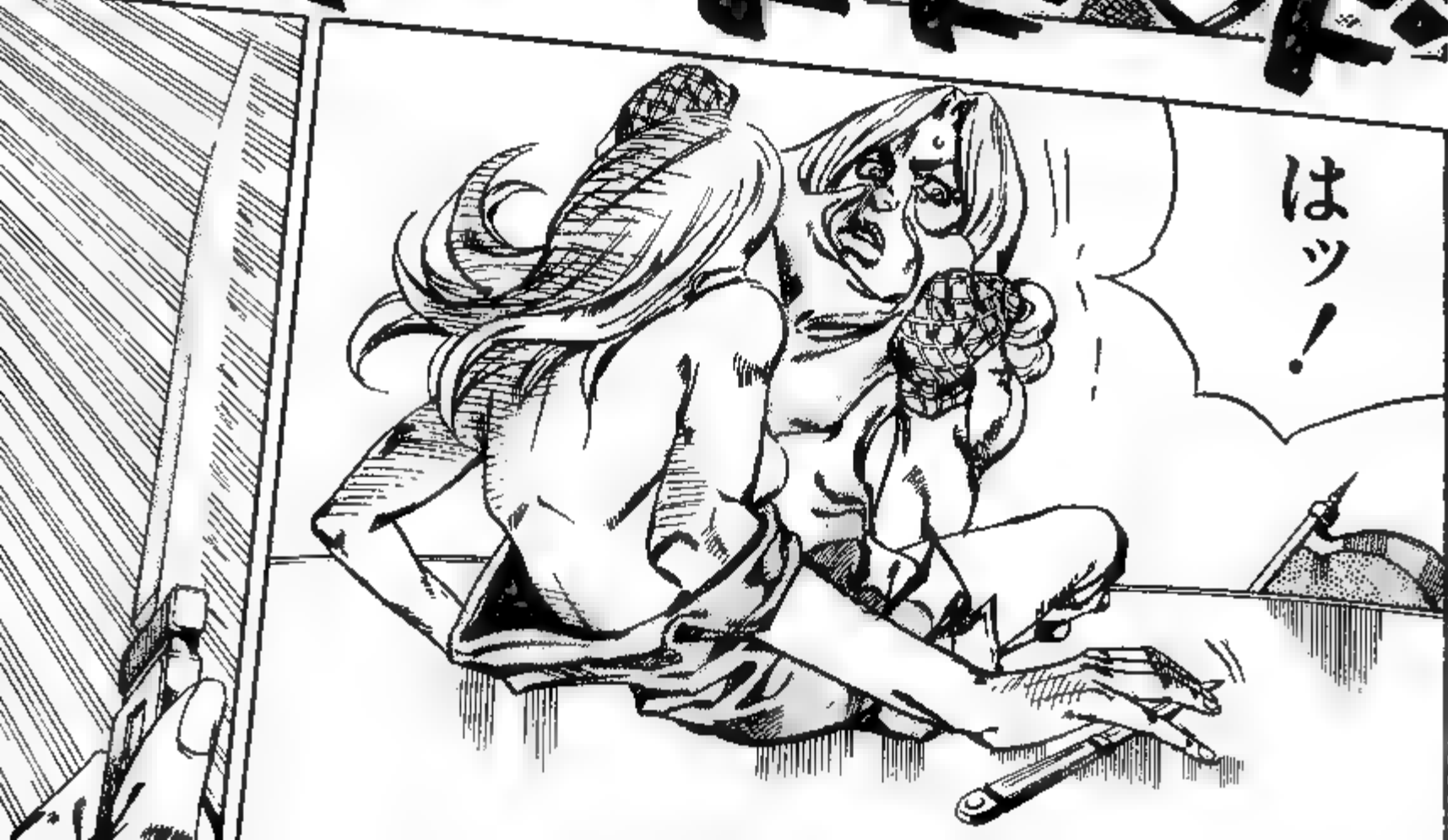
ハァ
ハァ

ア゛
ア゛
ア゛
ア゛
ア゛
ア゛
ア゛
ア゛

や…やっぱり「正体」がバレてるッ!?…い…いや…違うわ…まだバレてはいない
たしか「服を脱げ」と言った……まさか!まさか!
!?
ドゥワ
ガシャン
客人をもてなす・・・・・テーブルの上は好きだろ?
1776年かつてこの建物で独立宣言文書が作成された…この大広間でかもしれない……
欲情するか!?このテーブルも100年以上はたってるぞファースト・レディだけがやれる特権だ
スカーレット!
ハアハアハア

いつもうずいて
ツッぱっている
このキズ
……
兵士として
戦争へ行った時の
拷問された
古キズ…
なぜか急に
今…痛みが
止まったぞ
い…今…逃げたら
「正体」が
バレてしまう
ハァ
でも逃げなくては
……
すぐに
この部屋から外へ
逃げなくては!
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
う……
うぅ

きっと今！
肉体が新しい生命を求めているからだ！
これから「真の力」を得た時…
子孫が必要になる…
「力」は子孫に伝えてこその繁栄だ
ギギギギ
ギギギギ
ギャギャ
ギャギ
ドバシィィィィィィィィ
はッ！
罵って喜ばして欲しいかッ！
服を脱げッ！スカーレットッ!!
あっ
ああッ
ああああああああ

あっああっ
あああ
あああああ
ああっ
……うっ
うっ
カワイイぞ
なんてカワイイんだ！
ああっ
あっ
もう……だめだわ
限界だわ……
あたしには『遺体』をどうするなんて事は……とてもできなかった
こんな無力なあたしは……最初から……ルーシー・スティールはもう……
もう『限界』です

はーッ
はーッ
ハーッ
やはりな……
ハーッッッ
今までの「裏切り者」は……お前だったか……
なんとなくわかっていたぞ
ハッ
…妾は「妻」…だが……「お前が何者」で……
…とすると…わたしの本当の妻は今どこにいるのか？と考えるが
そんな事はとっくにどうでもいい
ハアッハッ！ハアッ！

今まで
わたしたちは
なぜか子供に
恵まれなかった
ハ
ハッ
そして
今のわたしは
君をもの凄く
気に入っている
君は何て言うか
どう表現すれば
いいのか…
とにかく夢中だ
夢中にさせるぞ
ハッ
ハッ
ハッ
おっと!!
舌を
噛み切ろうと
しているのか？
そんな事は
許さない…
ハッ
うぐっあ
ああ！
かっ
ハァッ
ハァッ

わたしは産んでもらえればそれでいい
おまえに妻のかわりになってもらうぞ
あ……あぁっ
ぐっ…い…いや
いやあああっい…いや…
だ誰か…あああああ
いやぁああああああああああ

ぐっ……
かっ
何だと……!?
これは……!?
この皮膚は……
おまえは……!?
確か……
「スティール」の
ところの…
はッ！

うあああああっ

……
?
うあぁぁあああ
?
なに……?
うああああ
……ぐ……
うおあ
うぐぁ
おまえ
……おまえ

ひいいいいいいっ
うあああ
ま…待て…
ぐばっ
おまえはルーシー・スティール……なぜだ
動機は何だ？スティールのとこの嫁…が……
ぐえっ
ひいいいいイイイイ！
があああああ——

ひいィ
かっ
ぐばっ
だ…誰か…
だ…
誰か…来て…
くれ……

パタン

……

ハアッ！
ハアッ!!
ハアッ!!
ハアッ!!
ハアッ!!
ハアッ！
ハアッ！
ハアッ！
うっ
うっ
うう
うう
う
ううっ
うあ
あああ

あああ
あっ
あ
あっ
ああ
あっ

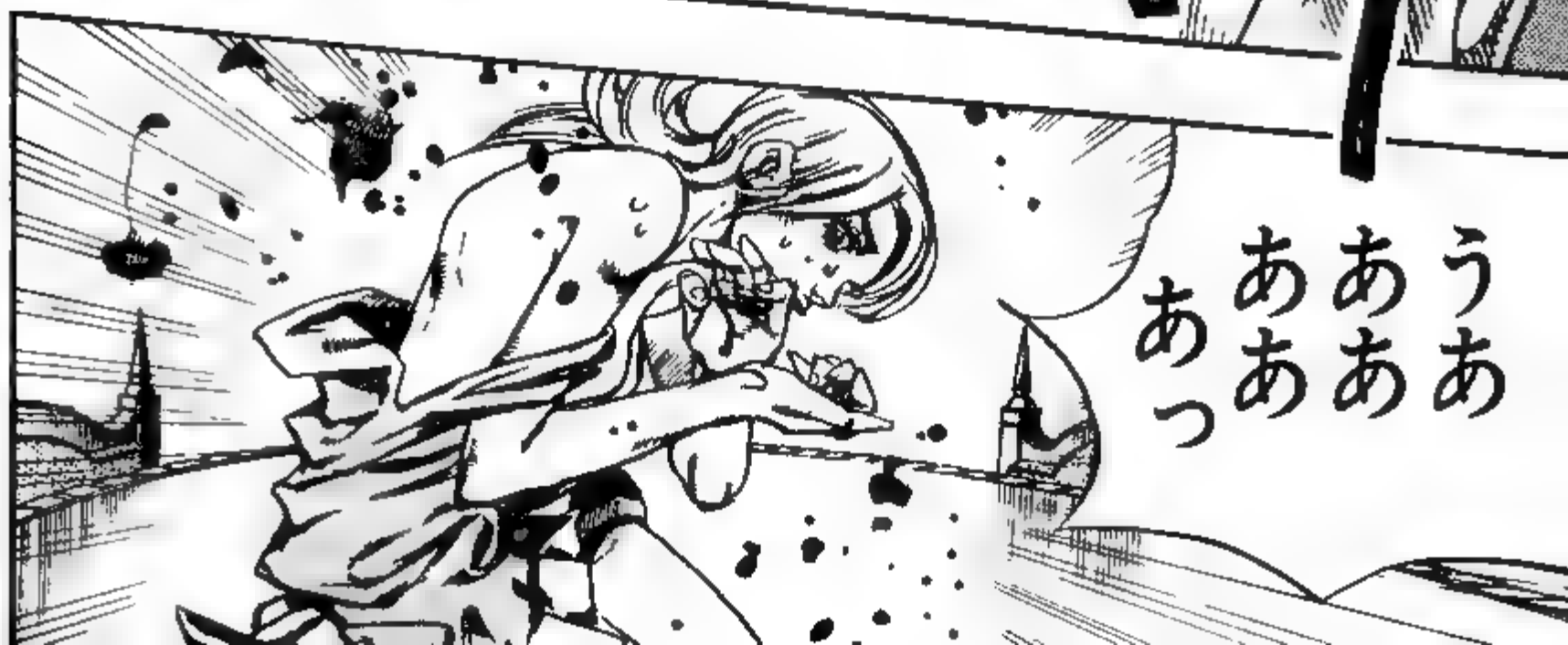
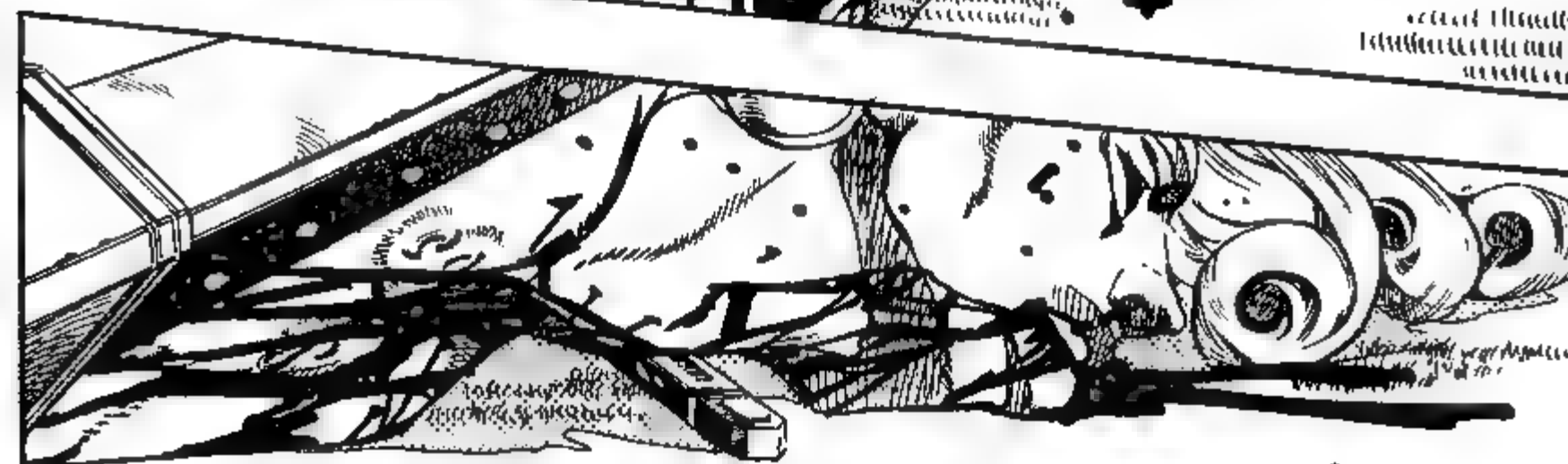
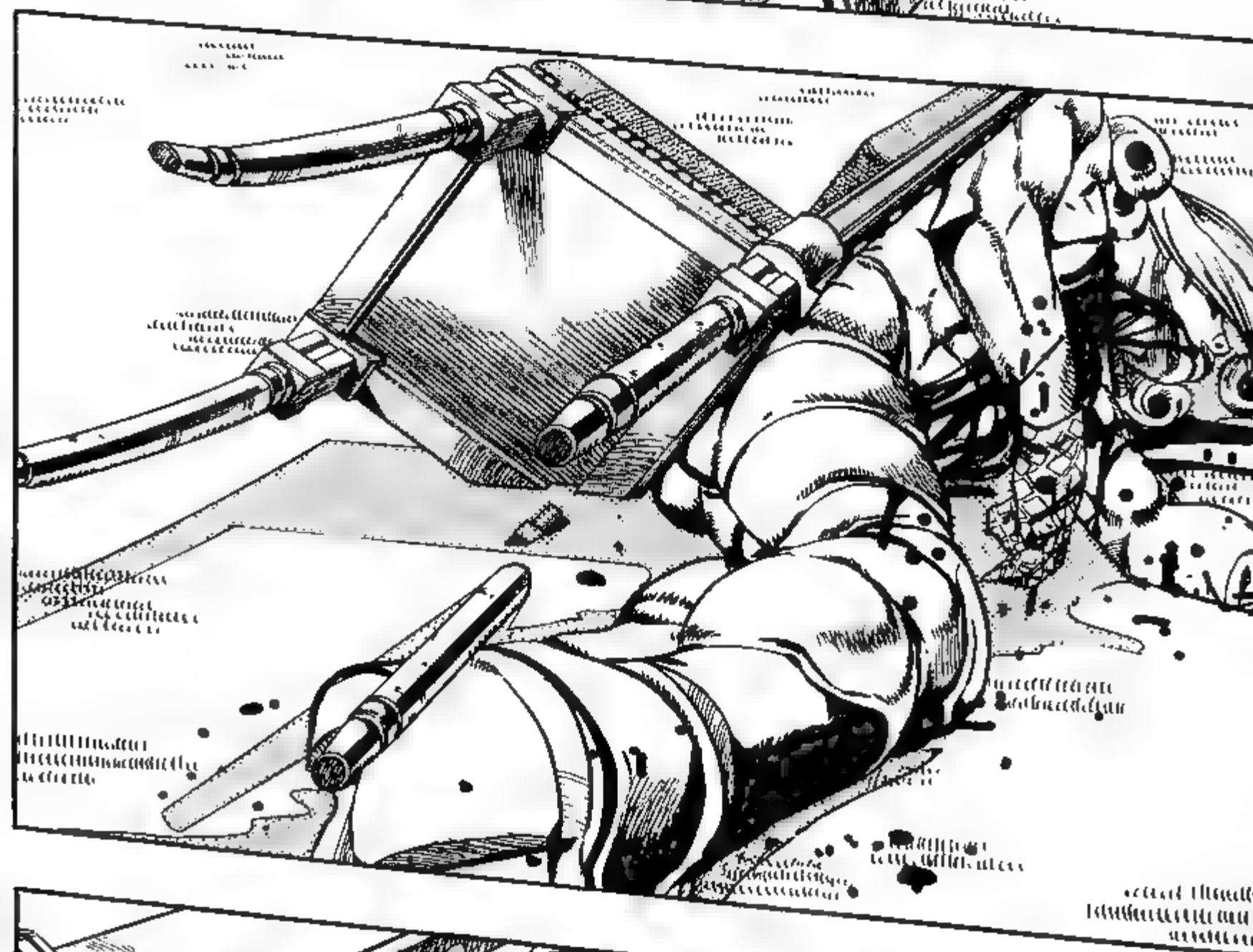
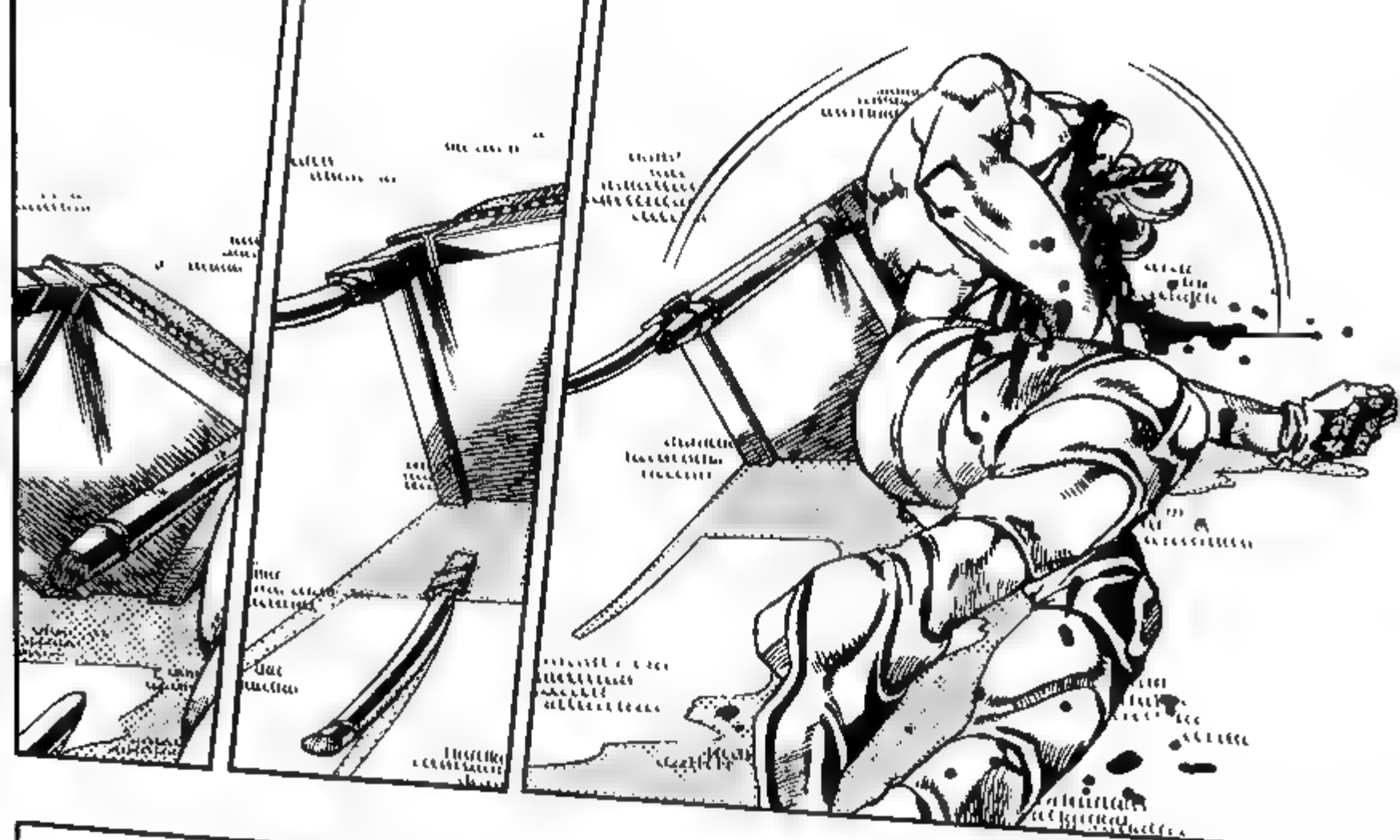
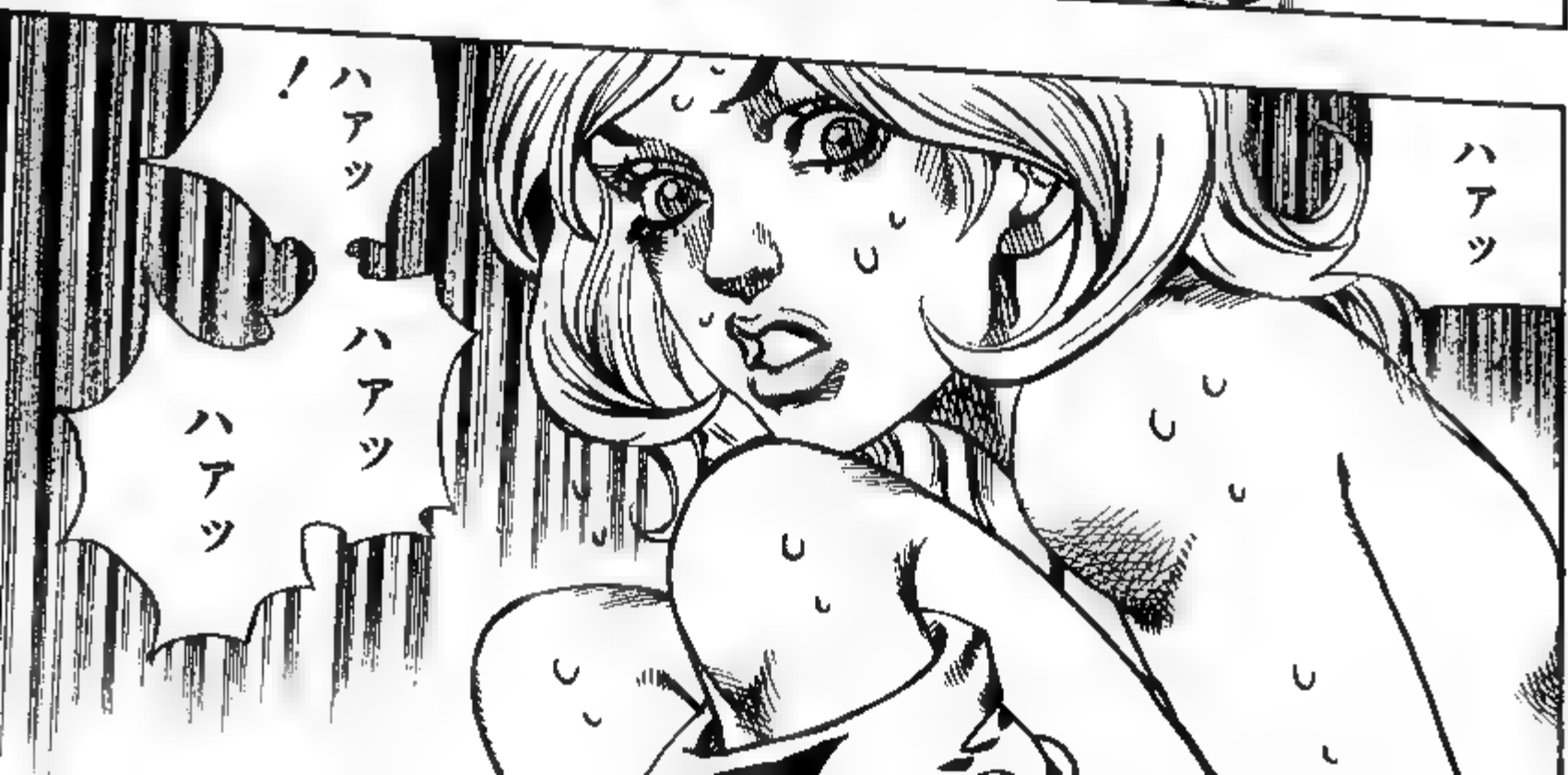
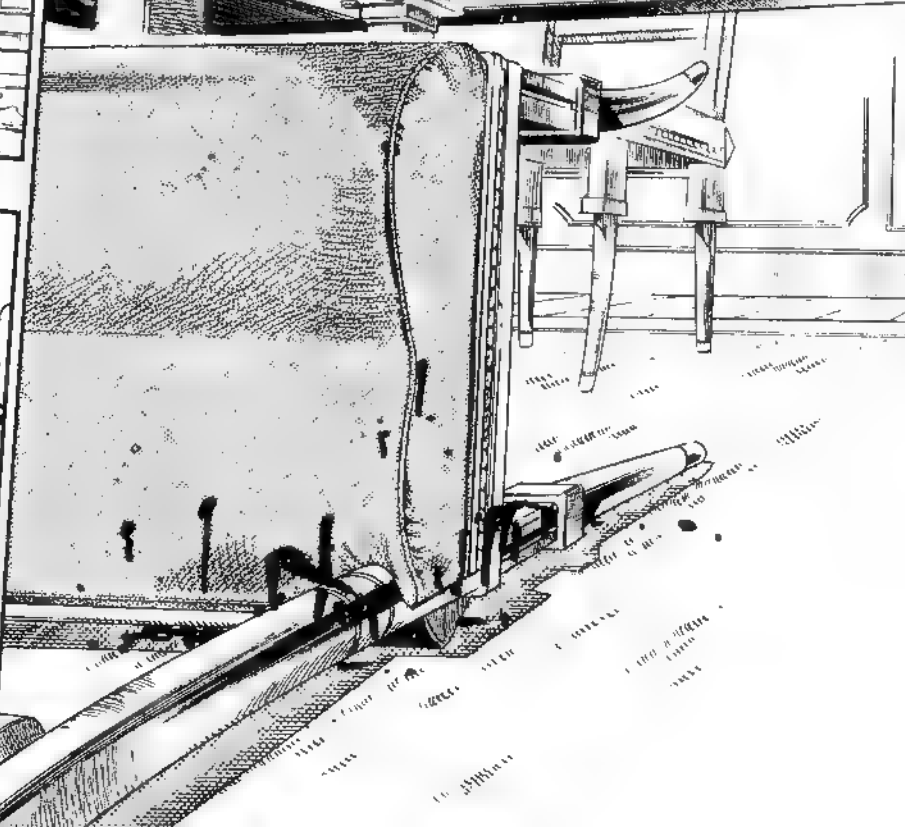
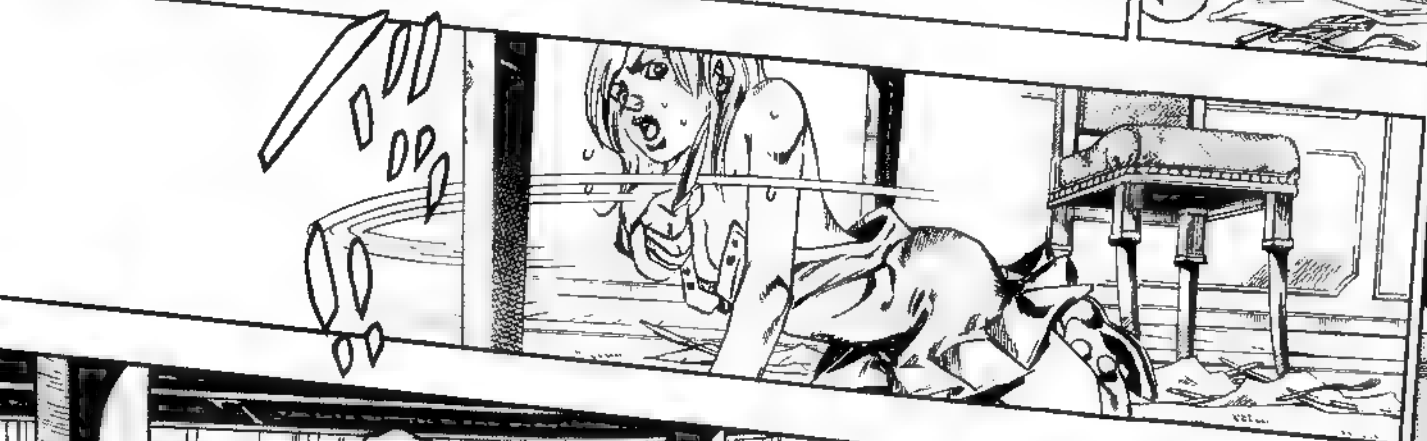
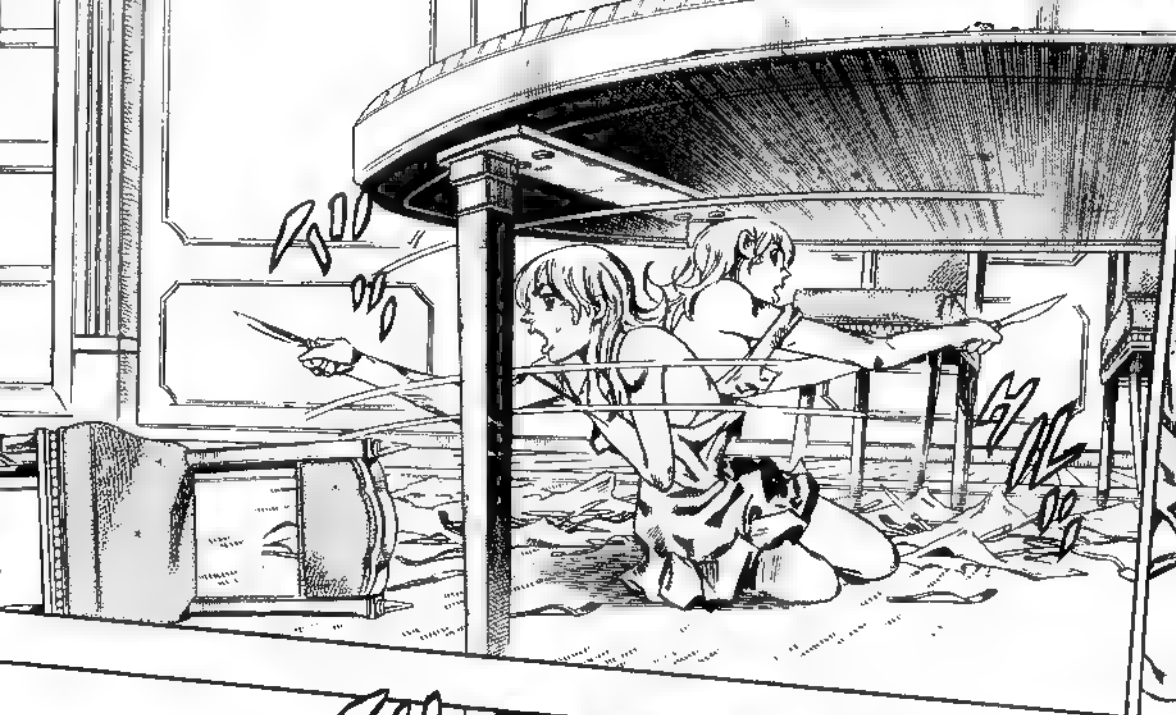
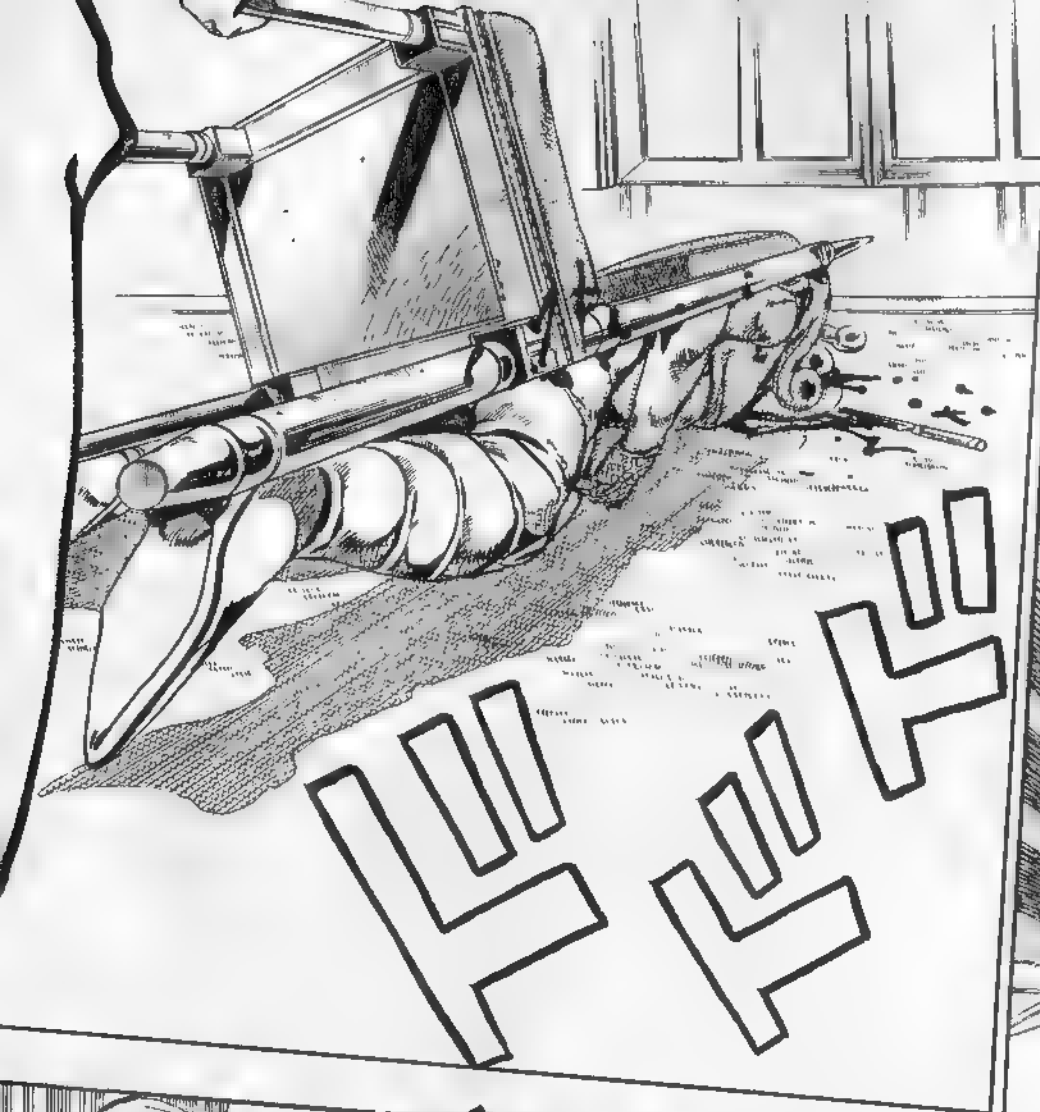
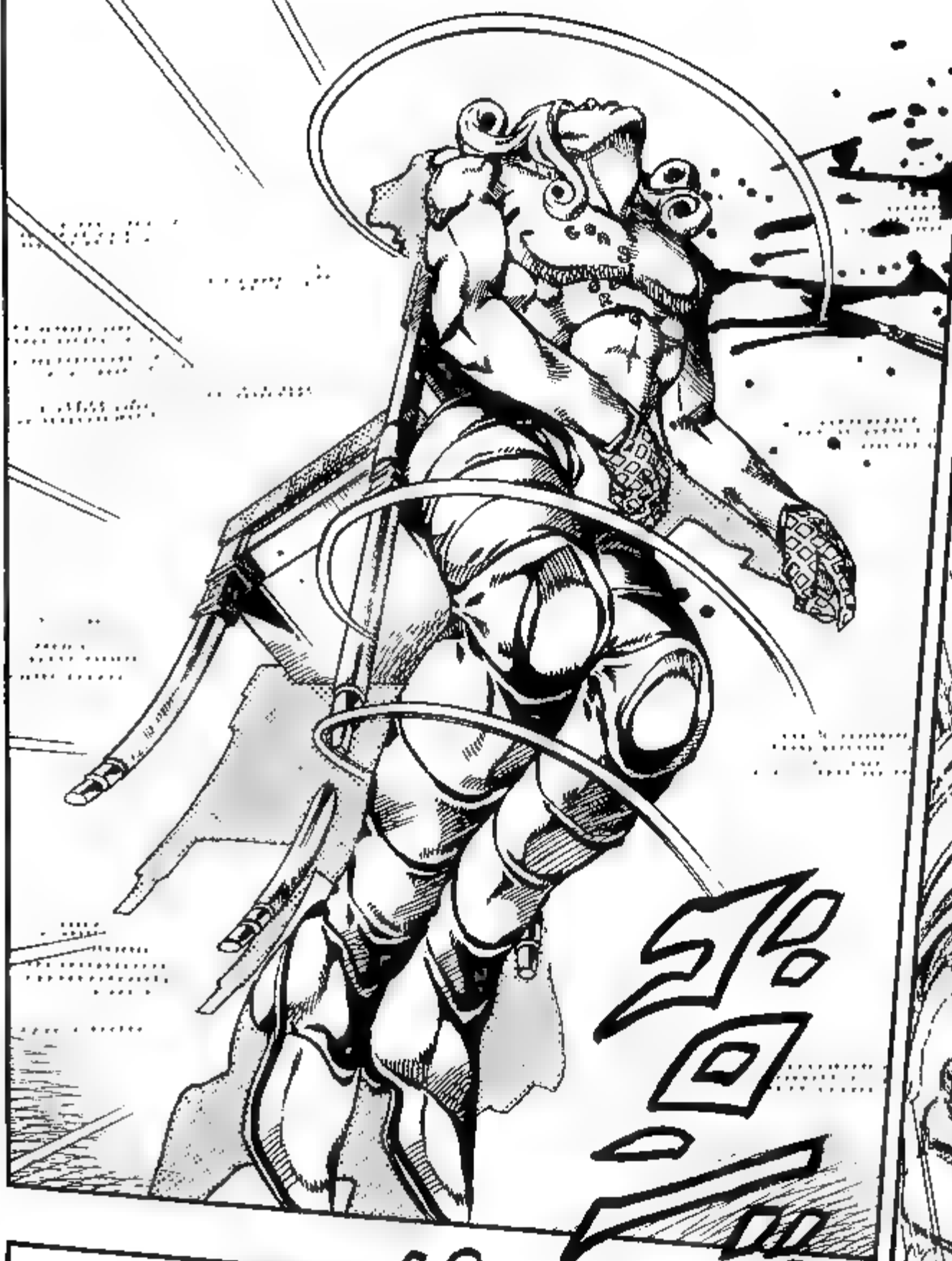
あああ
ガタガタ
ハアッ！
ハアッ
ハアッ！
ハアッ!!
ハアッ
ハアッ
ハアッ！
ドドドドドド
ハアッ！ハアッ！
ハアッ！
ハアッ！
ハアッ！
!!

ドドド
ドド
ハアッ
ハアッ
ドドドド
ハアッ ハアッ ハアッ
ハアッ ハアッ
うあああ ああ
ドドドド

こいつは！
この国の大統領は！
ゴゴゴゴ
パタッ
やはり
大統領は
!!

ああああああ
ああああああっ
「スタンド使い」
…………
そして
「悪魔」
ヴァアア

#62
いともたやすく行われる
えげつない行為

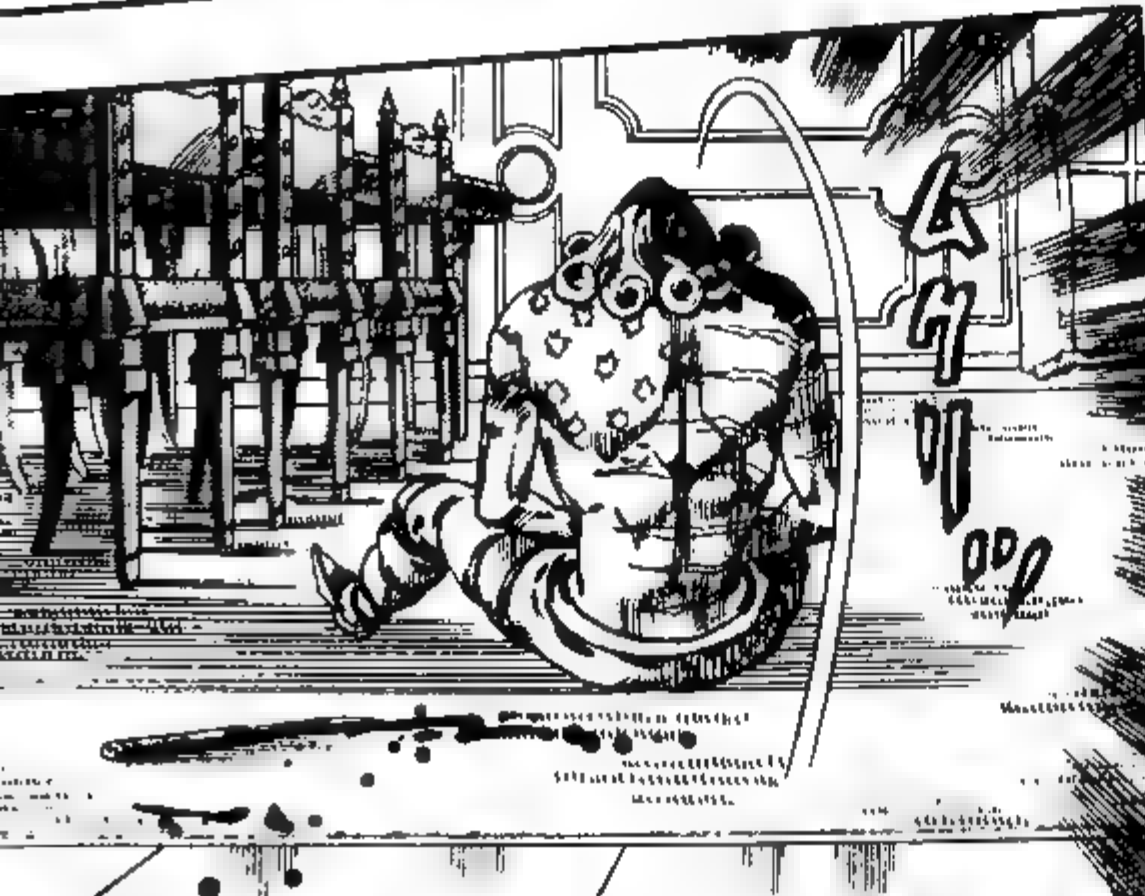
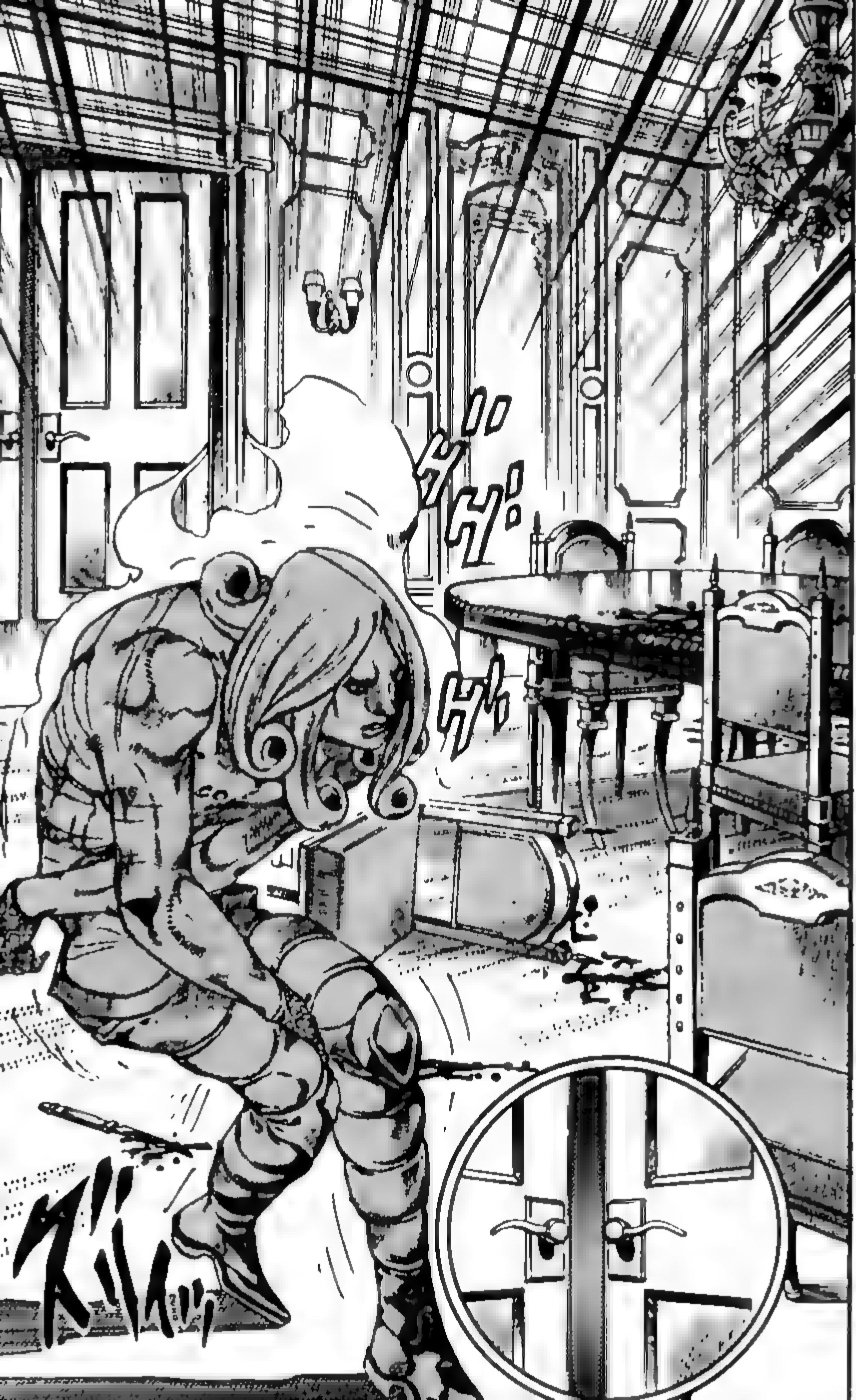
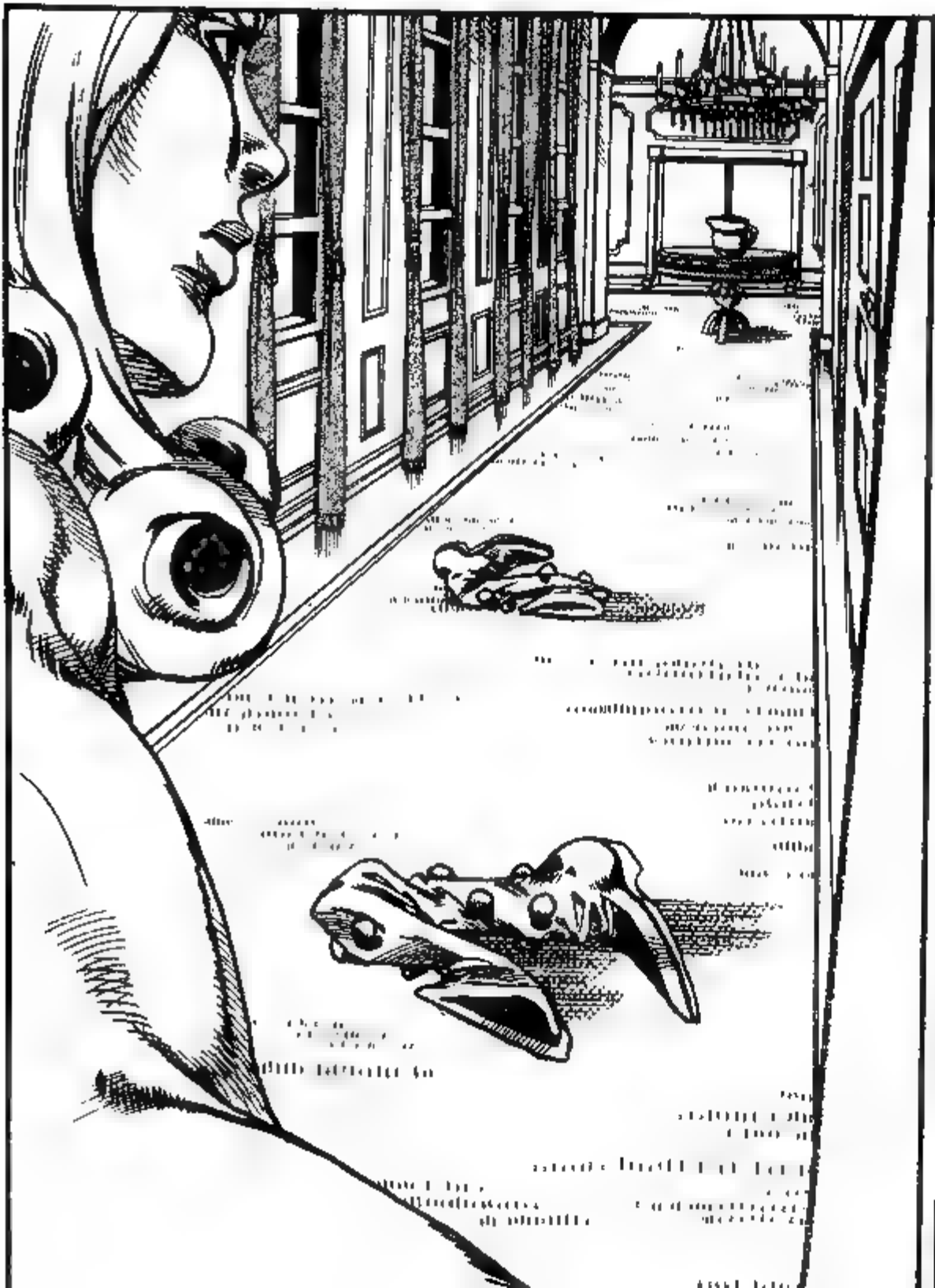
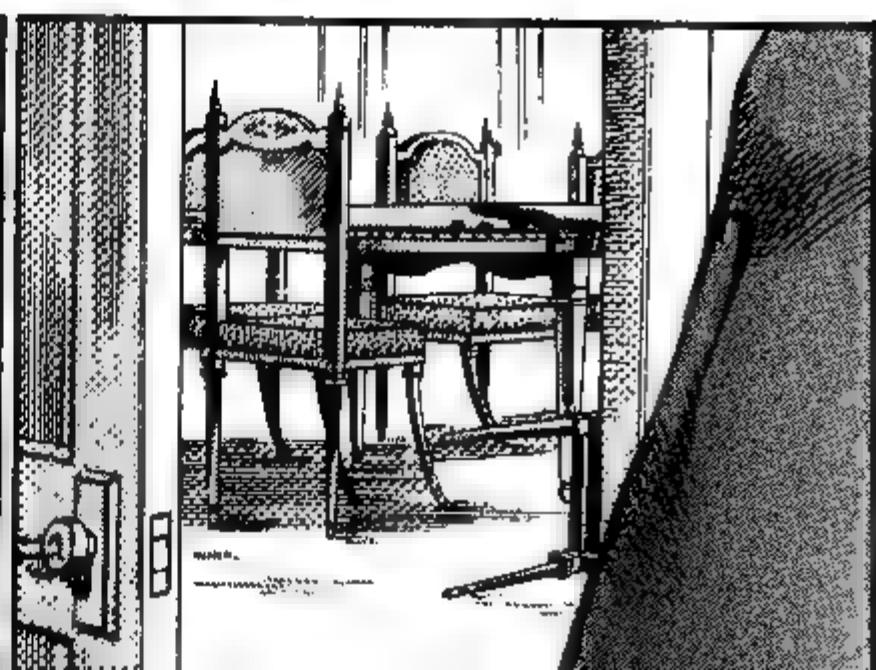
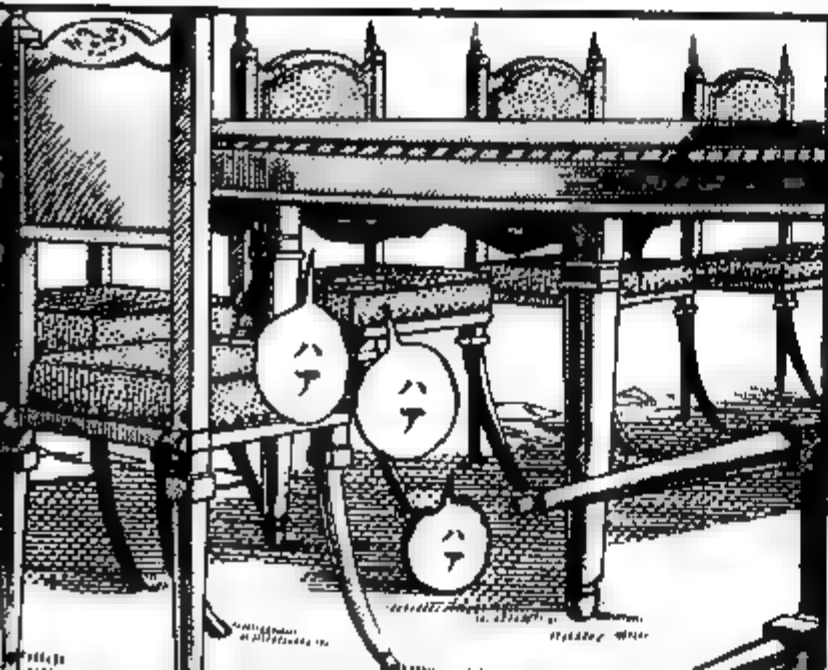
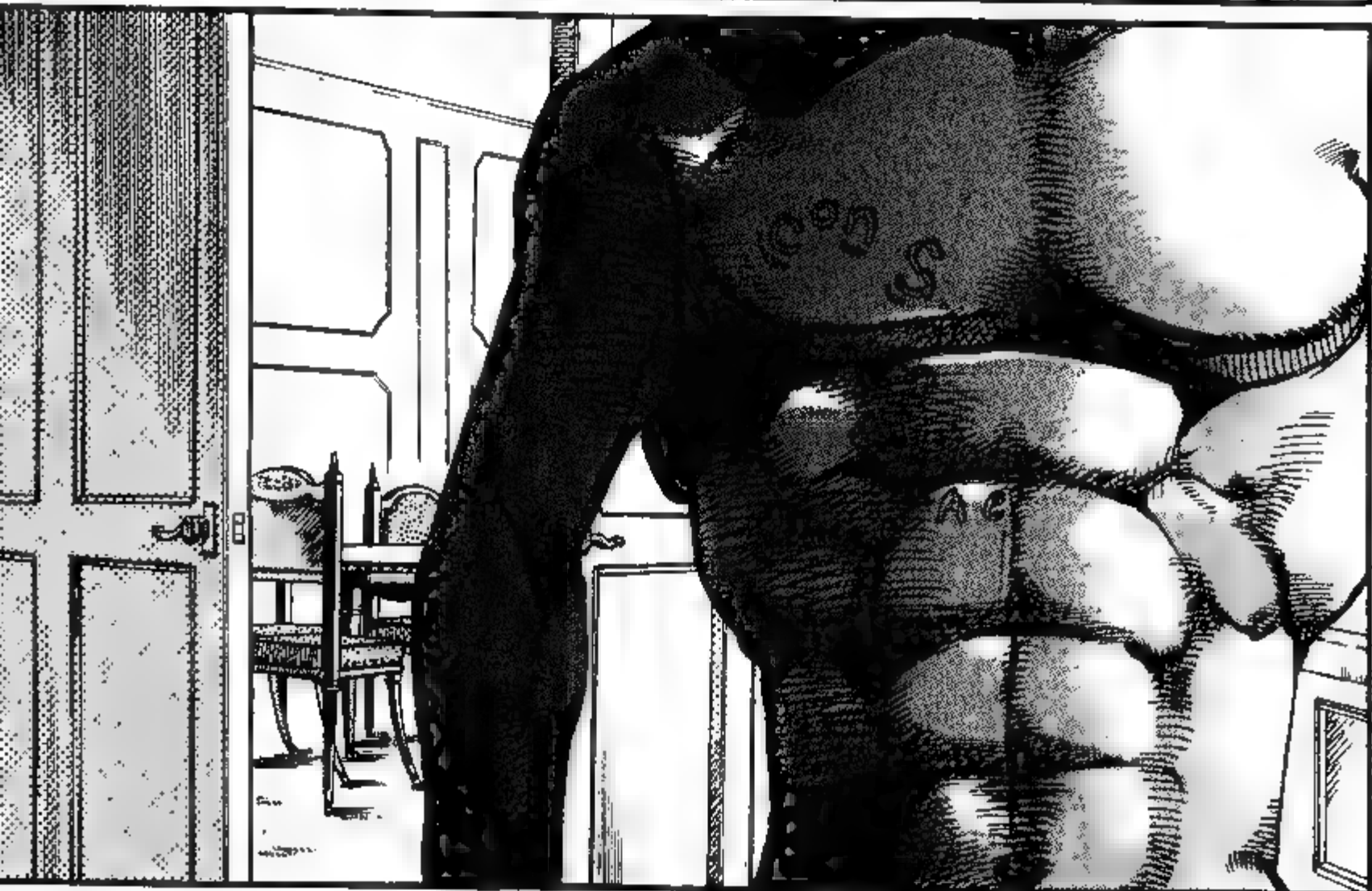
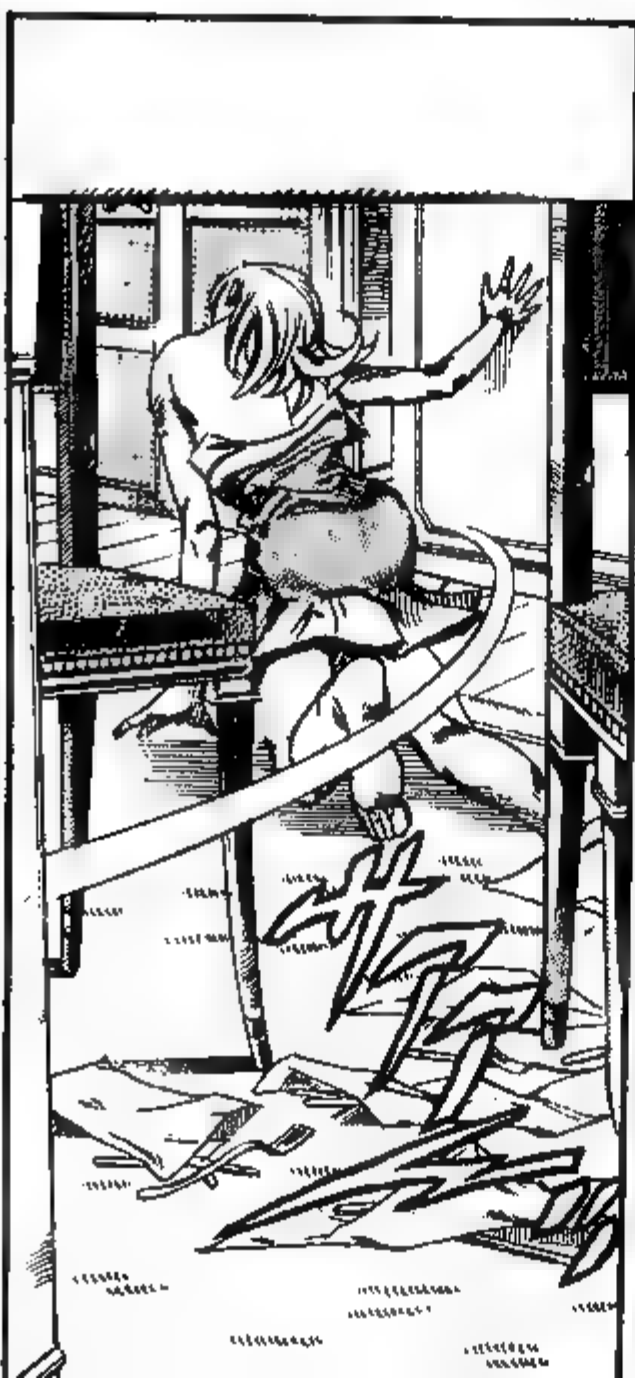
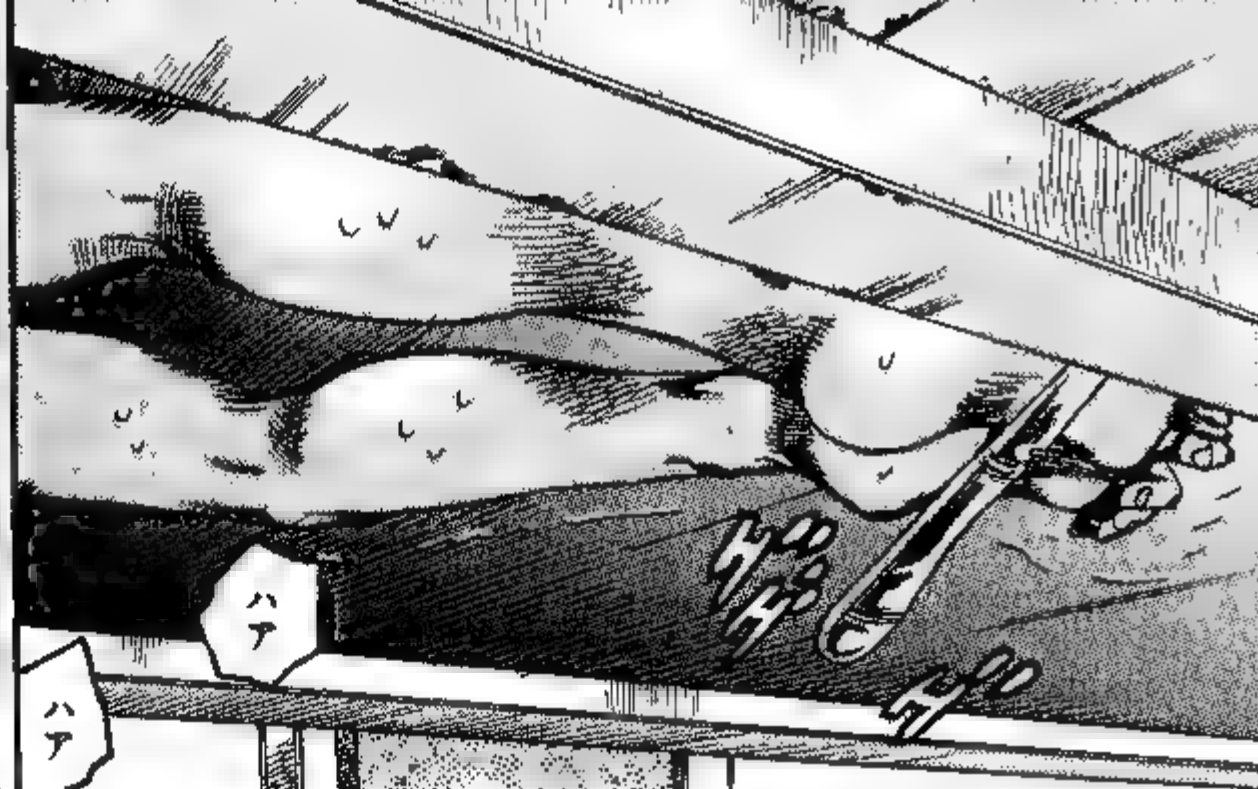
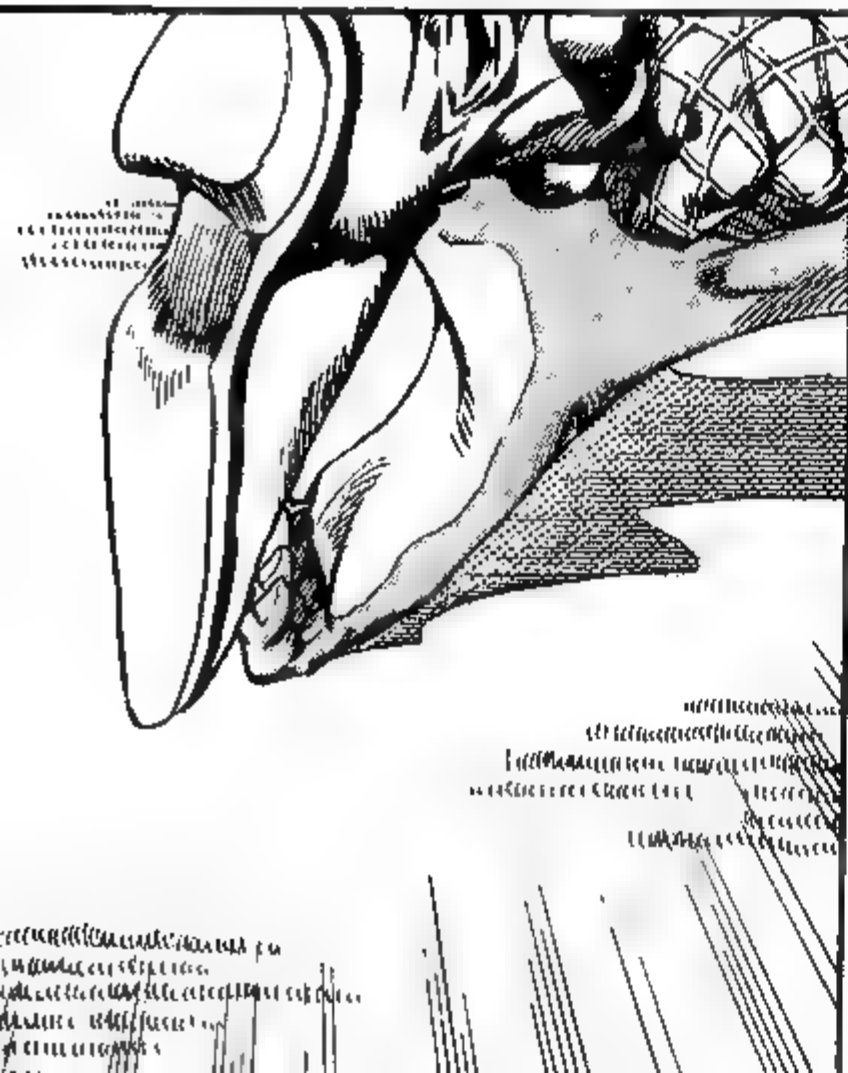
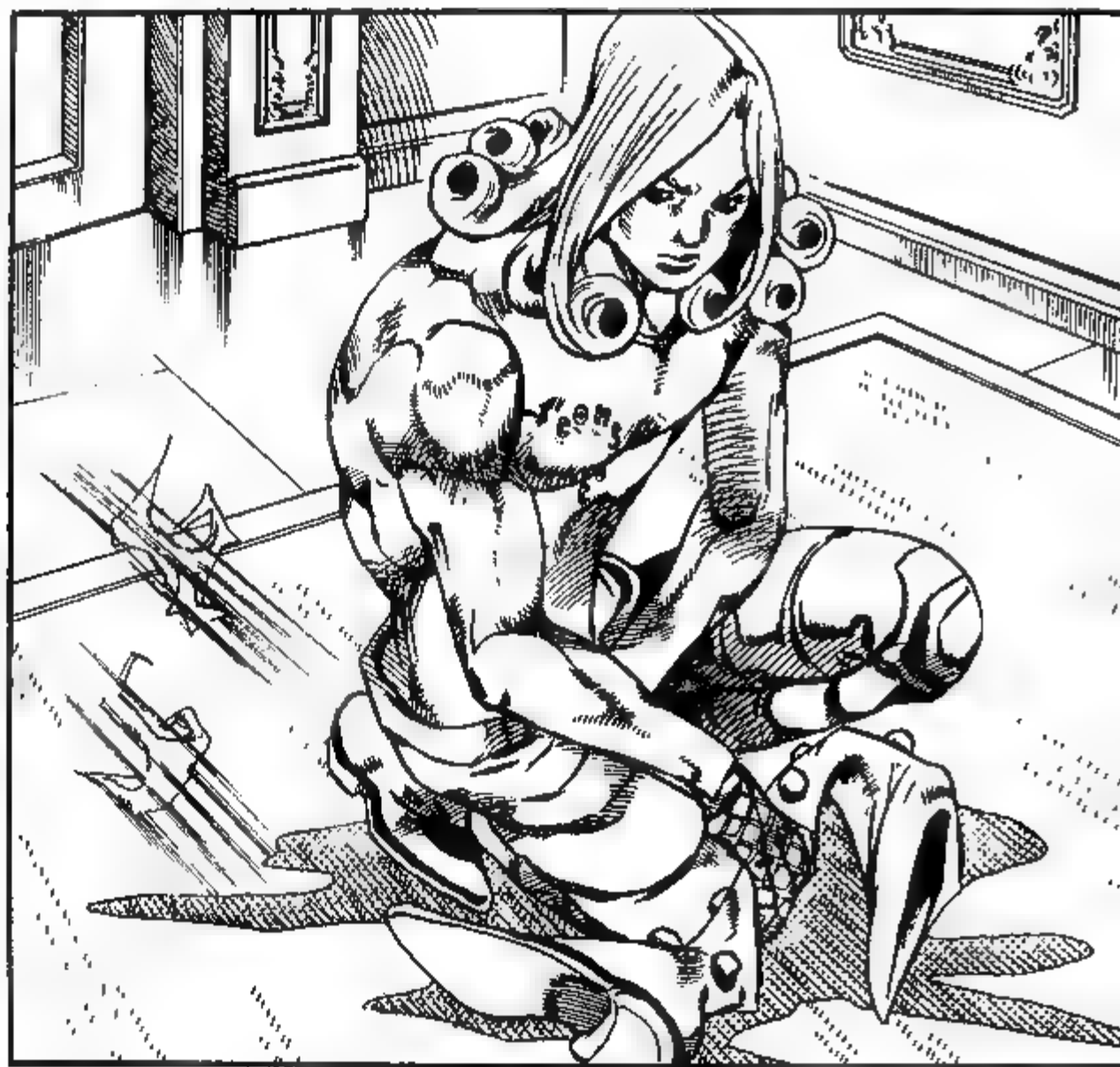
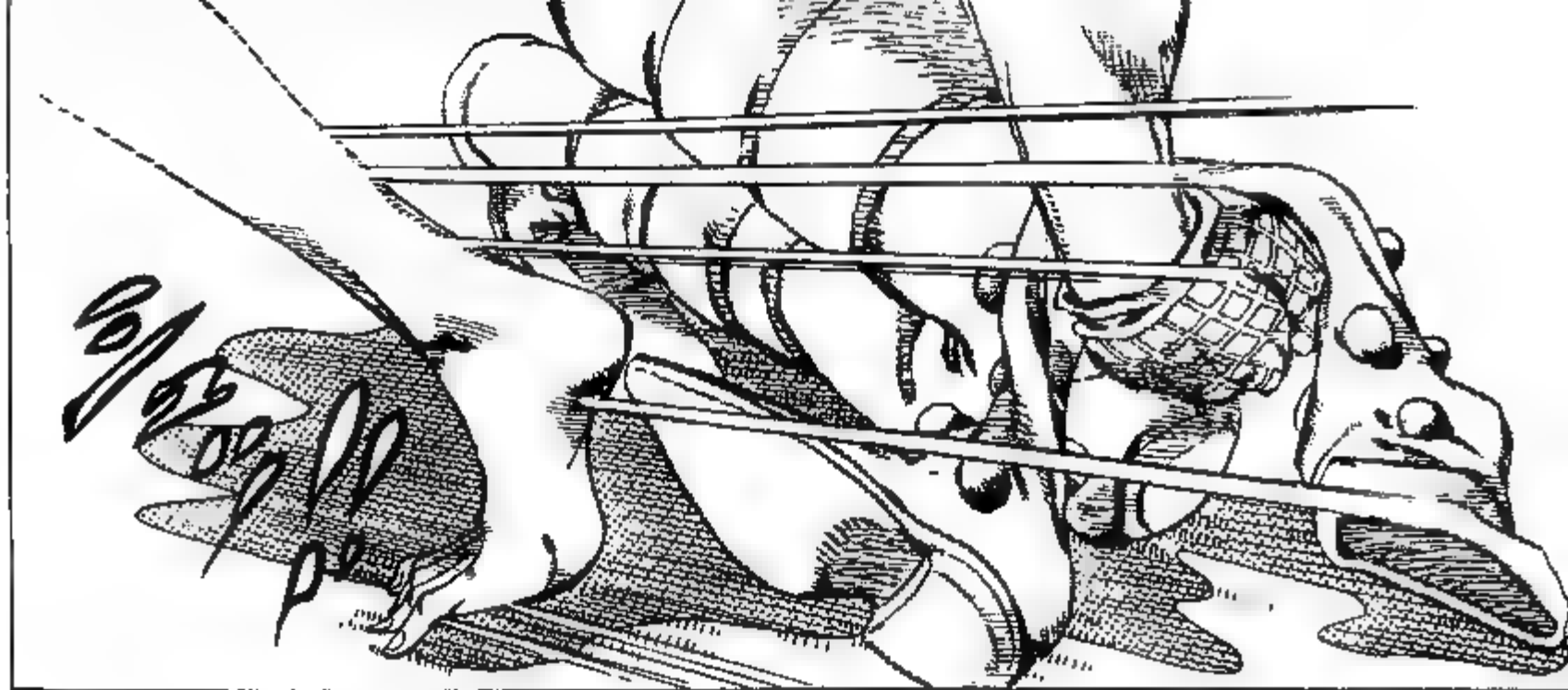
ううう
ハアー
ハアー
ハアー
ああ
だ…
だめだわ
ゴゴゴゴ
あたしの
せい
ゴゴゴゴ
ハアー
ハアー
ハアー
ハアー
あたしの
……
全部……
ゴゴゴ
ハアー

ドドド
ハア
ハア
ドド
何が起こったのか……!?
ハア
まるでわからない
「椅子」の下へ消えて…
「椅子」は背中の下へ消えた
ノドの傷も消えた
ドド
ドド
うあうううう
こいつは悪魔……
…悪魔が味方している
…きっと勝つだろうと
この大統領の事は
どうにもできない
全て…
あたしのせい
あたしがカンザス・シティで
よけいな事をしなければ……
ど…
どうか!
スティーブン
だけは…
ドド
ドド
ドド

ううう
うう…
神様
どうか
あの人の命
だけは……!!
助けてください
……あたしの持っている
もの……
そのためなら
何でも捧げます

……

ハァ
ハァ
ハァ

ハア
ハア
ハア
う
うう

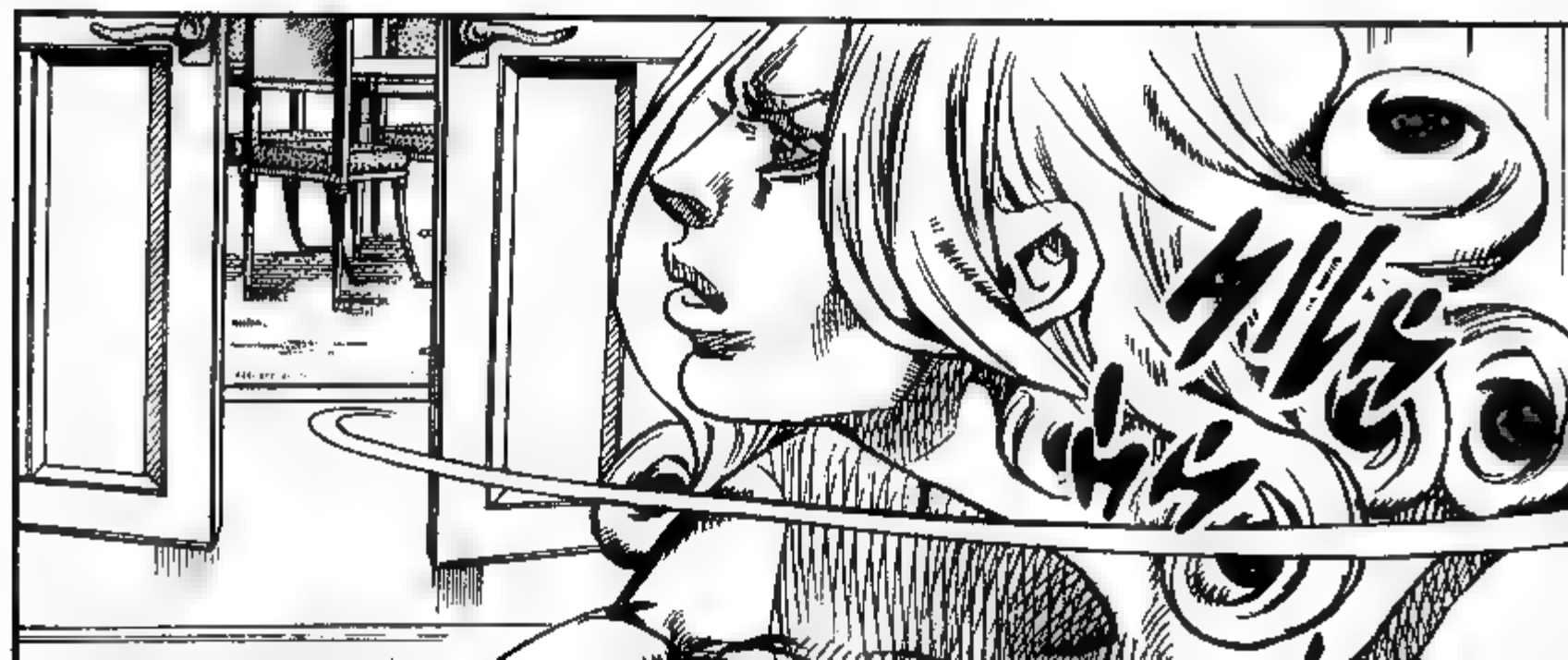
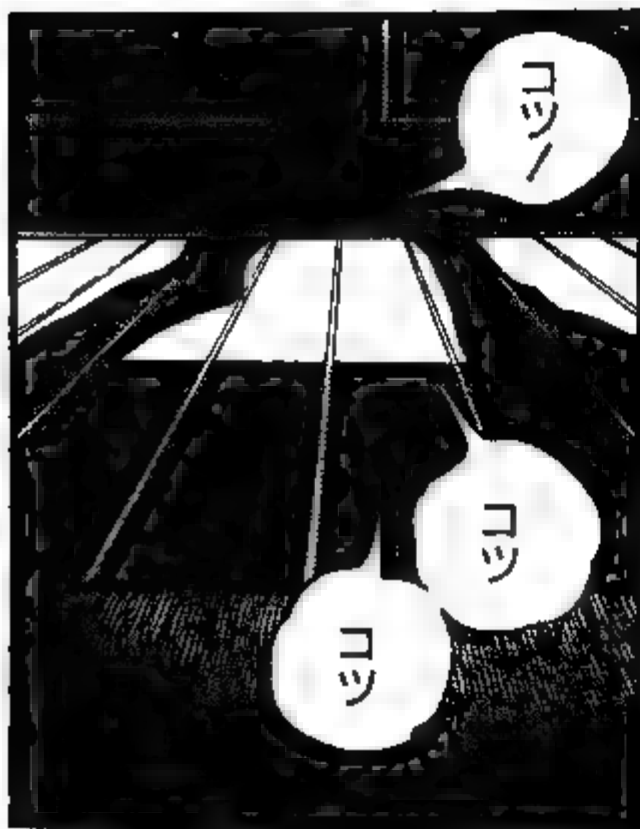
フン
……

「スティールのとこの幼妻」か！
……わたしの妻になりすましていた

だが
さっきより
さらに……
気に入ったぞ

ますますな……
ここで
逃がすわけは
ない

ハアッ！
ハアッ！
ハア！
ハア！

だ……
脱出しなくては
!!

脱出しなくてはッ!!
ハアー ハアー
脱出しなくては!!
何とかしてこの建物から脱出してスティーブンのところへ行かなくてはッ!
窓!?
ハアー ハア
ああああっ!!
ああ…あっ…
うああっ
ハアーッ
ハアーッ
ハアーッ ハアーッ

さっき
あたしの服のポケットから
ころがり落ちた
『右眼球』
……!?
確かに
この部屋の
ドアの下から
ここへ入って行った…
それは
ど・こ・へ・!?

どこへ・・・
行ったのか?
他に「遺体」が
どこかにあるから
それに引き寄せられて
ころがって行った
はずなのに…
あたしには
「逃げる道」が
どこか 教えて
くれるように
思えてならない!
コッ/
コッ
コッ

ピタリ

ハアー
ハアー
ハアーッ

もどって来た！
やっぱりだめだ!!
見つかった!!

ゴゴゴゴゴ
「ルーシー・スティール」……
どういう動機で
わたしのところへ
来て
わたしの妻が
どうなって…
…そんな事は
あとで聞くとして
(ま…どうでもいいがな)
さっきのは
「H・P」のスタンドか？
…おまえには
スタンド能力は
ないはず
そう…
ない！
「肉スプレー」だな？
納得した……
H・Pの指示で
わたしのところへ
侵入したのだな

いいか
わたしが
言いたい事は
ドアを開けろ
とは言わない
これから わたしは
このドアを
ブチ破って
中へ入るが
わたしの前で
決して
「自殺」しようと
するなよ
もし
おまえが
死んだら
一番最初に
おまえの夫を殺す！
…次に
おまえの父親もだ……
必ず始末するぞ……
ゴゴゴゴ
兄弟がいるなら
それも全員だ
この世から
消してやる
うう
!!
ううう
!
ハアハア
ハア
うああ
あああ
……いいな
中へ入るぞ
ルーシー
おまえが
何もしなければ わたしも
何もしない……
…みんなが幸せに
なれるのだ

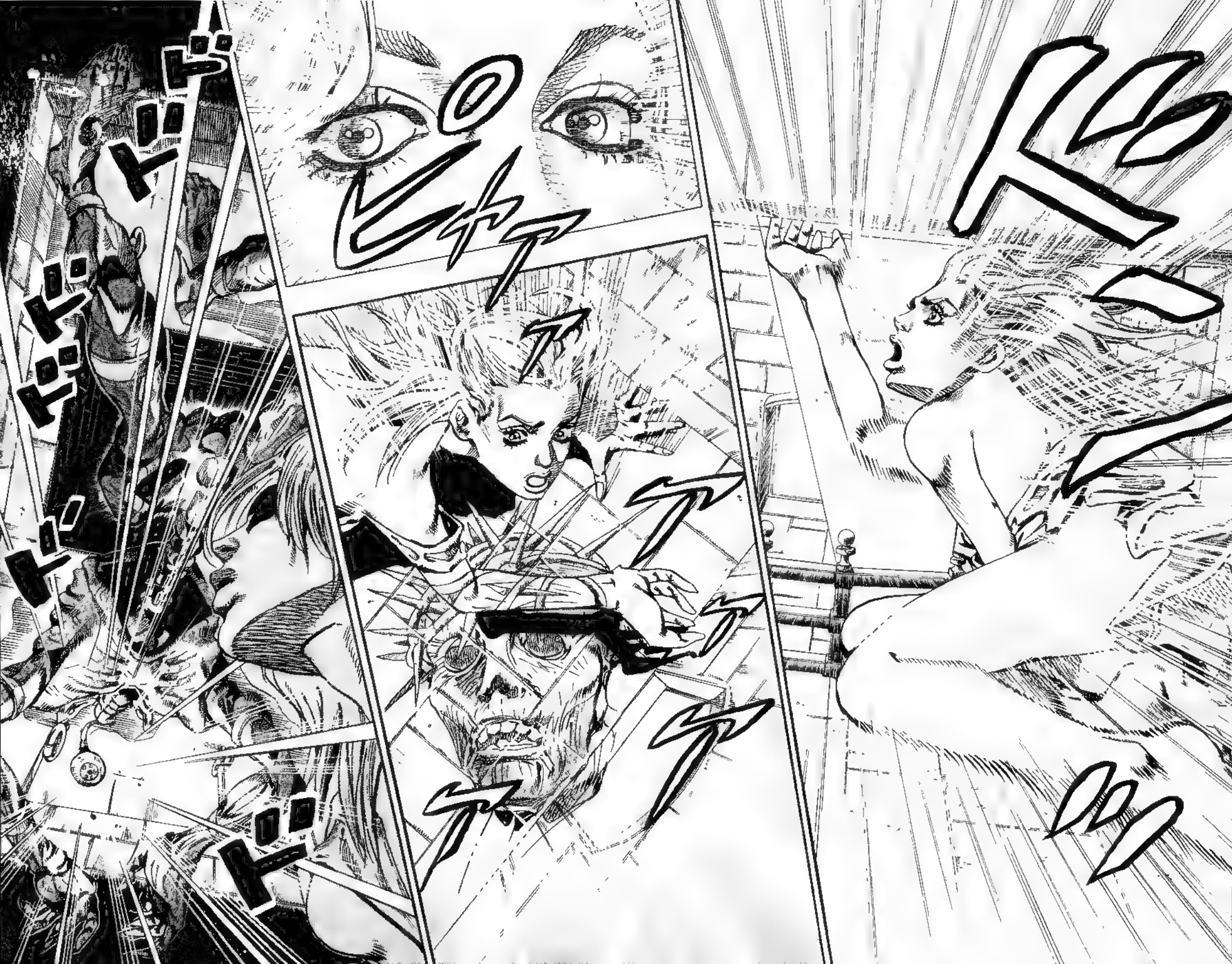
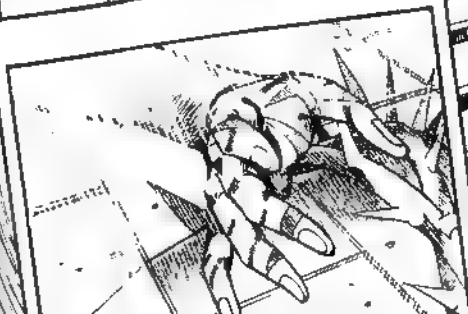
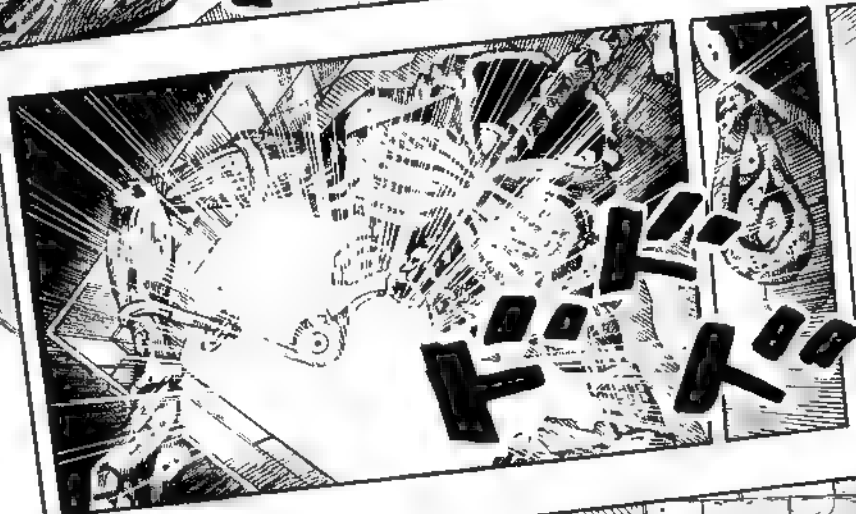
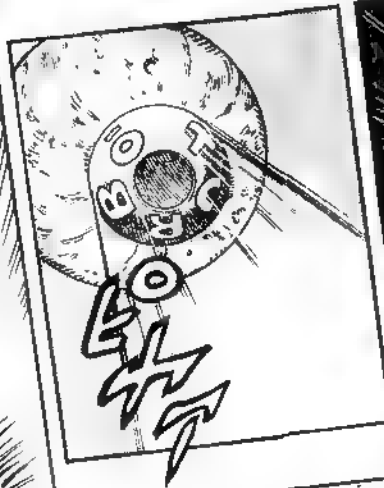
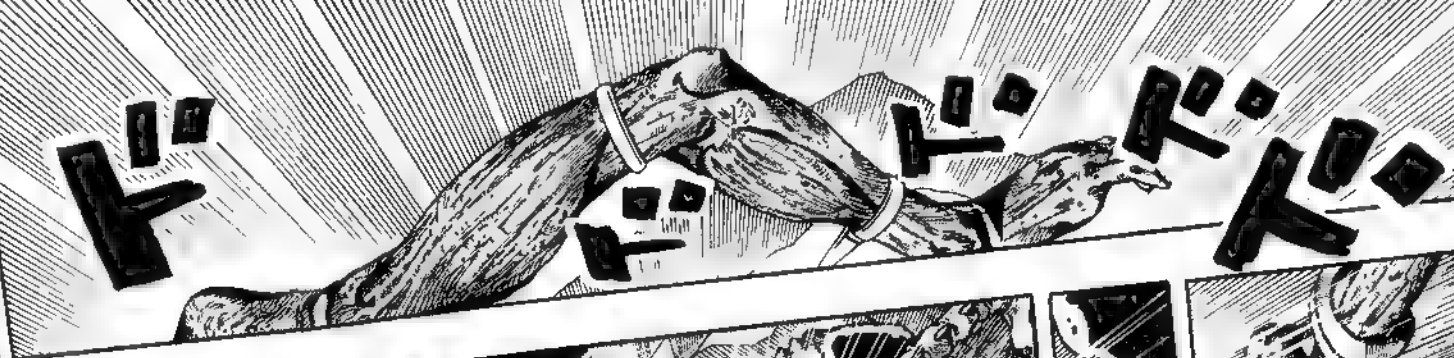
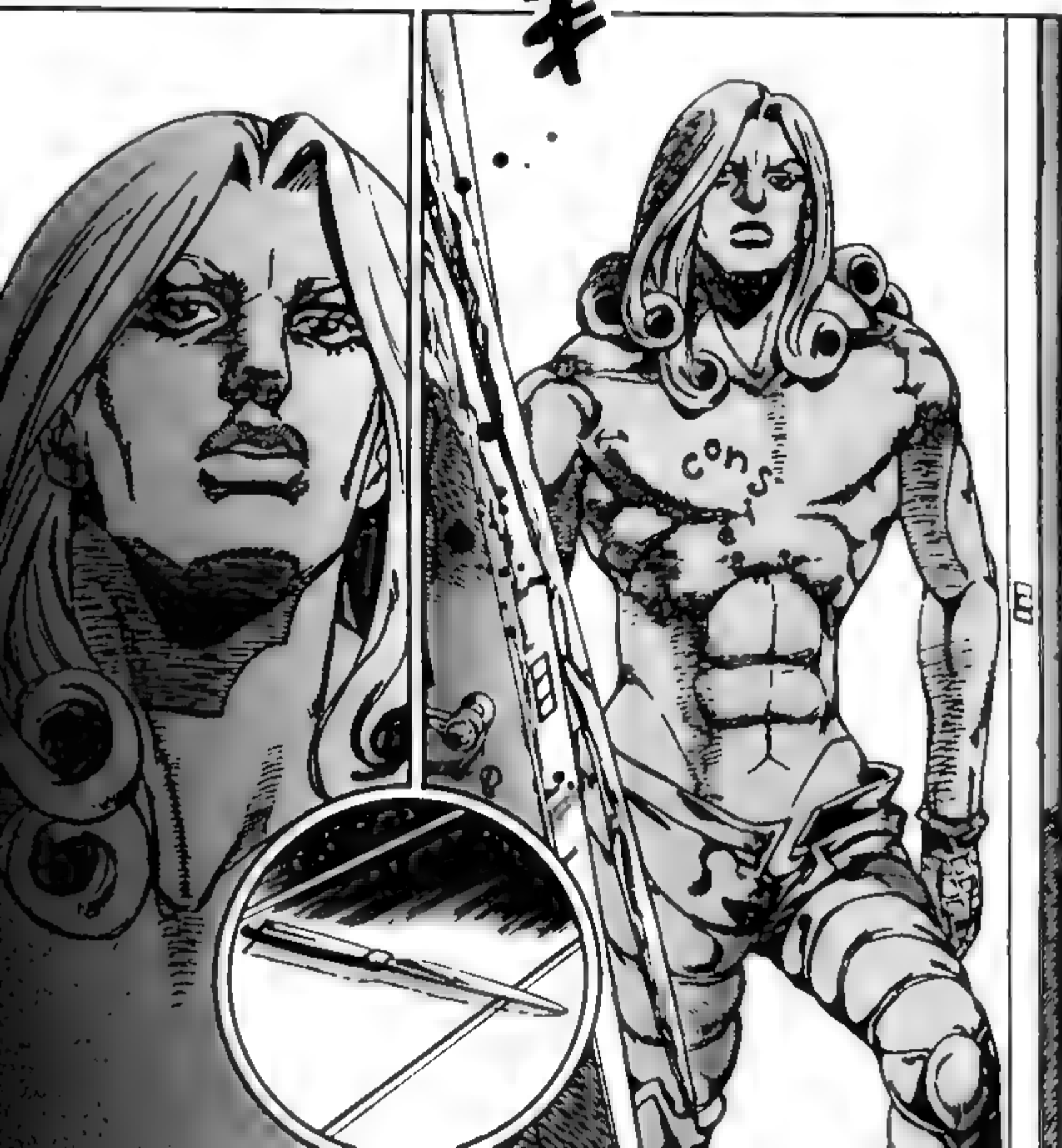
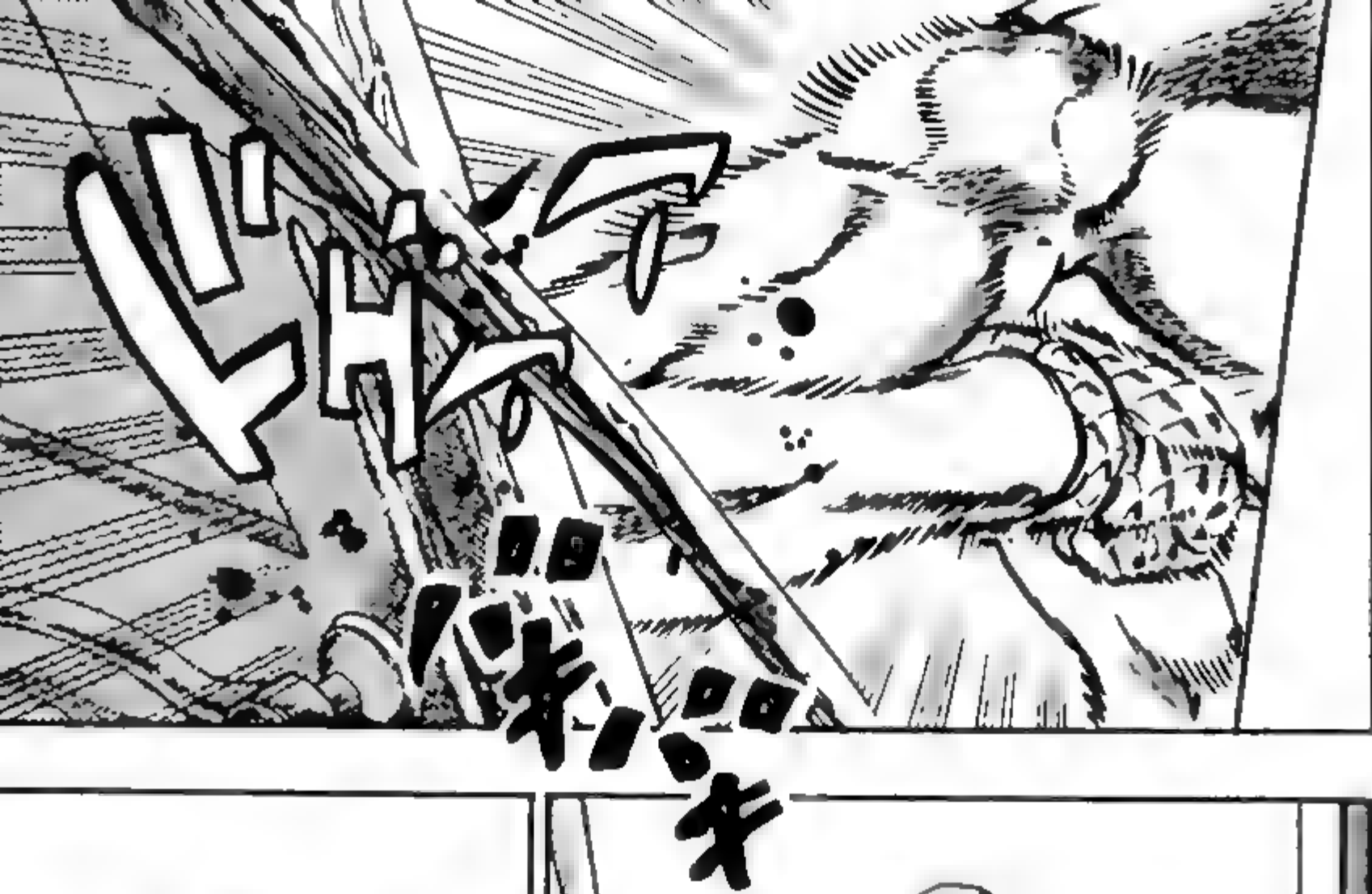
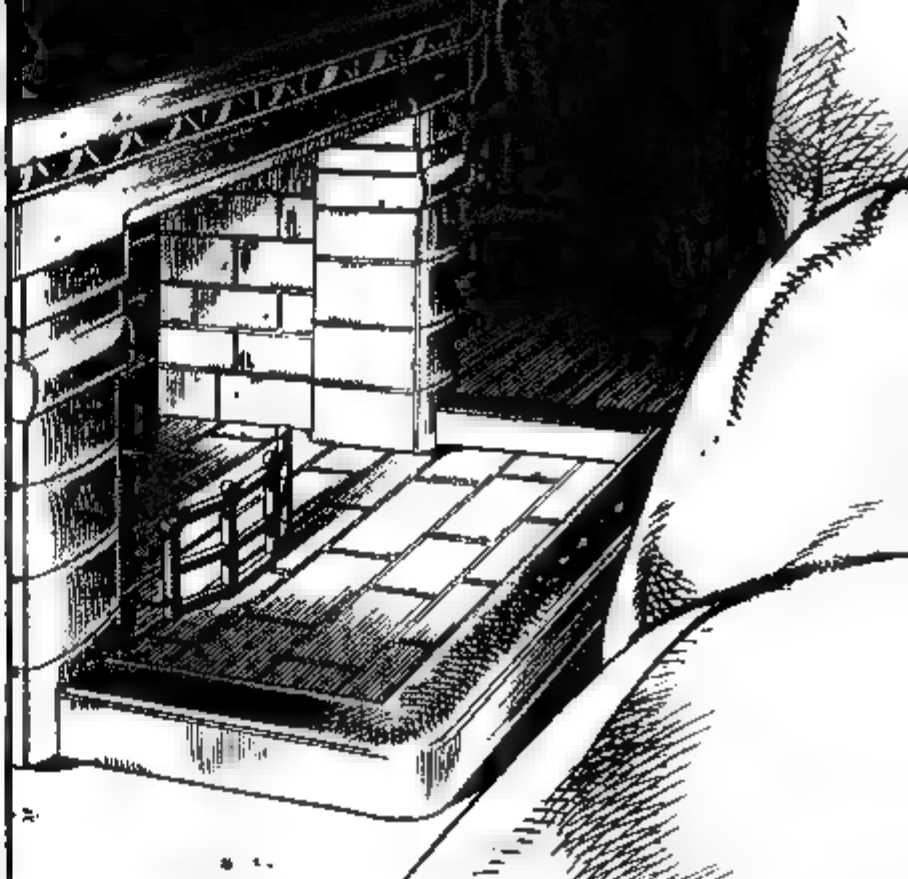
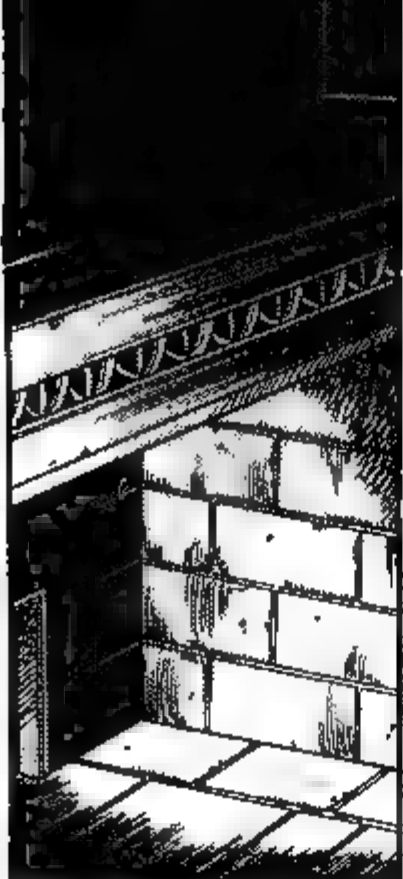
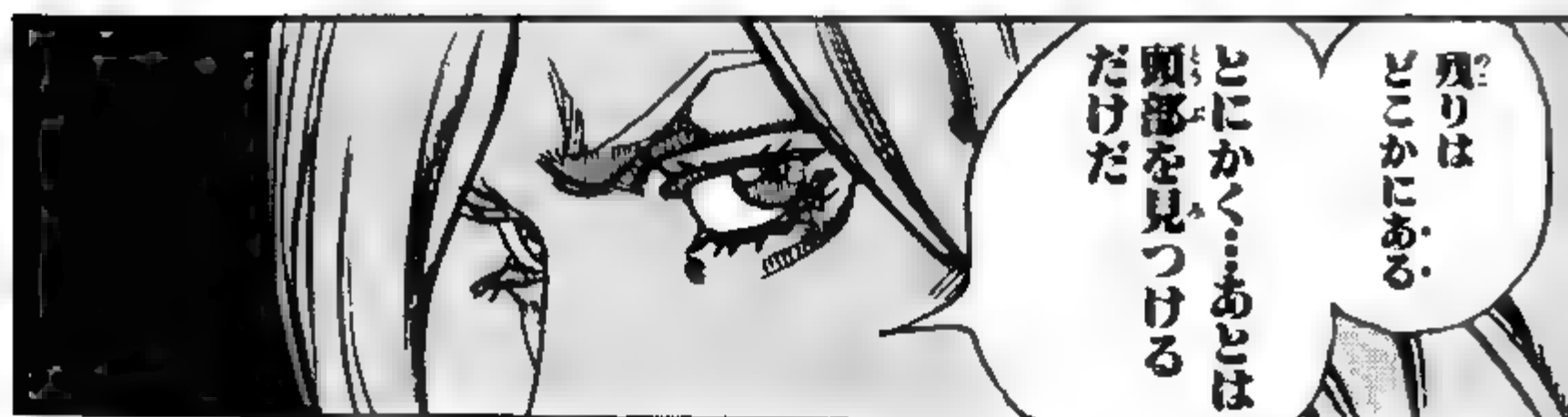
ハッ!!
「暖炉」
!?
でも
ここは暖炉だ
暖炉の奥から光が……
煙突口……
ううっ!!
でも……
行けるわけがない…
こんな狭いところを…
「上」へなんて

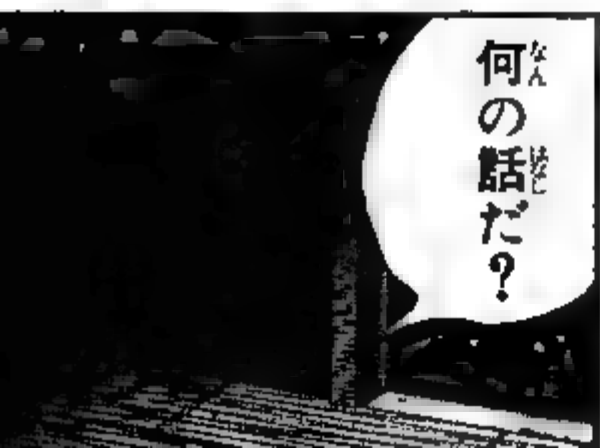
ピキッ
ドドドド

ドドドドドド
ピチャァ
ドドドド
!?
ハァー
ハァハァハァ
これはッ!!
ドドド
ドドドド

ドド
バギ バギ
cons

ハアッ
ハア ハア
……

ハァ
ハァ
ハァ
ハァッ ハァッ
ガタ
ガタガタ
ハァッ

見たのか？
暖炉の中のあの方を…
煙突の下に隠してある
あの方の「遺体」を…
君がそれを知っててわたしのところに雇いに潜入していたのだな
残りはどこかにある
とにかく…あとは頭部を見つけるだけだ
約束どおり…君が何の動機でこうなったのであろうと何もしなければわたしも何もしない……
さっきのテーブルの上での「賭け」は別だが…
君の事をカワイイと思った理由も納得できた
そしてさっきよりも…ますます君に夢中になっている…気に入った…
ハアハアハア
ガタガタ
ハア

そうだ……
そうだった！その下着の残りを脱がして裸にする前に
まず「右眼球部」を渡してもらおうか
君が持ってるはずだ？…どこにある？渡せ！
ジャイロが持ってた「目玉」はどこに隠してある？

ハアハア
ハアハア

あの「煙突の中」に……誰かいるの？
あたしは言われた煙突の中で言われた
ハア──ッ
ハア──ッ
ハアッ
ガタガタ

何の話だ？

ガタ ガタ

光に包まれて「言われた」……

「光」がしゃべった

ガタ ガタ

あたしに「産んでもらう」と言われた

あなたにじゃあない…大統領…これは必然だと言われた

ルーシー・スティール！ わたしは「眼球」の話をしているのだ どこに隠してある!?

すぐに わたしに「眼球」を渡せッ！

煙突の中で あたしは 光の中に包まれたッ！

どこだ!? よこせッ!!

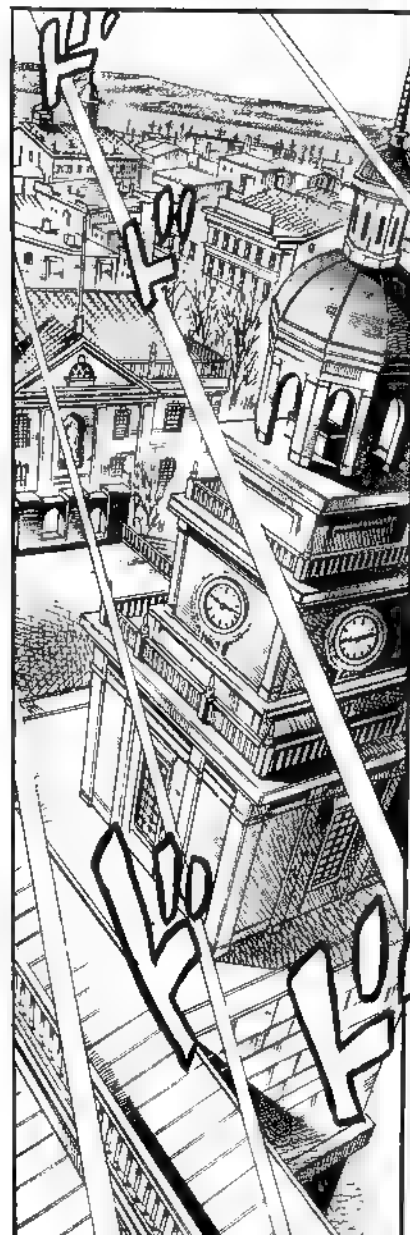
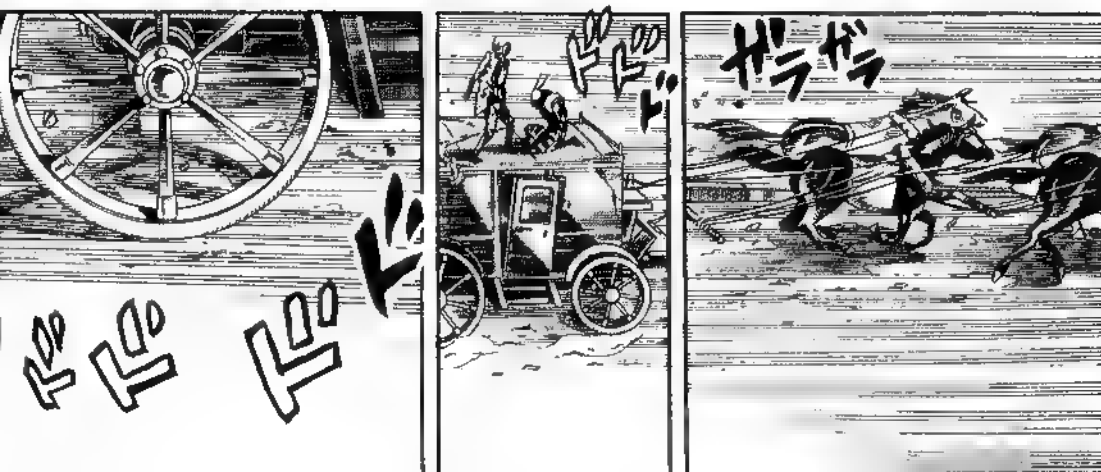
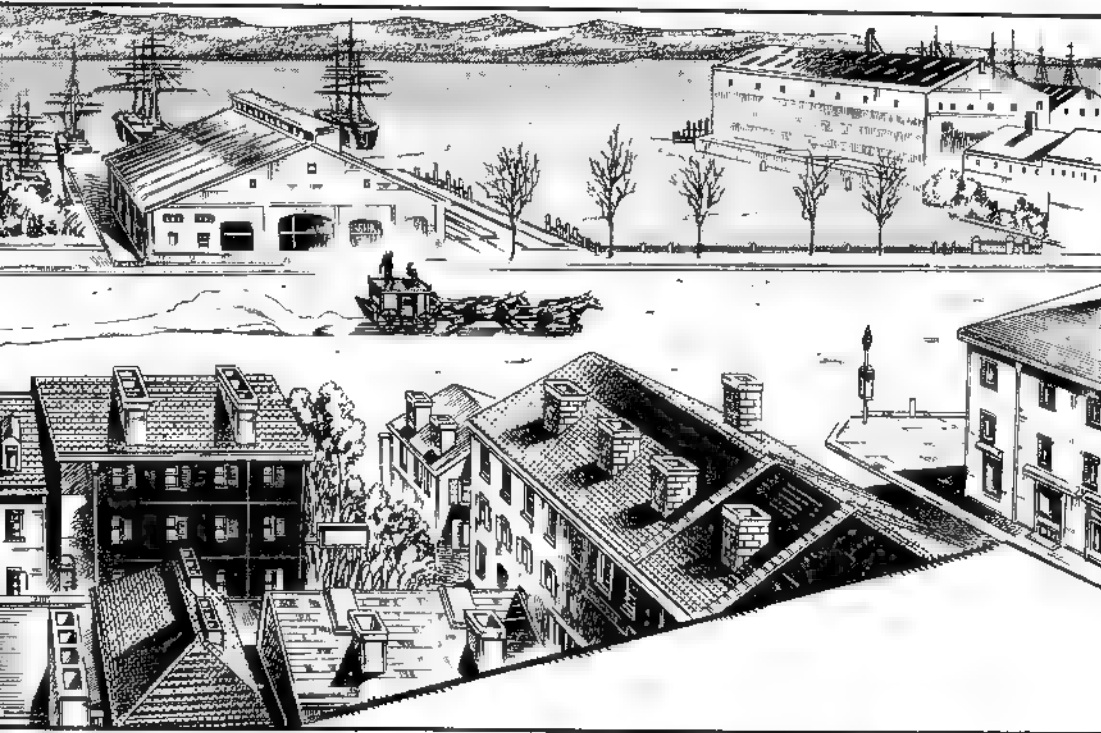
ドドド
ドドッ
ドド
ドドド

「懐胎」したという事かッ！
たった今!!

ドドドドド

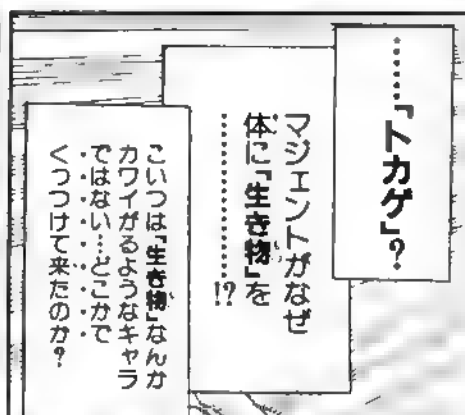
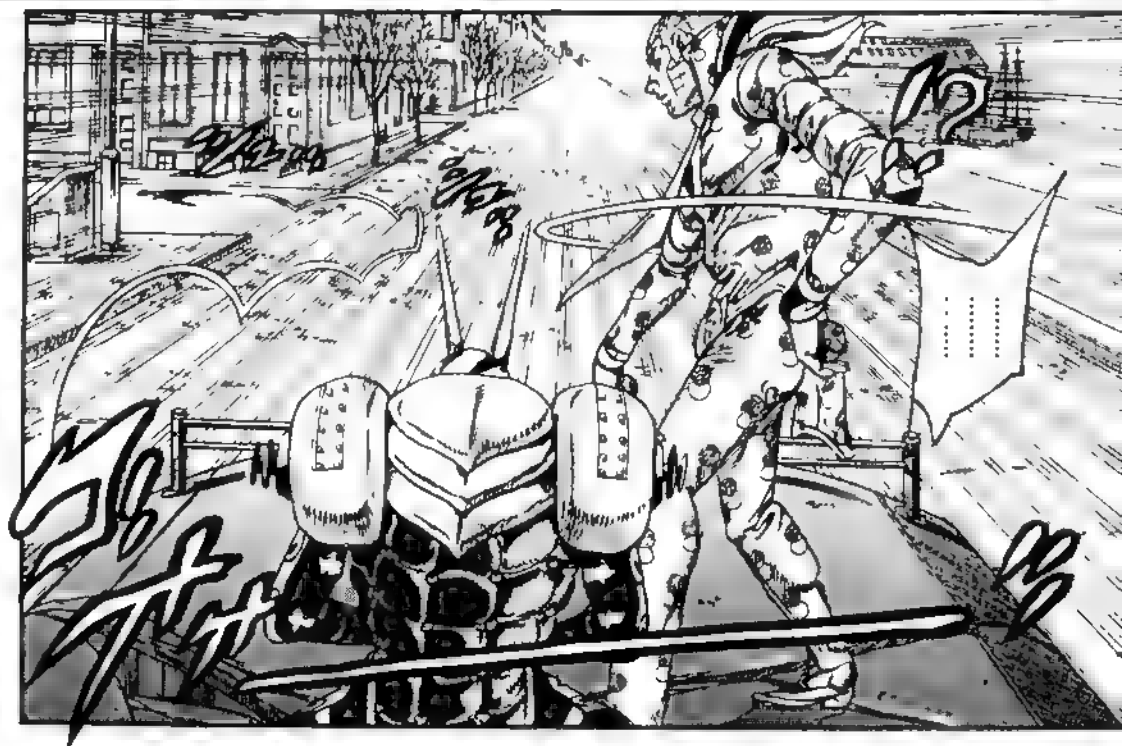
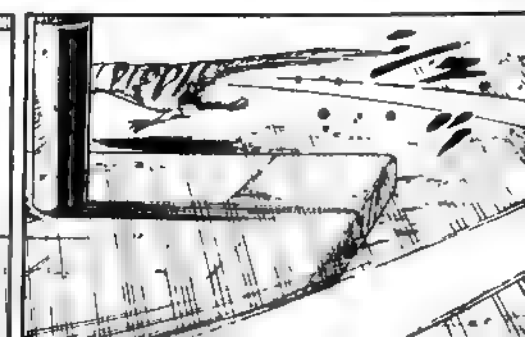
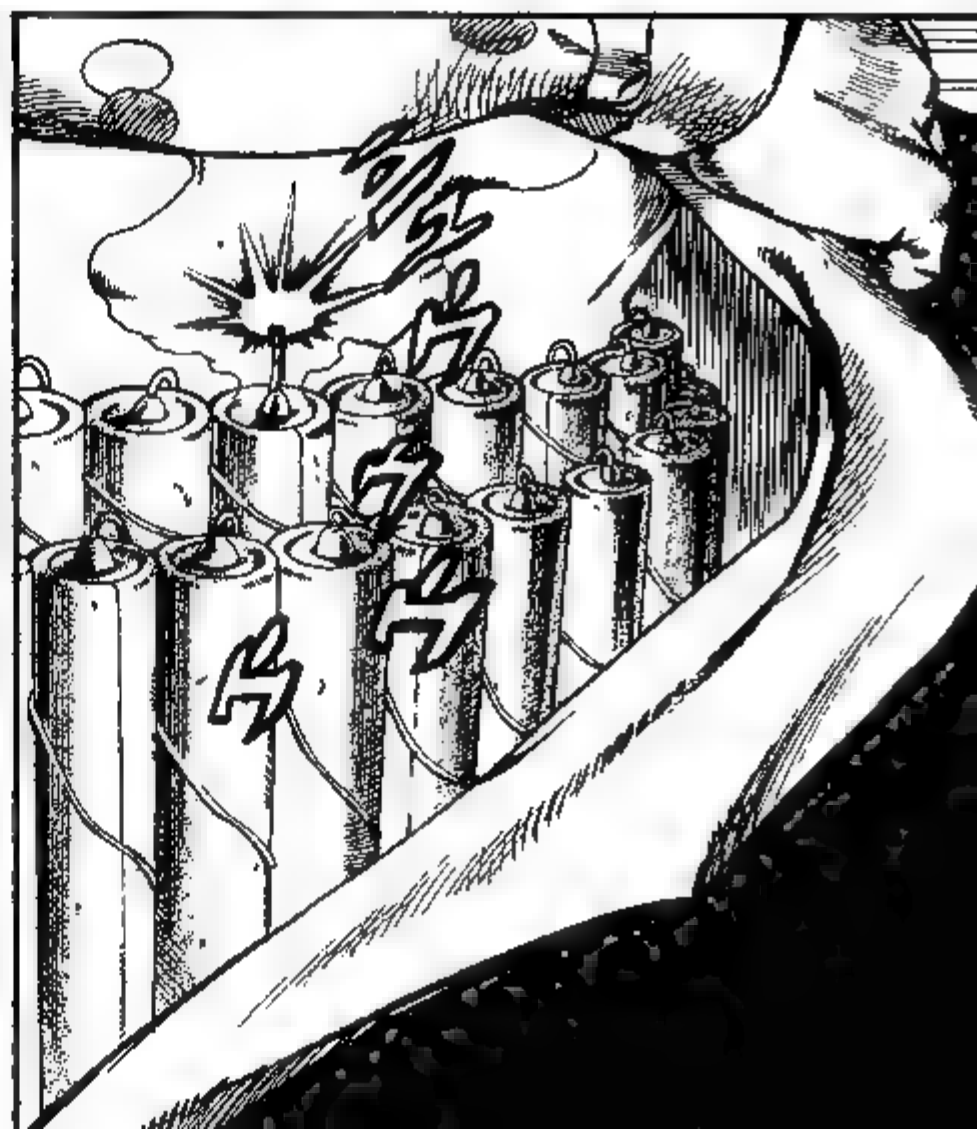
う…
産まれて
完結

ドドド
ドドドドド
ドドドド
ドドドド
ドド
ドドドド
ドドド
ガラガラ
ドドドド

この「マジェント」を始末するには……

こいつ自身が「スタンドを解除して動き出した」瞬間のみ……!!
それは問題なくこれからやれる!
問題は「ルーシー・スティール」だ
現在大統領のいる独立宣言庁舎で「夫人」に化けている
…それが事実なら…
逆に言うなら
ルーシーの正体がばれずに大統領のそばにいれれば

ジャイロたちが
求めている
「遺体」の回収の
可能性も大きくなる
しかし！とはいえ！
オレの目的は
ルーシーの護衛だ
……一刻も早く彼女を
救い出しに向かわなくては……!!
彼女の「正体」はすでに
バレ始めている！
少なくとも
この「マジェント」には
知られて
しまったんだからな
ミスター・
スティーールッ！
聞こえるかッ!!?
これから相当
荒っぽい事が起こるが
覚悟してくれッ！
しかし必ず助けるッ!!

……

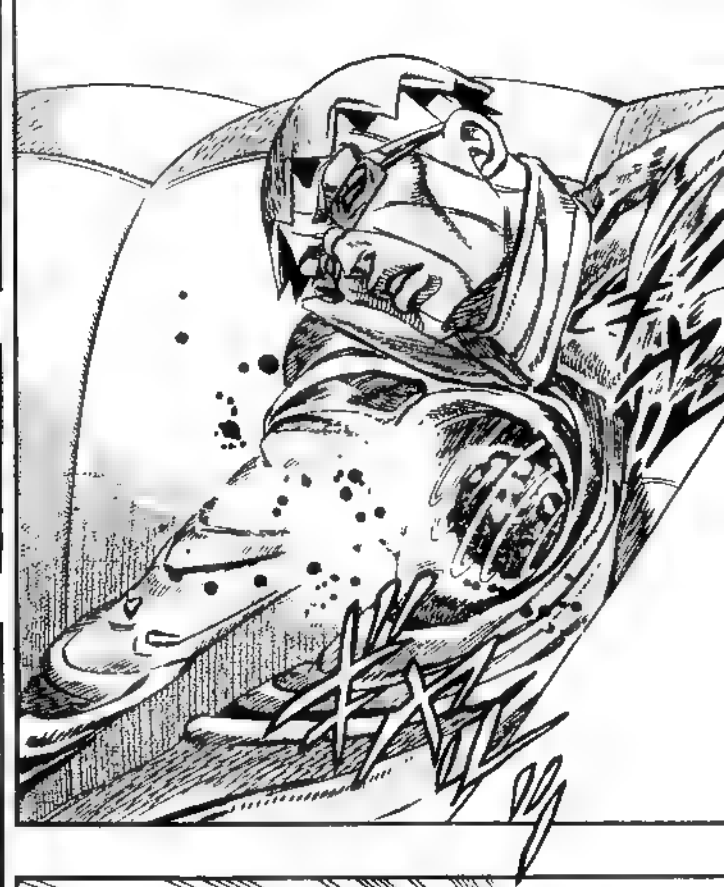
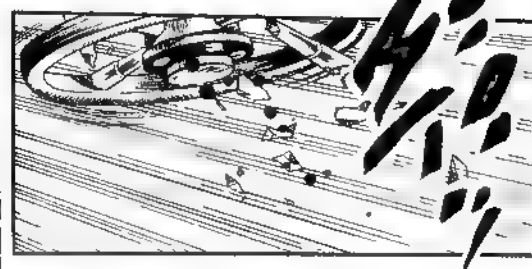
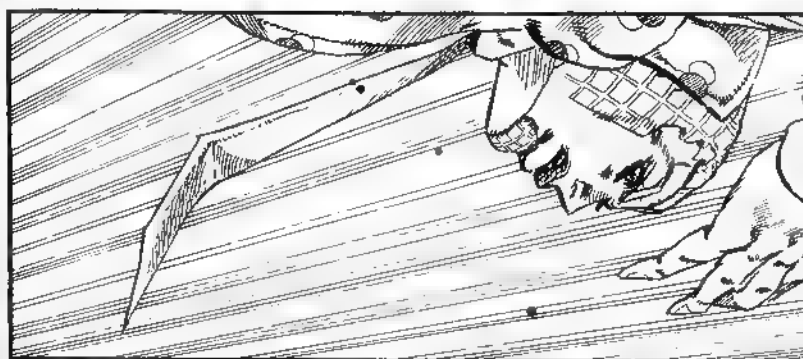
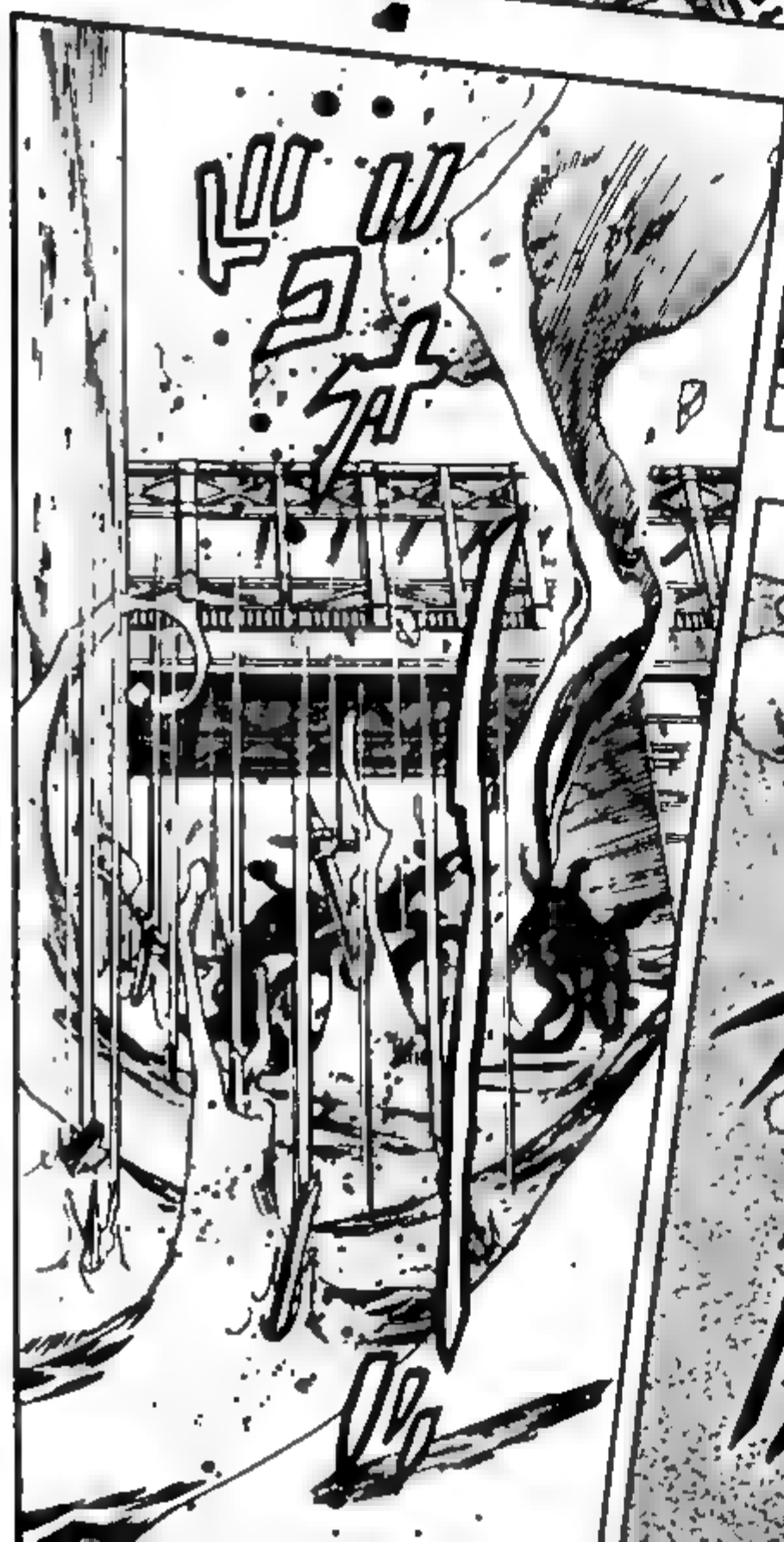
今のは…何だ？
マジェントの衣服の腰あたりから 何かが飛び出した…

……「トカゲ」？
マジェントがなぜ体に「生き物」を……!?
こいつは「生き物」なんかカワイがるようなキャラではない…どこかでくっつけて来たのか？
そしてなぜ…今この状況で「体」から離れて行ったのだ？
はッ!!

少なめの脳ミソで良く考えたな
やるじゃあないか…マジェント

…『ダイナマイト』しまった!!
さっきすでに『点火』してからスタンド化したのか…
ミスター・スティール衝撃がいくぞッこらえろオォーーー!!
ドドドドドドドドド
ドドドド
ドヒュウウウウ
ドゴォーーーーン
ドバァアアーーーー

『硬質化』そして『左半身失調』
馬たちは「左側」を認識しない

ビッガァァァァ

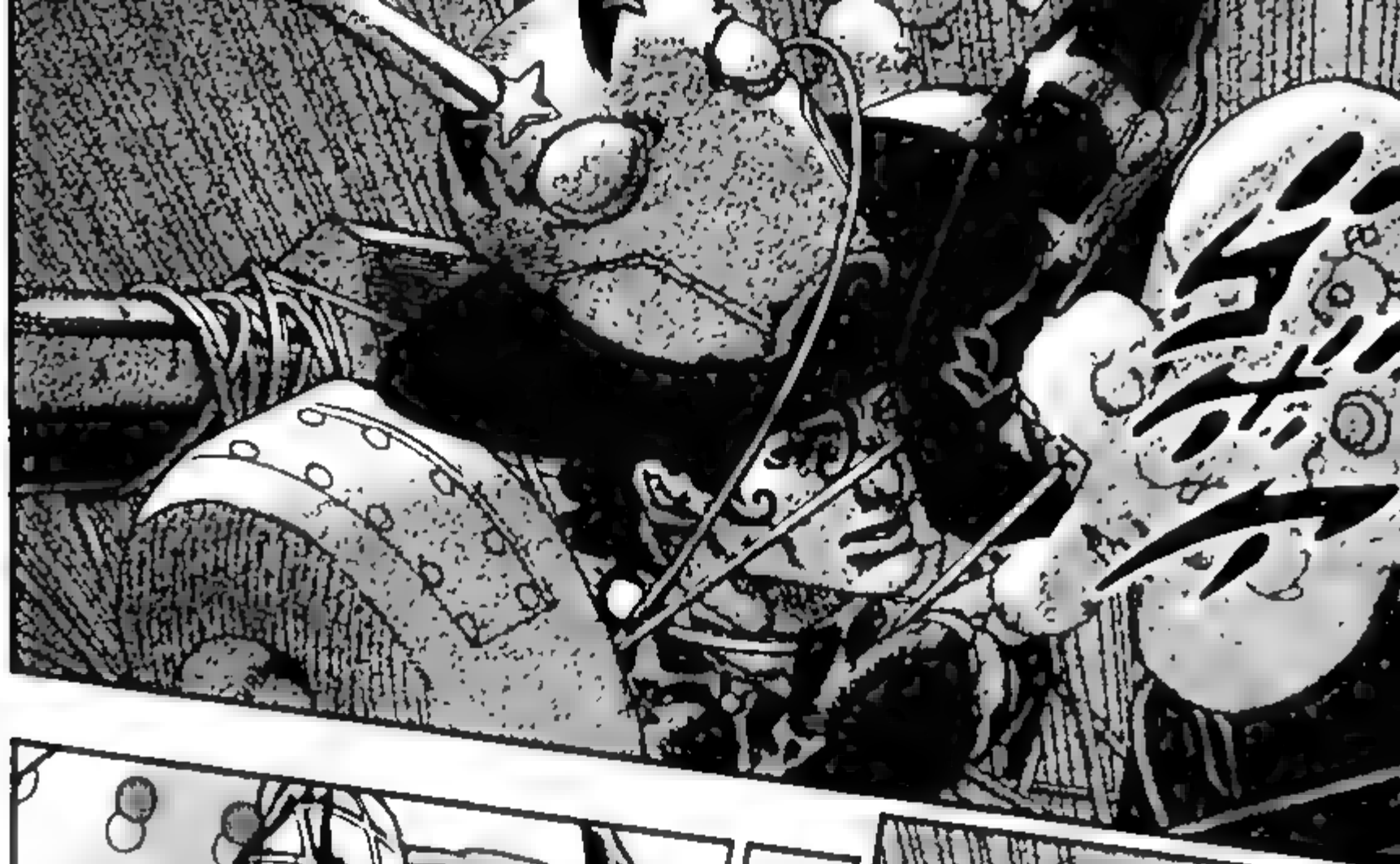
ドスドスッ!
ドスッ!
ドスッ!
うぐっう!!
ドドドドドドドドド
ドゴオオ
ドッ

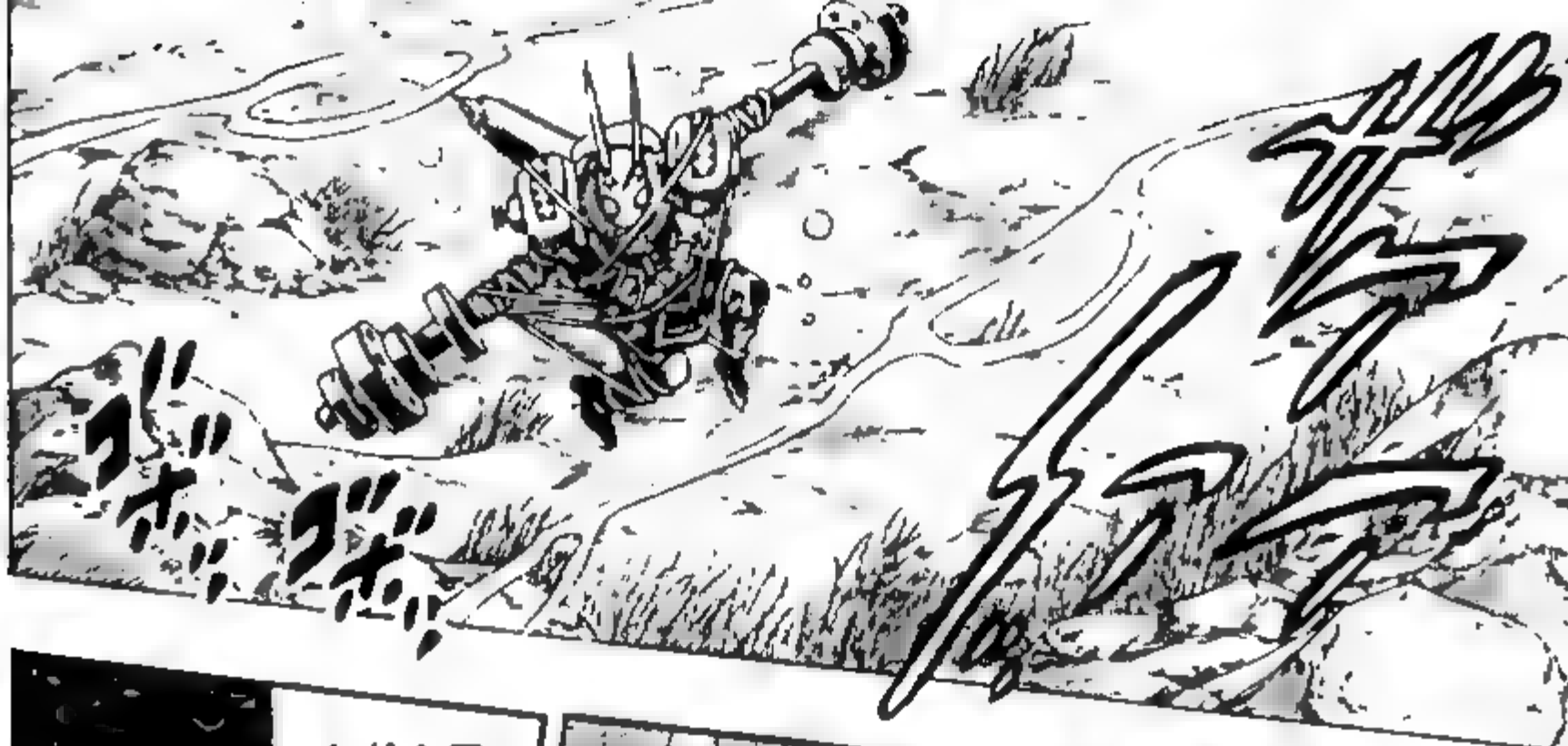
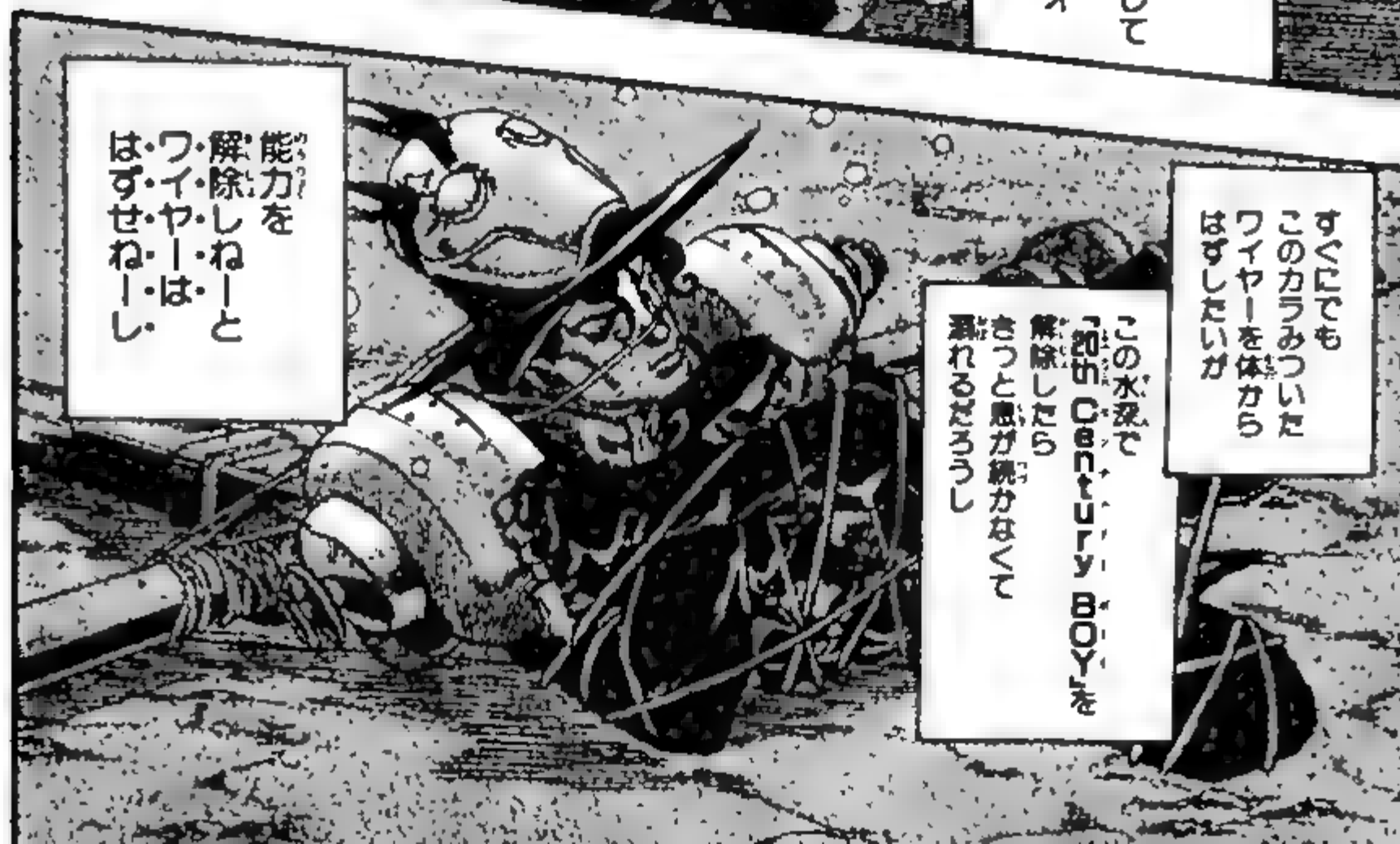
ドゴバァァ
ガオオ
オオ
ドドドドドド

パチリ
ウぐ
ガボッ
ゴボッ
ウエカピポさんよォォ――
出会った時から上から目線で人の事小バカにしやがって…
あんたの事好きだったこともあんのによォ
ナメてんじゃあねーぞッ!

ドドド
ドシュ
…………
うっ
オレは「恨みを晴らす」と決めたら「必ず晴らす」
まず片っぽの目をえぐってからだオレがされたのと同じ様によォォ――
ガバ
今のは2センチ左へそれたがな！

オレの様な人間をクズ扱いしやがってッ！
失うものがねえ人間が一番恐ろしいって事を思い知るがいいぜ！オリコーさんよォォォォォォォォォ
!!

なっ!!
ガッ!
なッ!
!!
何だ?
車軸のワイヤーを…
あれはウェカピポの!馬の方に投げた…「鉄球」!

まずい!!
呼吸がッ!
『20th Century BOYッ!』

「自爆」のアイデアまでは真に恐怖を感じたよ マジェント……
だが相変わらず何度も同じ事を言わせるやつだ
氷の海峡での時も言ったはずだぞ………
確実にふるまって「さっさととどめを刺せ」と……

ジュアァ
たとえ呼吸ができない水中でも
一度防御の態勢をとったおまえを倒せる者はこの世には存在しないというのにな……
待てよ………
さっきのアレは…マジェントの衣服から逃げたトカゲ…
トカゲじゃあない!!
まさかッ!あれはッ!
……小さいが…
『恐竜』なのでは…!!
ルーシーの事をDioに聞かれた!!

くそ…
必ず！だ！
必ず また舞い戻って この恨み晴らしてやるからな ウェカピポよォ～～～
でも そうだな……どうしようか……？
すぐにでも このカラみついた ワイヤーを体から はずしたいが
この水際で『20th Century BOY』を解除したら きっと息が続かなくて 溺れるだろうし
能力を解除しねーと ワイヤーは は・ず・せ・ね・ー・し

う…う〰〰〰む
くそ……どうする？
そうだ…
きっと「彼」が
来てくれる
氷の海峡の
時は　たまたま
「彼」が通りかかって　オレを助けてくれた…
きっと「オレ」と「彼」は運命の糸で
結ばれているから出会ったんだ
「大統領夫人」の
「正体」が
ルーシー・スティール
だって
つきとめて知ってるのも
このオレだけだ
ウェカピポも知っちゃあいない！
それを「彼」に教えれば
「D－O」は
きっとオレの事を
好きになってくれる
「スティールを
調べろ」と
言うだのも「D－O」だ！
だから今頃　オレの事を
心配してるはずだ
早く
「D－O」が助けに来て
くれないかな……
もうすぐ来てくれる…
会いたいな……
もうちょっと待ってみよう

ドドドドドド
ドド
ド
ドドドド
ドド

ドドドド
ニューヨーク
マンハッタン
フィラデルフィア
ドドド
ドドド
デラウェア河の川底の水は
いつまで経っても同じ様に流れ……
そのうち「マジェント・マジェント」は
待つ事と
考える事を
やめた

#63
7日で一週間

ところでジョニィ
今いちパクリっぽいんではあるんだがよォ～～～
一コ「ギャグ」思いついた

…………

タイトル……「これがオレの一週間」
「月曜日」からァ「日曜日」までの「曜日」をイタリア語でいいます
ただしィ――
「水曜日」にバカになって「木曜日」にエスプレッソコーヒーをいれてェ

「金曜日」にスプーンで砂糖かきまぜてェ「土曜日」に飲み干します
「日曜日」は安息日です
じゃあさっそくいくぜ

『ルネディ』月曜日! Lunedi
答．月曜日 Lunedi

『マルテディ』火曜日 Martedi
答．火曜日 Martedi

メェ――ェ…なんだっけ忘れたァァワハハハハハハハハハハハッ!
答．水曜日 Mercoledi

なんだっけ
なんだっけエエ
ヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘヘ
コポ コポ
答 木曜日
Giovedi

えっとなんだっけエエ
ヘヘ
グルン
グル
答 金曜日
Venerdi

ぜんぜん
忘れたァァ
ワハハ
答 土曜日
Sabato

『ドメニカ』
日曜日
答 日曜日
Domenica

いいーー
ねエーー

幸せそーな一週間なんだっていう…時間の概念がない所がとてもいい！

すごくいいよ！超イケてる

だろッ！

ネタをメモし終えたなら旅を続けるぜ

16 いともたやすく行われる えげつない行為(完)